

河川環境指標設定にあたってのアンケート調査結果

1 調査目的

県では、平成20年度から県民の皆様に参加していただき、川の再生に向けた県民運動を進めています。現在河川水質評価の代表的指標として使用しているBOD(生物化学的酸素要求量)は、わかりづらく水質改善の実感がわからないなど、県民にとって河川浄化活動の成果が感じづらい指標となっています。

このため、県では、平成23年度から県民の皆様が河川浄化活動の成果を実感をもって受け止めていただけるよう、五感による河川環境指標の設定について検討を始めることとしました。

そこで、河川環境指標の設定に生かすため、彩の国水すましくラブ登録団体に御意見を伺うための、アンケート調査を実施しました。

2 調査形態

(1) 調査時期

平成23年5月13日(金)から5月31日(火)

(2) 調査方法

郵送による回答

(3) 調査対象数

彩の国水すましくラブ登録 235団体(平成23年5月1日現在登録団体)

(4) 回答率

55.3% (回答数 130 団体)

3 調査結果

調査結果は、「県全体の結果」と「河川法に基づき策定した河川整備計画[※]のブロック区割ごとの結果」について取りまとめました。

調査結果の取りまとめでは、河川整備計画のブロック区割を下記のように便宜的にA～Fブロックと表記します。

網掛けの部分については、県の河川整備計画の対象外ですが、この地域で活動している団体については、Cブロックで集計しています。

また、谷田川ブロックは、今後河川整備計画を策定予定ですので、Fブロックで集計しています。

※「河川整備計画」: 河川法に基づいて、河川管理者が河川の整備や管理における具体的な目標や内容を定めたものです。埼玉県では、平成18年に県が管理する河川を分割して、それぞれのブロックごとに河川整備計画を策定しています。



(1) 河川の現状評価

彩の国水すましクラブ登録団体が日ごろ河川浄化活動を実施している河川環境をどのように感じているかを調査し、取りまとめました。

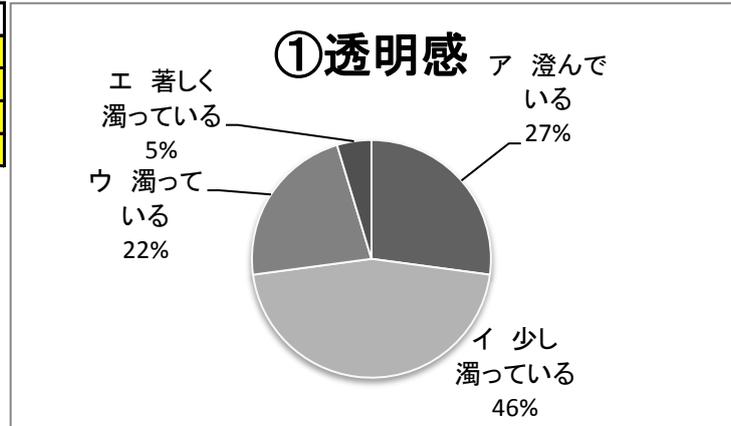
1 見る(1)川の水

①透明感

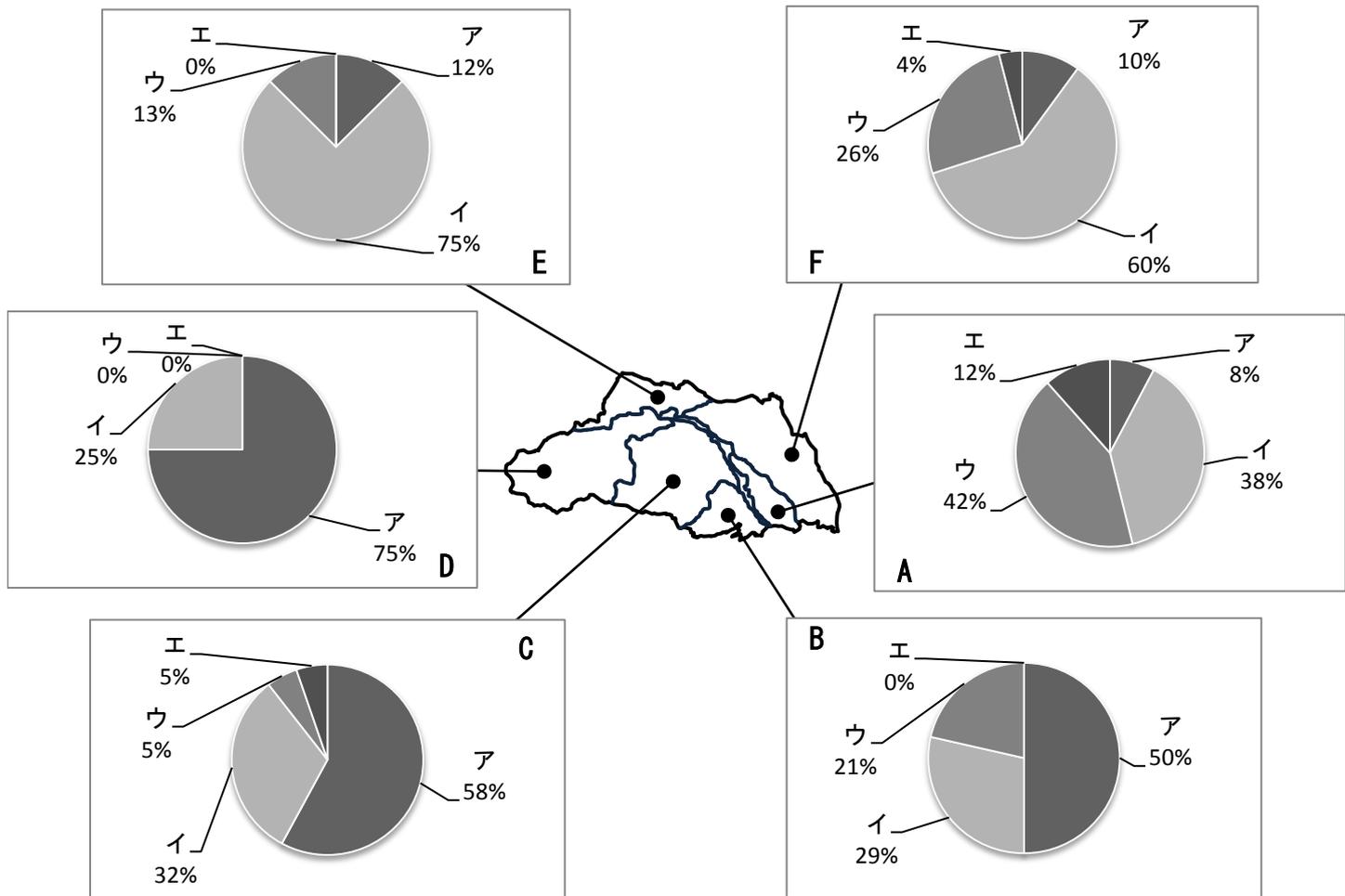
→「少し濁っている」が約4割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①透明感	ア 澄んでいる	35
	イ 少し濁っている	59
	ウ 濁っている	29
	エ 著しく濁っている	6



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

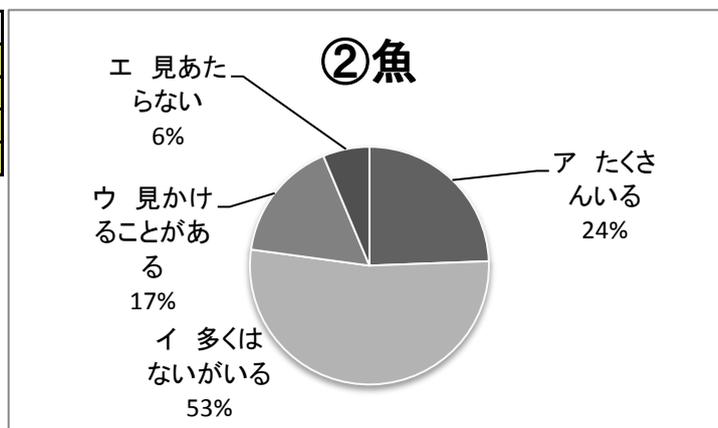


B～Dブロックは「澄んでいる」とした割合が高く(約40～75%)、E及びFブロックは「少し濁っている」とした割合が高く(約55～75%)、Aブロックは「濁っている」とした割合が高かった(約40%)。

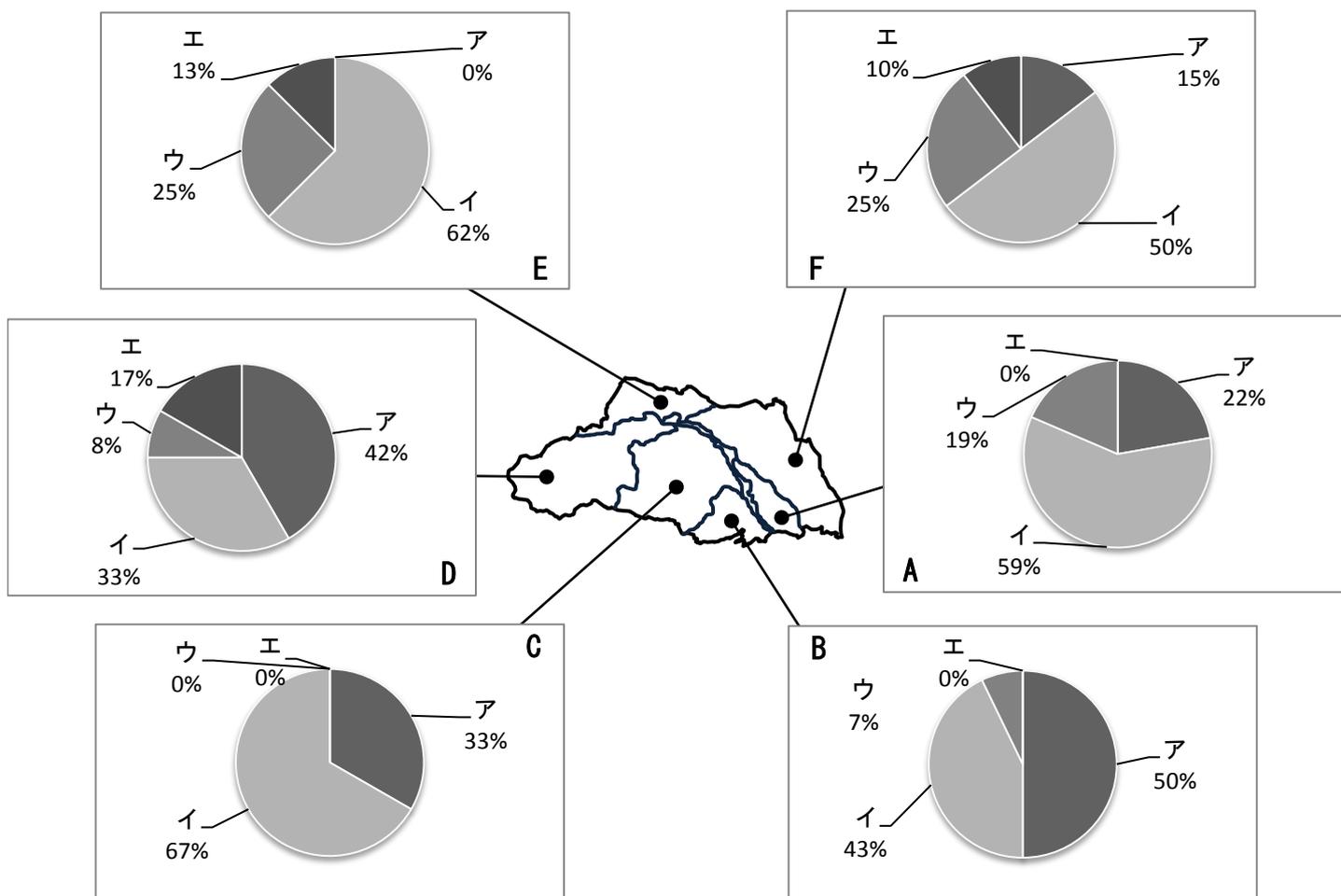
②魚
→「多くはないがいる」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
②魚	ア たくさんいる	31
	イ 多くはないがいる	67
	ウ 見かけることがある	21
	エ 見あたらない	8



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

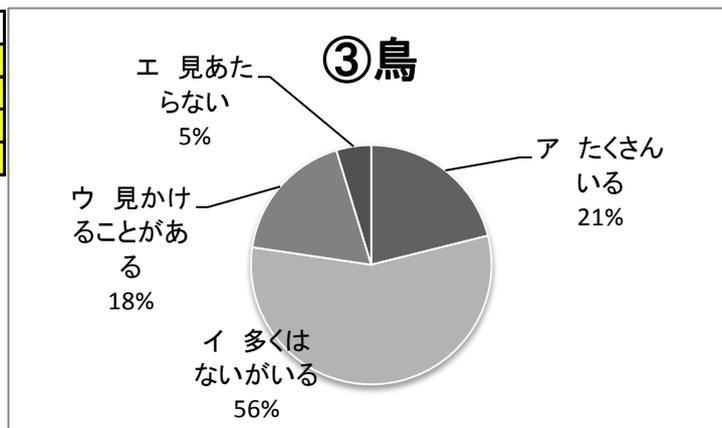


B及びDブロックは「たくさんいる」とした割合が高く(約40～55%)、その他のブロックは「多くはないがいる」とした割合が高かった(約55～65%)。

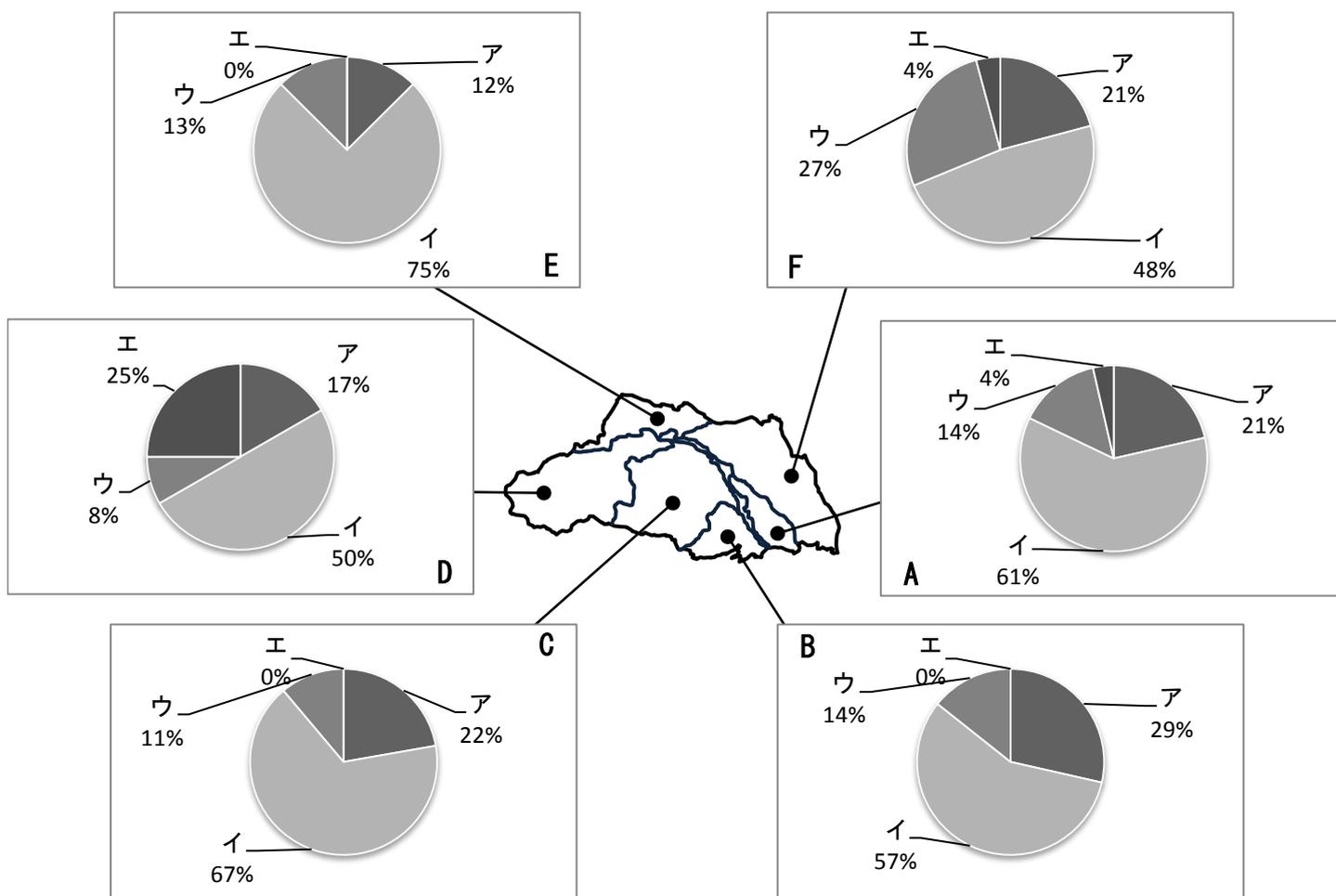
③鳥
→「多くはないがいる」が約6割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
③鳥	ア たくさんいる	27
	イ 多くはないがいる	72
	ウ 見かけることがある	23
	エ 見あたらない	6



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

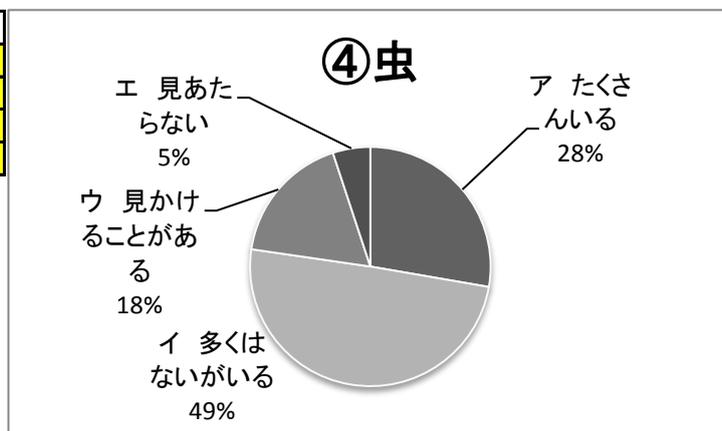


ほぼ全てのブロックにおいて「多くはないがいる」とした割合が高かった(約50～75%)。

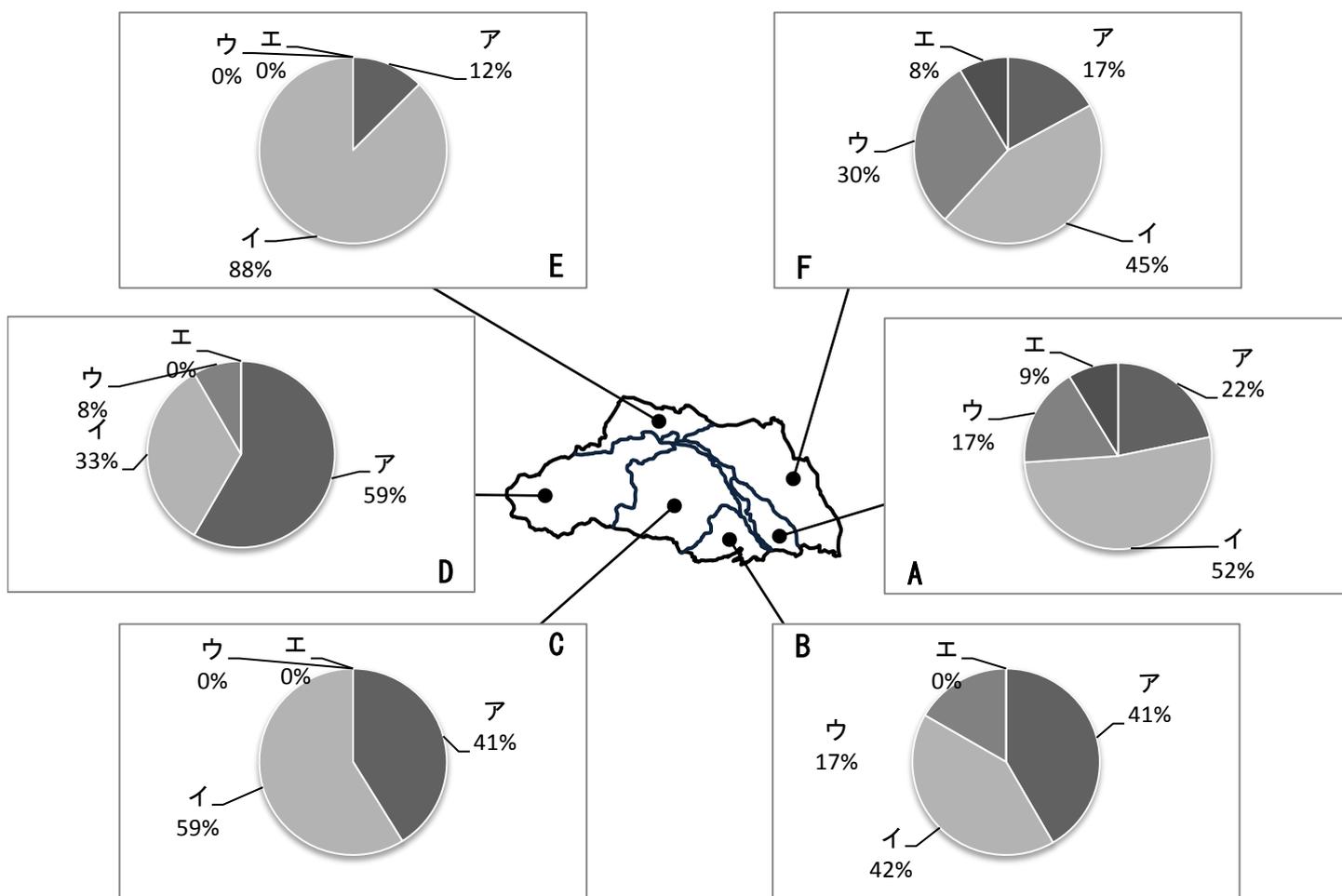
④虫
→「多くはないがいる」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
④虫	ア たくさんいる	33
	イ 多くはないがいる	59
	ウ 見かけることがある	21
	エ 見あたらない	6



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

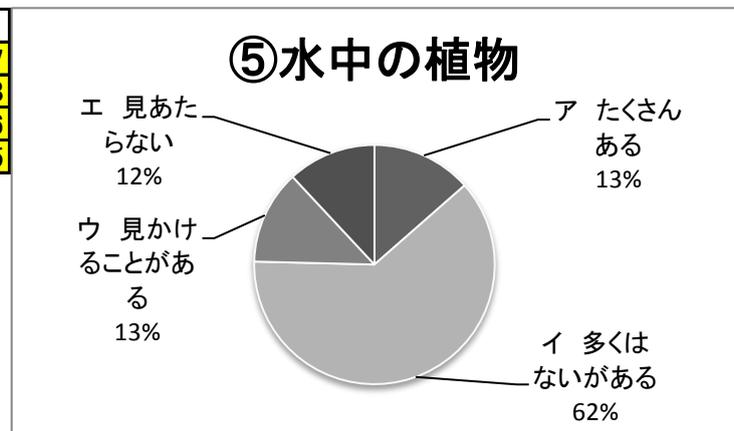


B及びDブロックは「たくさんいる」とした割合が高く(約45~60%)、その他のブロックは「多くはないがいる」とした割合が高かった(約50~90%)。

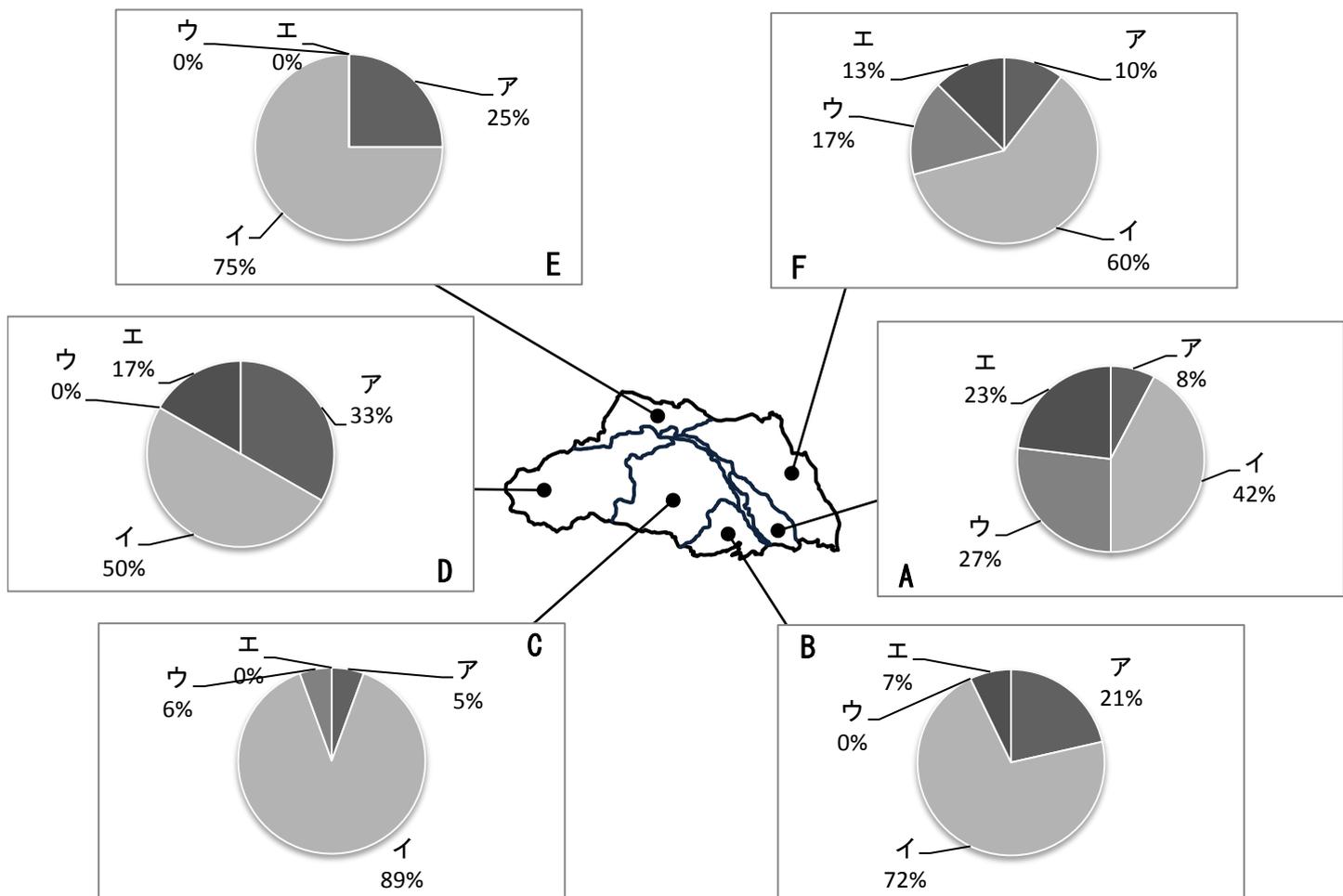
⑤水中の植物
→「多くはないがある」が約6割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
⑤水中の植物	ア たくさんある	17
	イ 多くはないがある	78
	ウ 見かけることがある	16
	エ 見あたらない	15



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

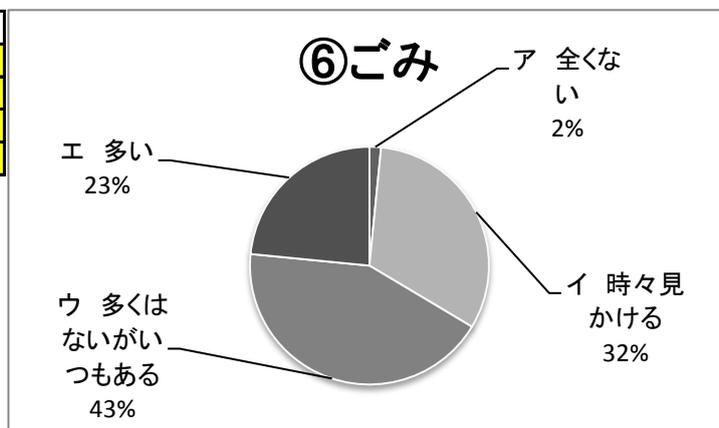


全てのブロックで「多くはないがある」とした割合が高かった(約40~90%)。

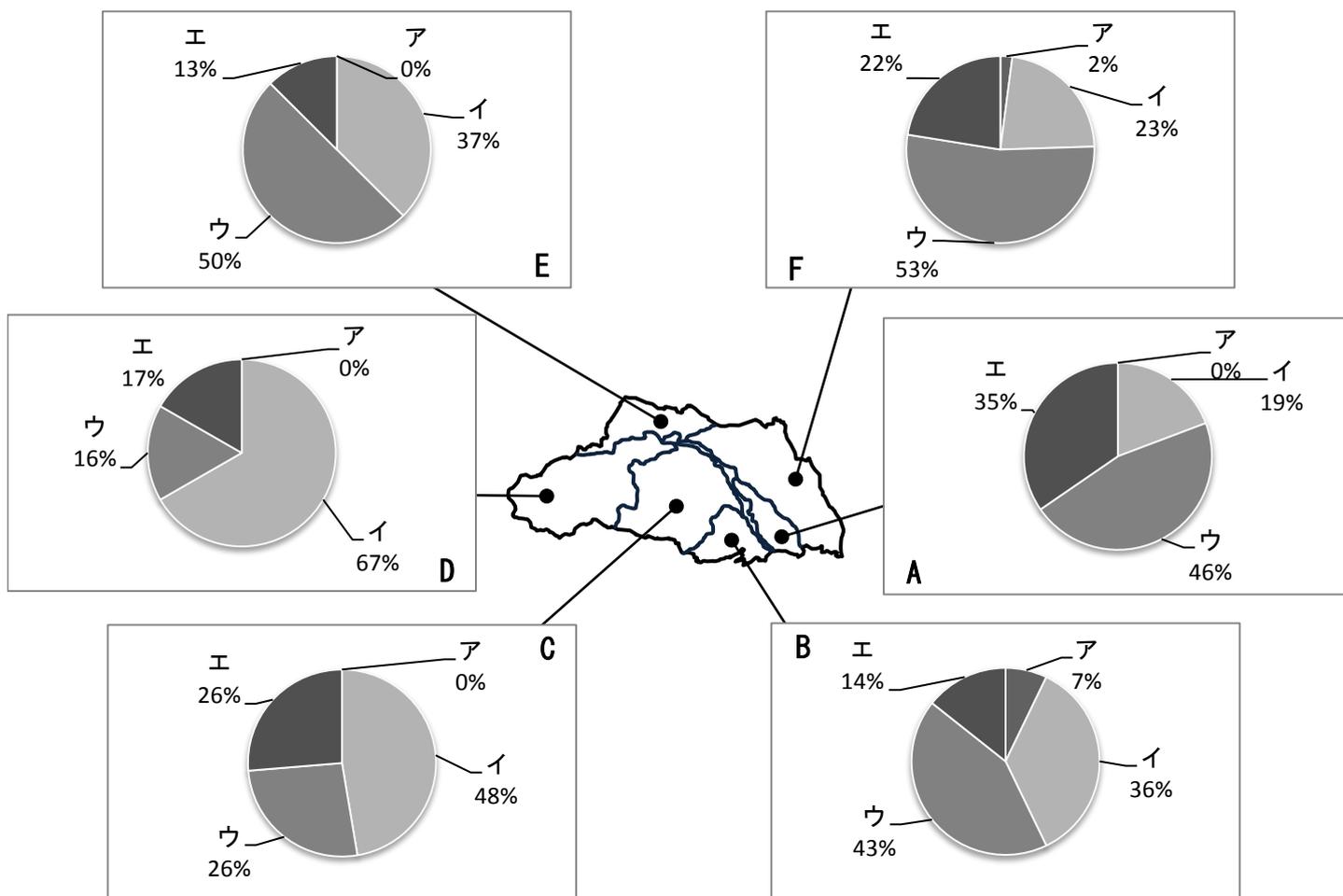
⑥ごみ
→「多くはないがいつもある」が約5割、「全くない」は0

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
⑥ごみ	ア 全くない	2
	イ 時々見かける	41
	ウ 多くはないがいつもある	55
	エ 多い	30



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

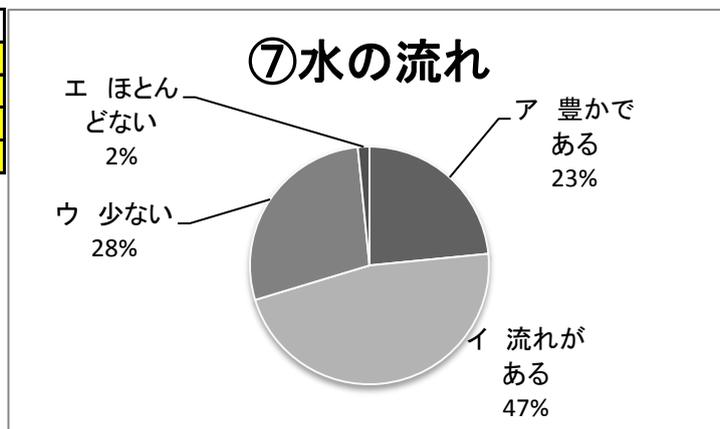


C及びDブロックは「時々見かける」とした割合が高く(約50～65%)、その他のブロックは「多くはないがいつもある」とした割合が高かった(約45～60%)。「全くない」とした団体はなかった。

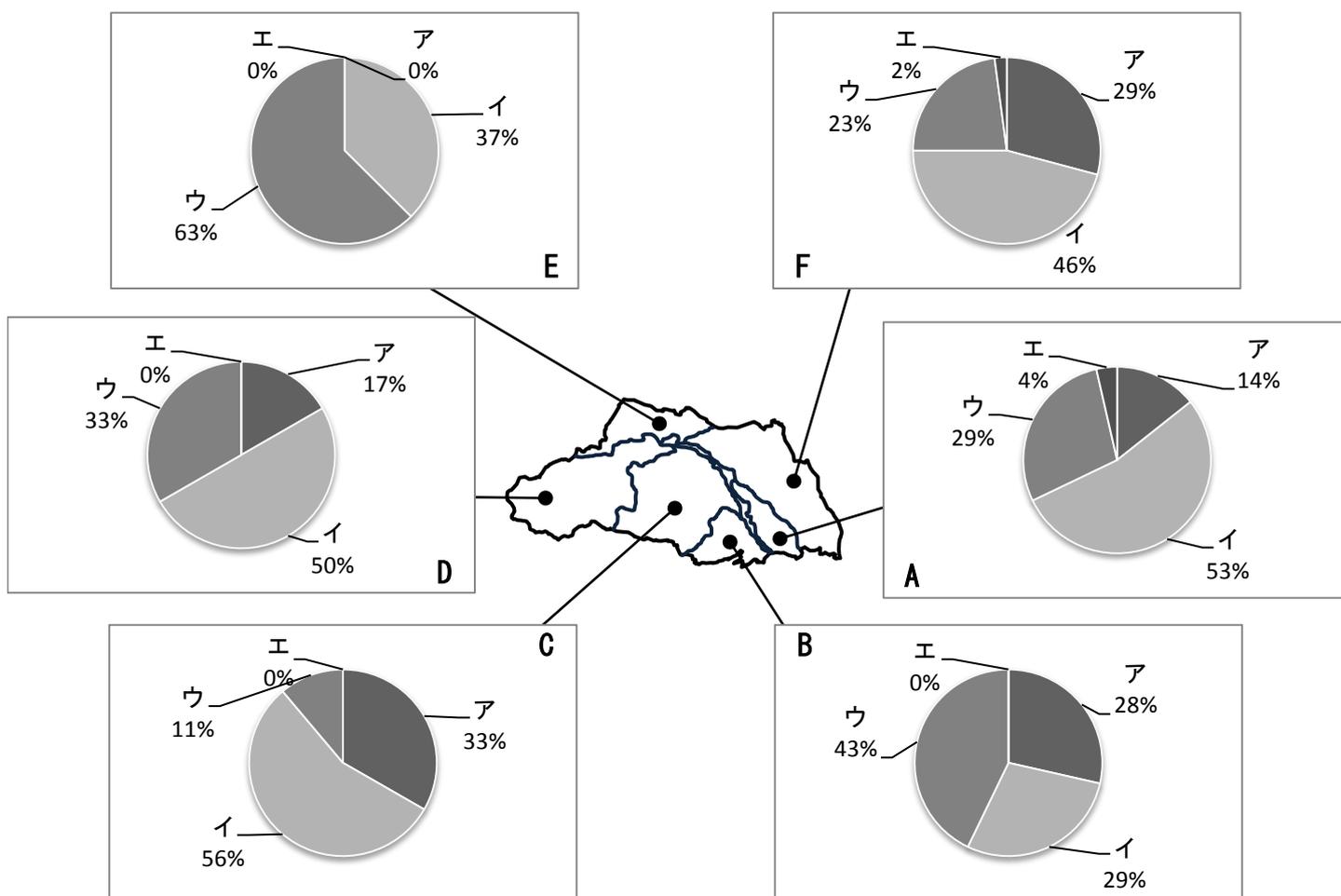
⑦水の流れ
→「流れがある」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
⑦水の流 れ	ア 豊かである	30
	イ 流れがある	60
	ウ 少ない	36
	エ ほとんどない	2



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

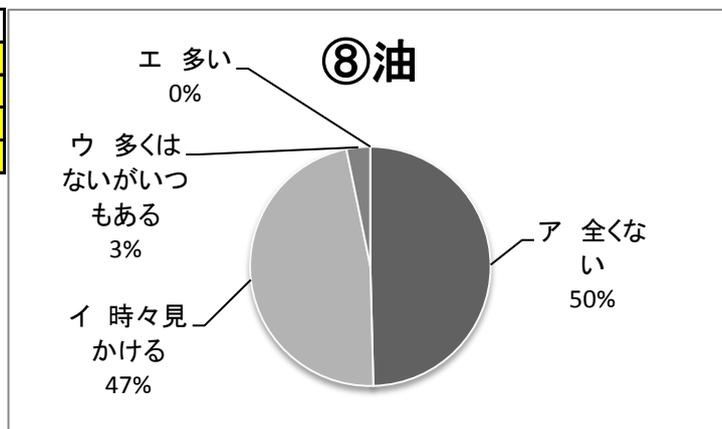


A、C、D及びFブロックは「流れがある」とした割合が高く(約50～55%)、その他のブロックは「少ない」とした割合が高かった(約45～60%)。

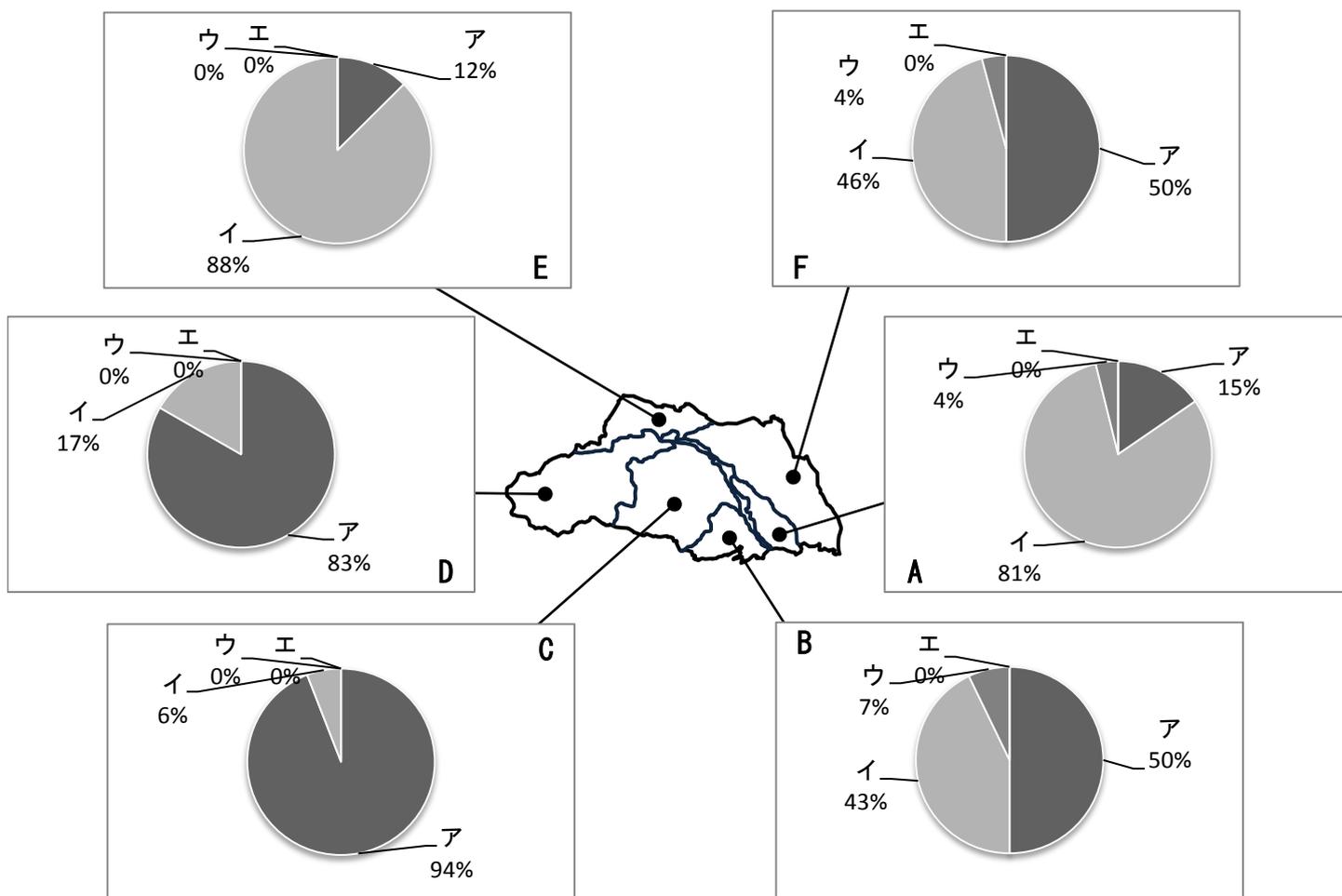
⑧油
→「全くない」と「時々見かける」がそれぞれ約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
⑧油	ア 全くない	62
	イ 時々見かける	59
	ウ 多くはないがいつももある	4
	エ 多い	0



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

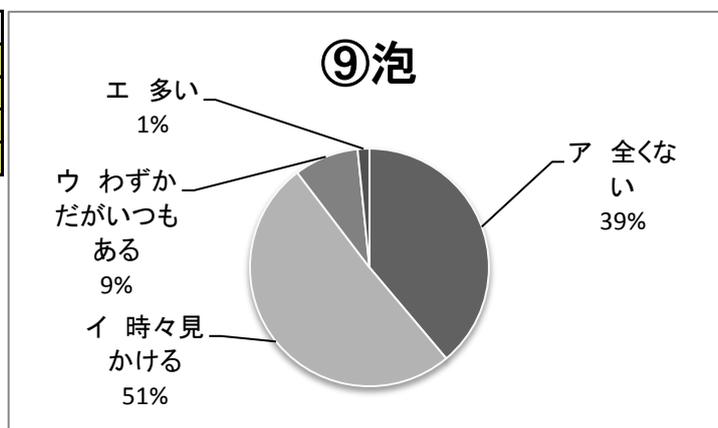


C及びDブロックは「全くない」とした割合がかなり高く(約85~95%)、その他のブロックは「時々見かける」とした割合が高かった(約45~90%)。「多い」とした団体はなかった。

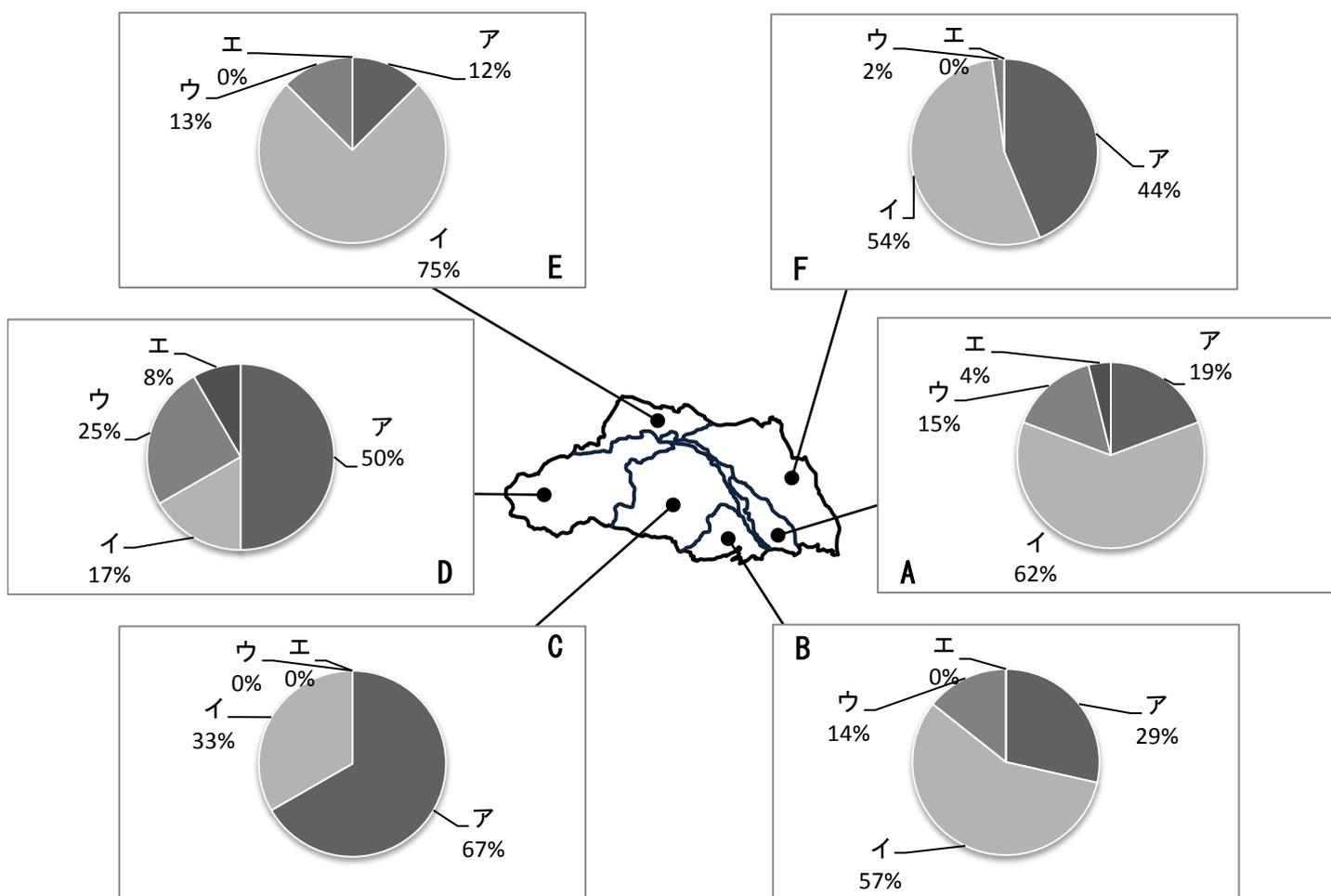
⑨泡
→「時々見かける」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
⑨泡	ア 全くない	49
	イ 時々見かける	64
	ウ 多くはないがいつもある	11
	エ 多い	2



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



C及びDブロックは「全くない」とした割合が高く(約50~70%)、その他のブロックは「時々見かける」とした割合が高かった(約60~75%)。

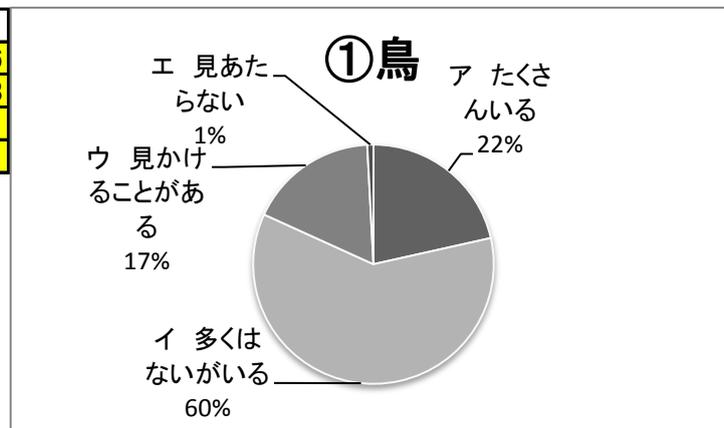
1見る(2)川の水辺

①鳥

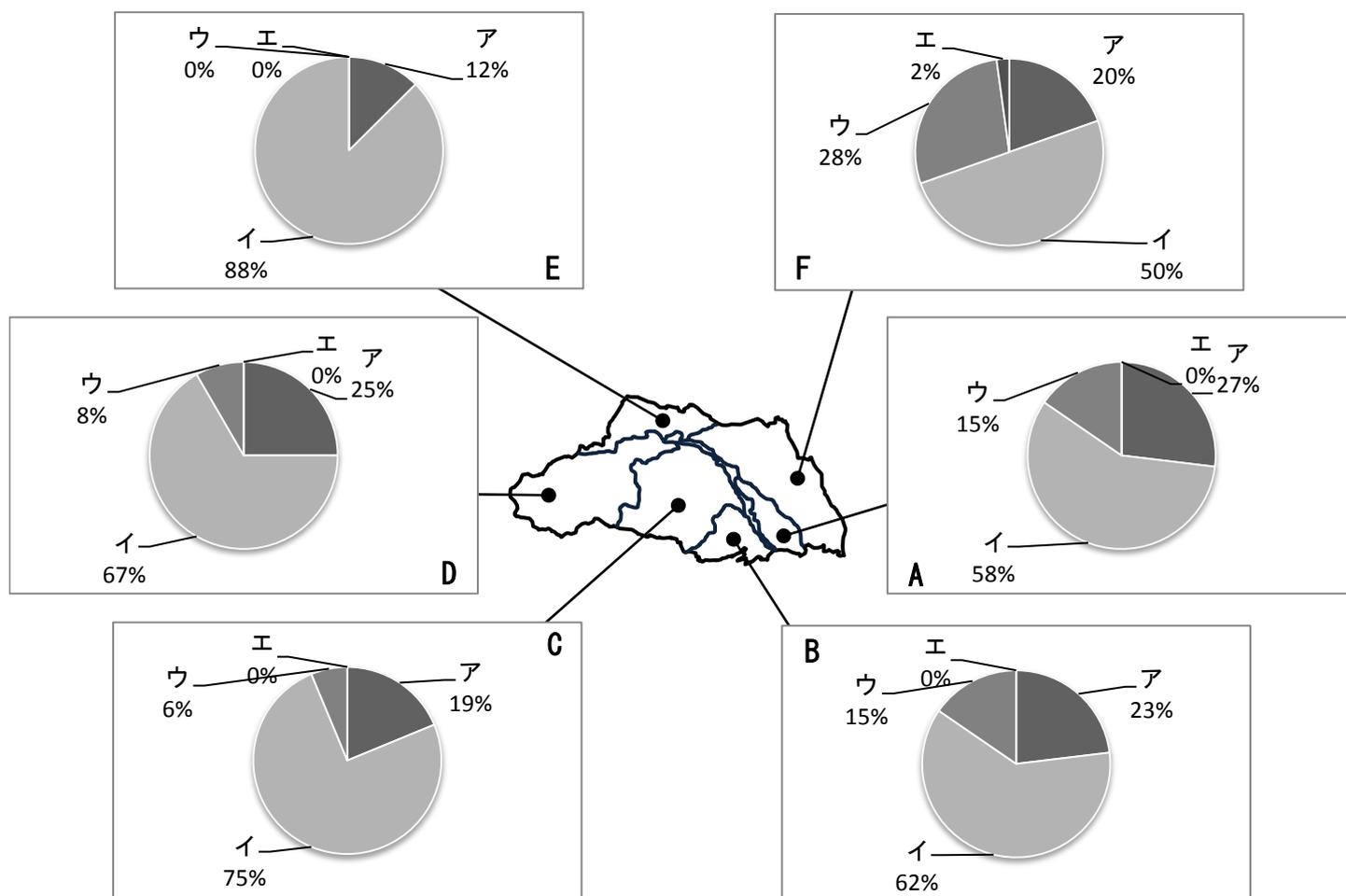
→「多くはないがいる」が約6割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①鳥	ア たくさんいる	26
	イ 多くはないがいる	73
	ウ 見かけることがある	21
	エ 見あたらない	1



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

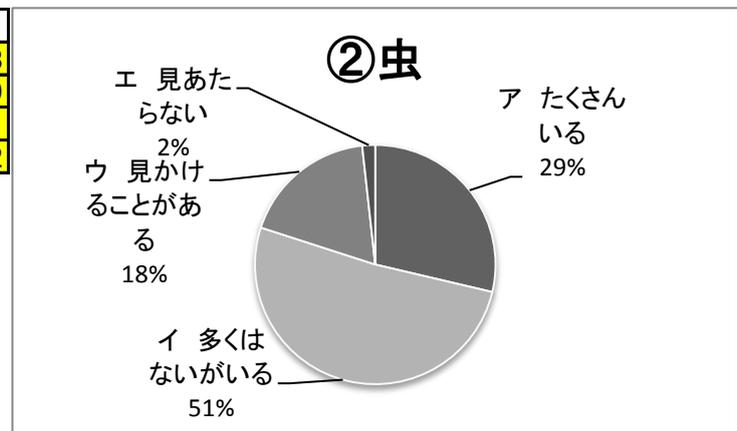


全てのブロックにおいて「多くはないがいる」とした割合が高かった(約55~90%)。「見あたらない」とした団体はなかった。

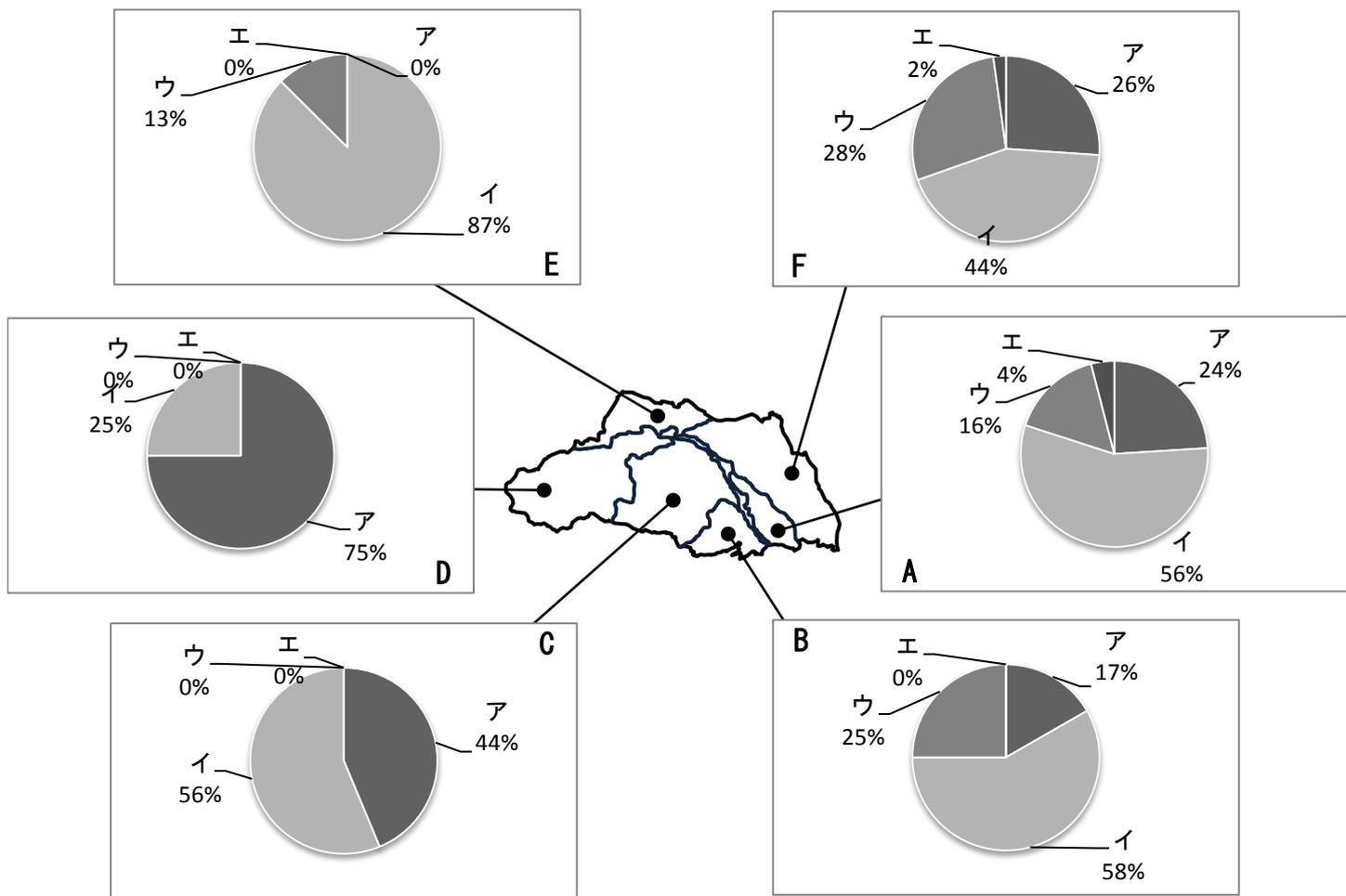
②虫
→「多くはないがいる」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
②虫	ア たくさんいる	33
	イ 多くはないがいる	59
	ウ 見かけることがある	21
	エ 見あたらない	2



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

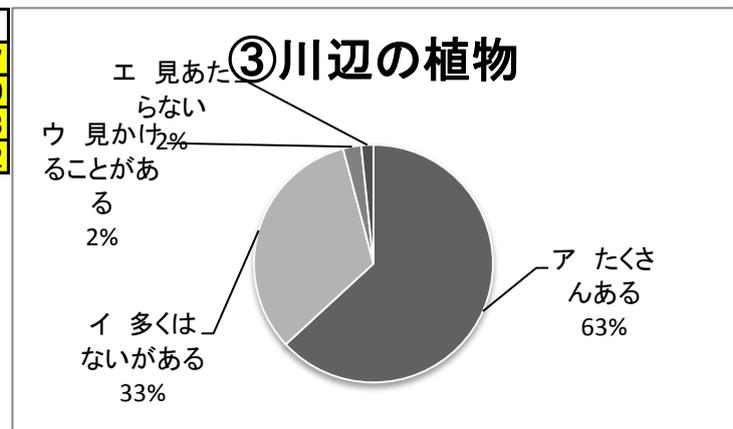


Dブロックは「たくさんいる」とした割合が高く(約75%)、その他のブロックは「多くはないがいる」とした割合が高かった(約50~90%)。

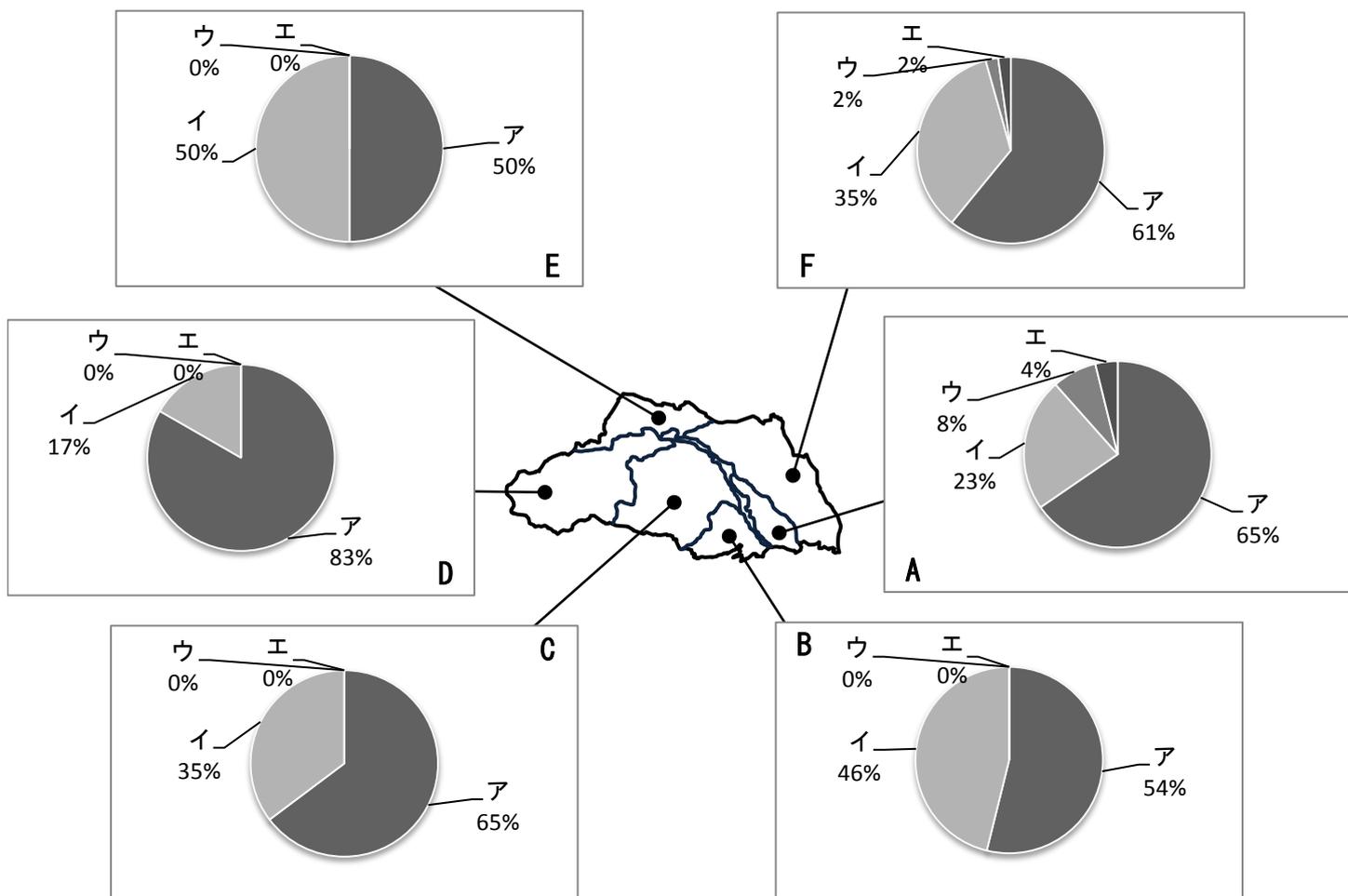
③川辺の植物
→「たくさんある」が約6割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
③川辺の植物	ア たくさんある	77
	イ 多くはないがある	40
	ウ 見かけることがある	3
	エ 見あたらない	2



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

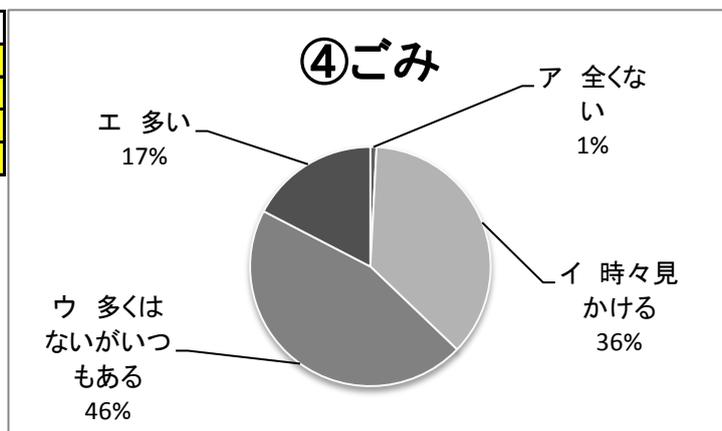


全てのブロックにおいて「たくさんある」とした割合が高かった(約50～85%)。

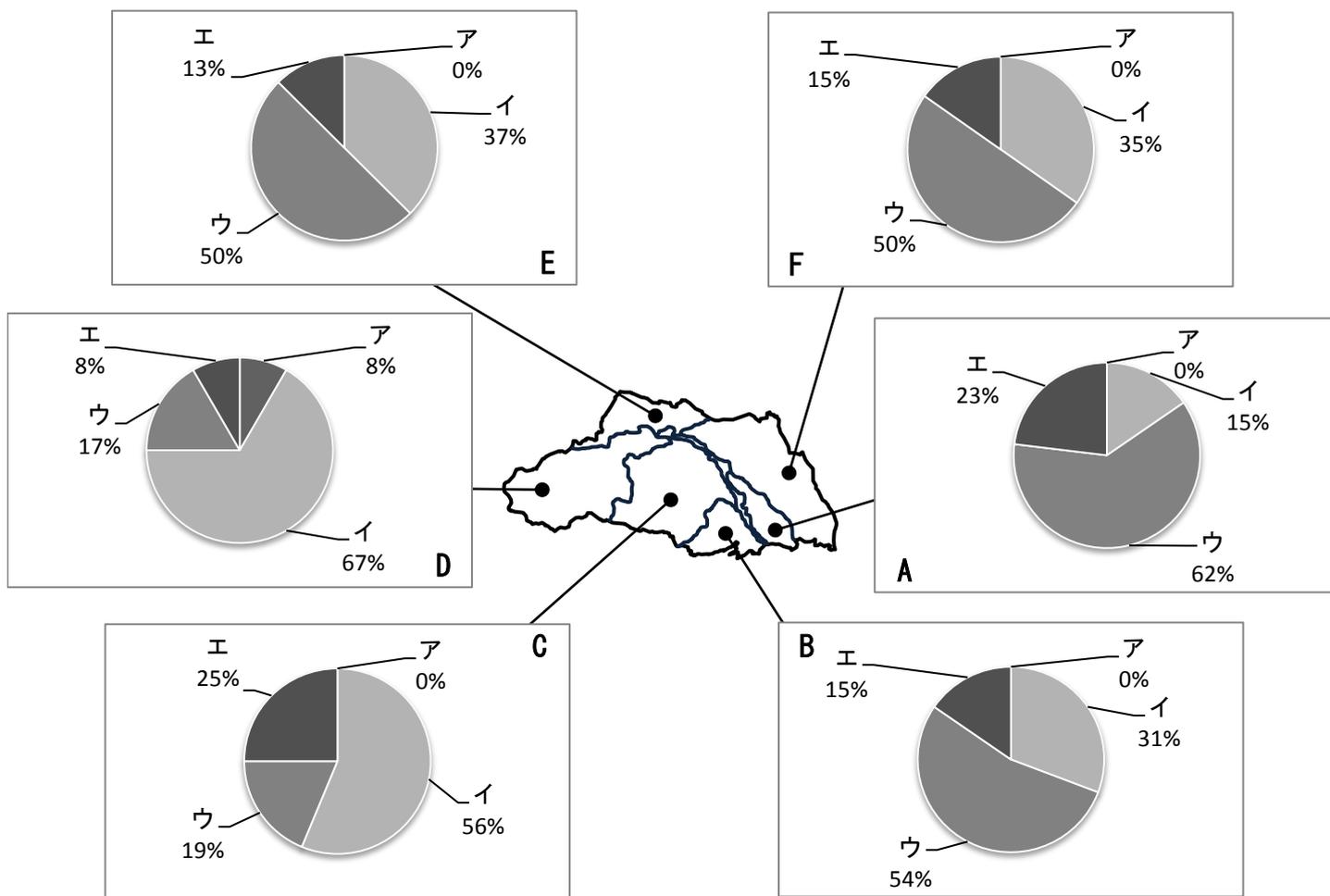
④ごみ
→「多くはないがいつもある」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
④ごみ	ア 全くない	1
	イ 時々見かける	44
	ウ 多くはないがいつもある	55
	エ 多い	21



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



C及びDブロックは「時々見かける」とした割合が高く(約55~65%)、その他のブロックは「多くはないがいつもある」とした割合が高かった(約50~60%)。

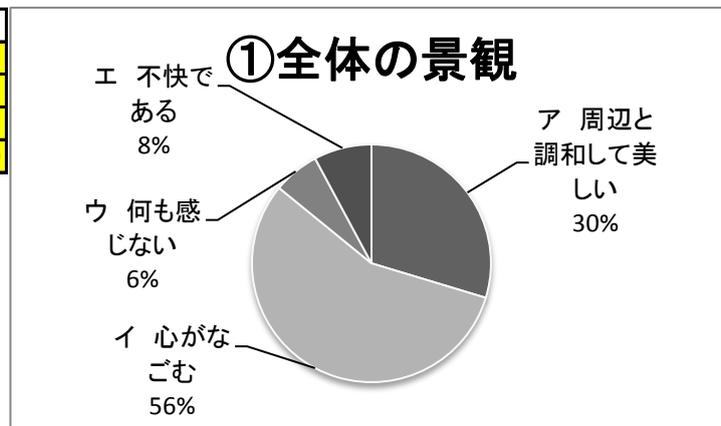
1見る(3)川の水と水辺

①全体の景観

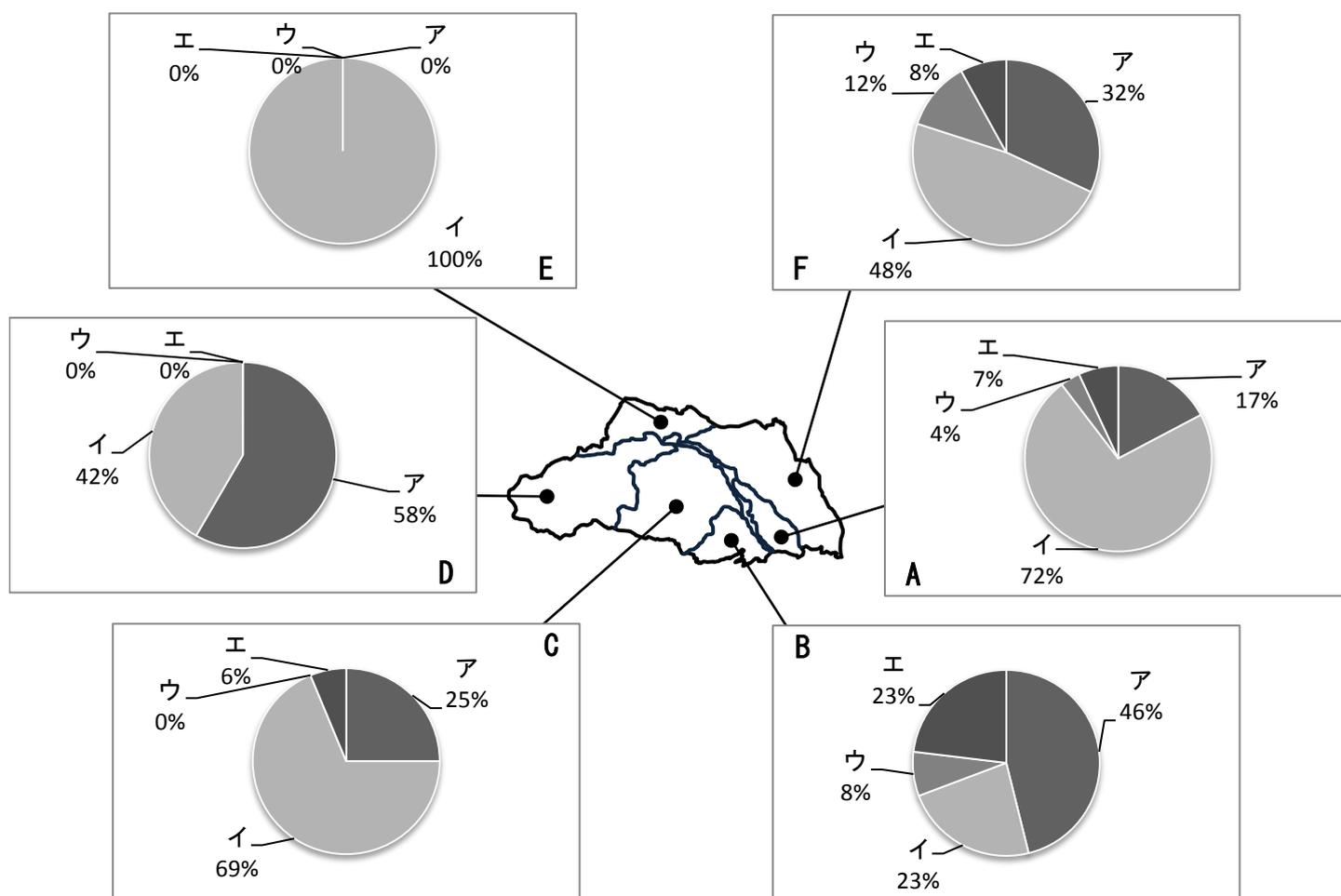
→「心がなごむ」が約6割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①全体の景観	ア 周辺と調和して美しい	38
	イ 心がなごむ	72
	ウ 何も感じない	8
	エ 不快である	10



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

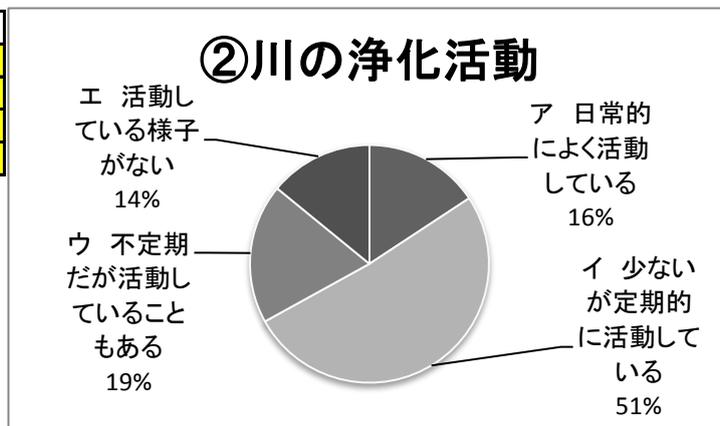


B及びDブロックは「周辺と調和して美しい」とした割合が高く(約45~60%)、その他のブロックは「心がなごむ」とした割合が高かった(約50~100%)。

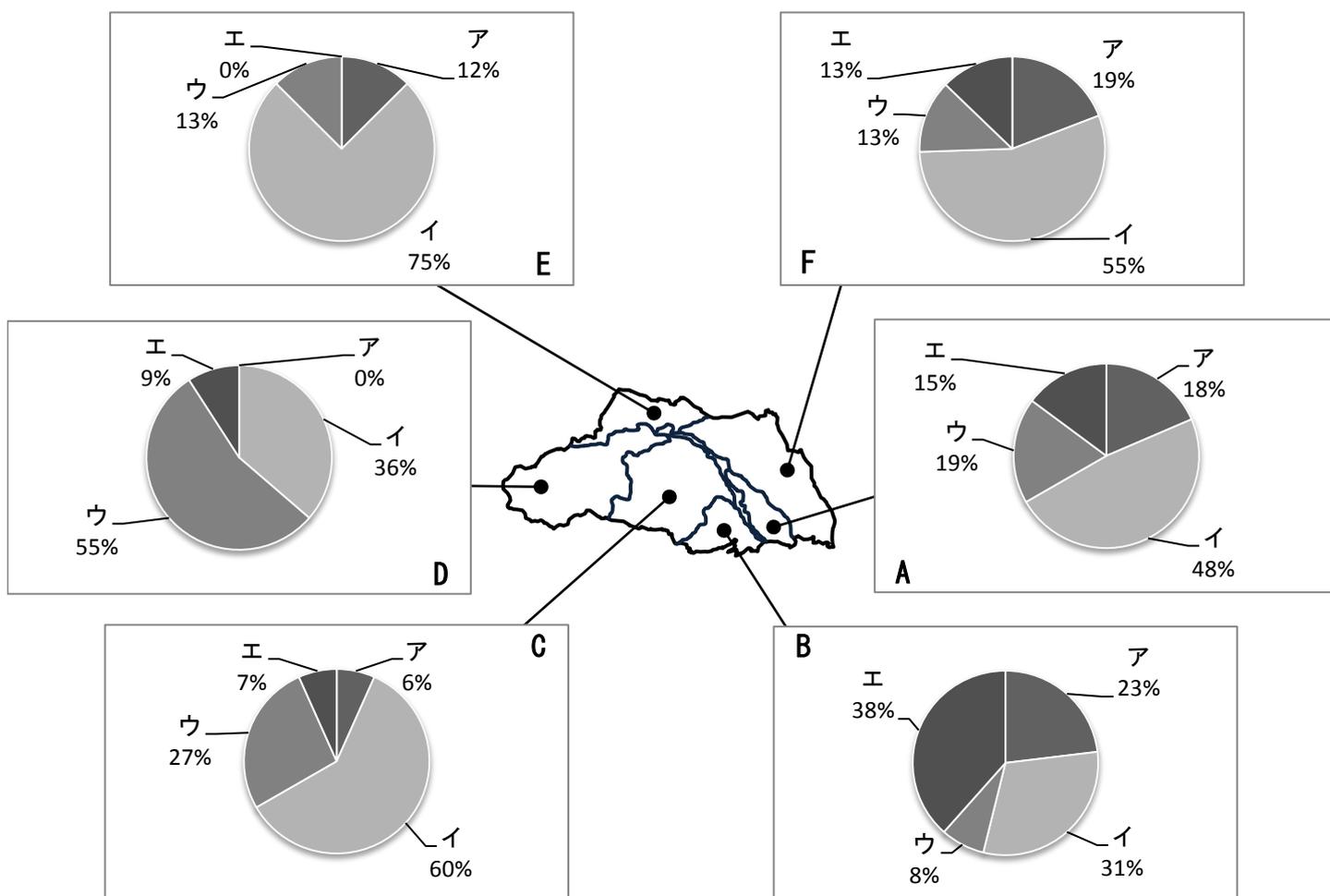
②川の浄化活動
→「少ないが定期的に活動している」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
②川の浄化活動	ア 日常的によく活動している	19
	イ 少ないが定期的に活動している	62
	ウ 不定期だが活動していることもある	23
	エ 活動している様子がない	17



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



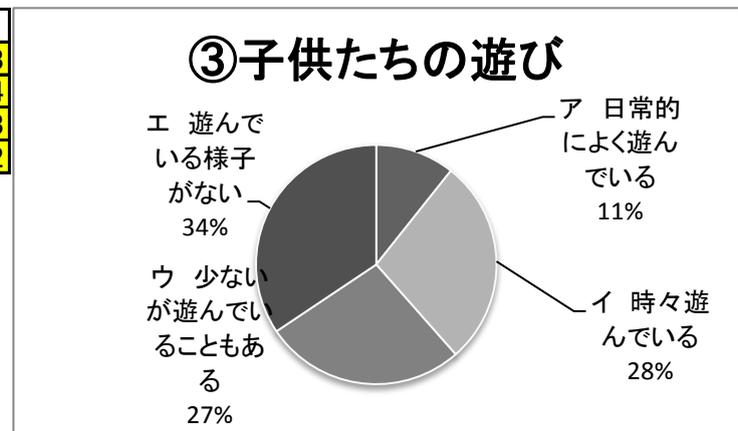
A、C、E及びFブロックは「少ないが定期的に活動している」とした割合が高く(約45～75%)、Dブロックは「不定期だが活動していることもある」とした割合が高く(約55%)、Bブロックは「活動している様子がない」とした割合が高かった(約40%)。

③子供たちの遊び

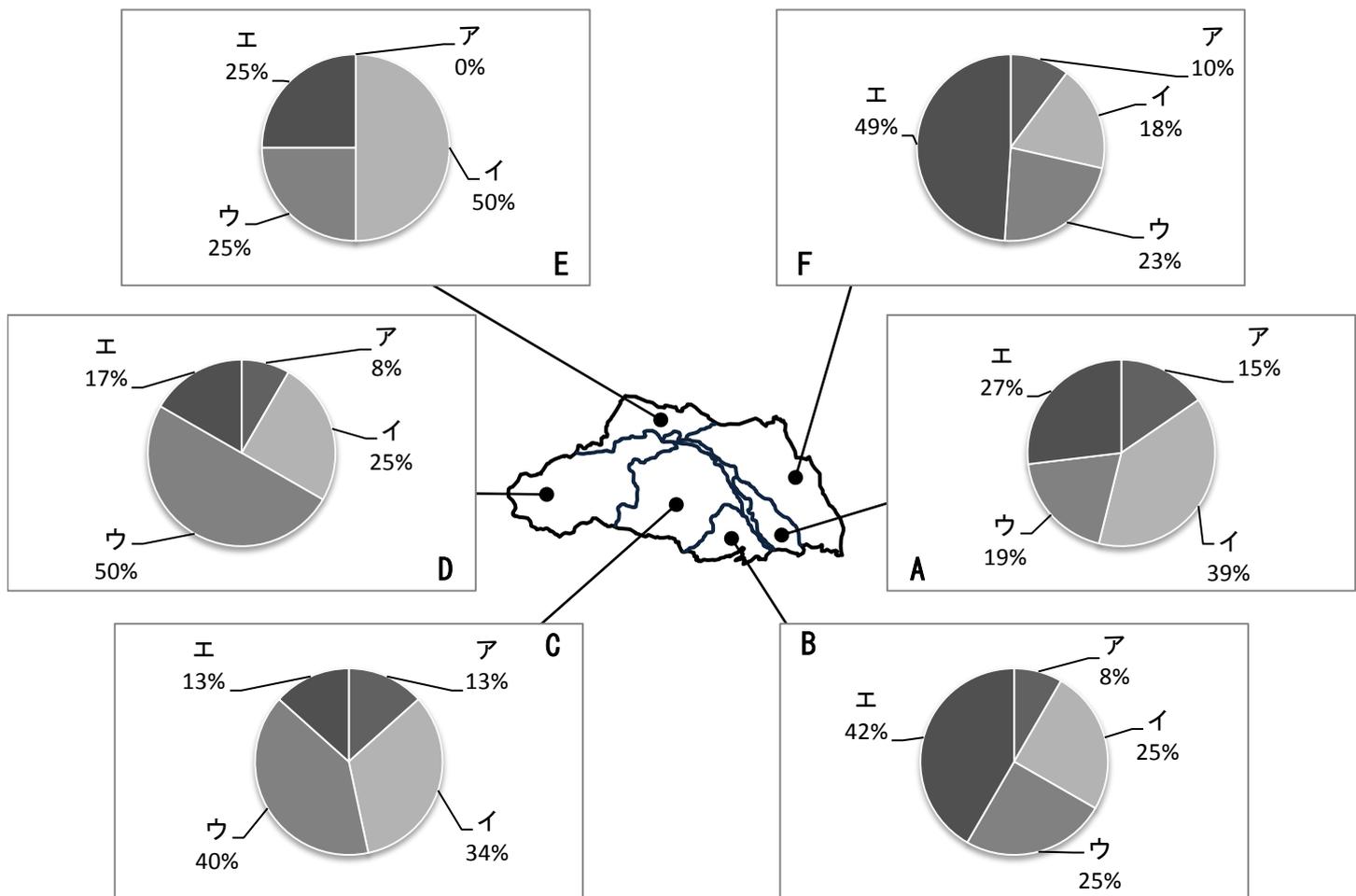
→「時々遊んでいる」、「少ないが遊んでいることもある」、「遊んでいる様子がない」がそれぞれ約3割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
③子供たちの遊び	ア 日常的によく遊んでいる	13
	イ 時々遊んでいる	34
	ウ 少ないが遊んでいることもある	33
	エ 遊んでいる様子がない	42



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



A及びEブロックは「時々遊んでいる」とした割合が高く(約35～50%)、C及びDブロックは「少ないが遊んでいることもある」とした割合が高く(約40～50%)、B及びFブロックは「遊んでいる様子がない」とした割合が高かった(約40～45%)。

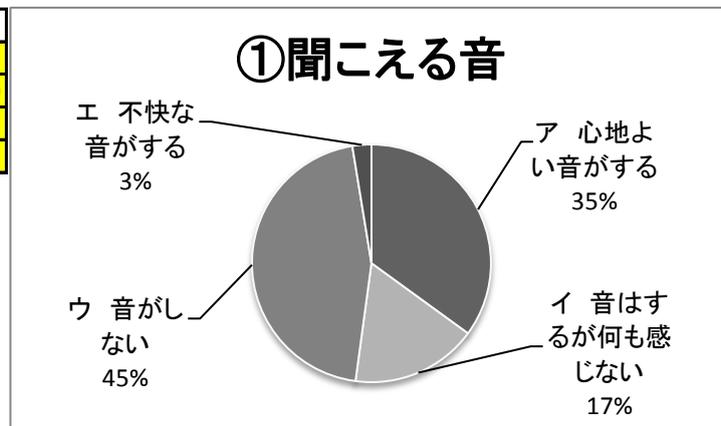
2聞く

①聞こえる音

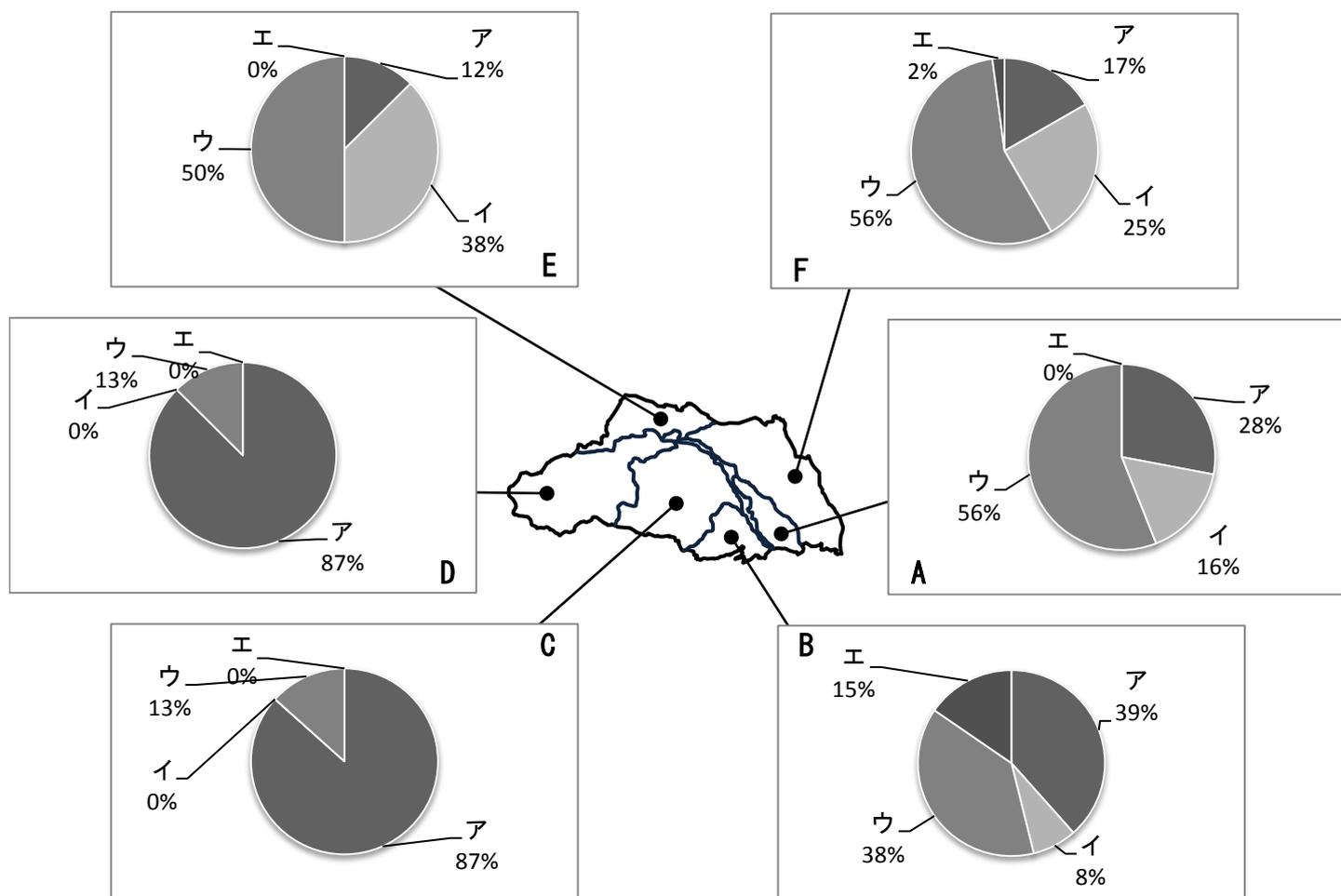
→「音がしない」が約4割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①聞こえる音	ア 心地よい音がする	41
	イ 音はするが何も感じない	20
	ウ 音がしない	53
	エ 不快な音がする	3



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



B、C及びDブロックは「心地よい音がする」とした割合が高く(約40～90%)、A、E及びFブロックは「音がしない」とした割合が高かった(約50～55%)。

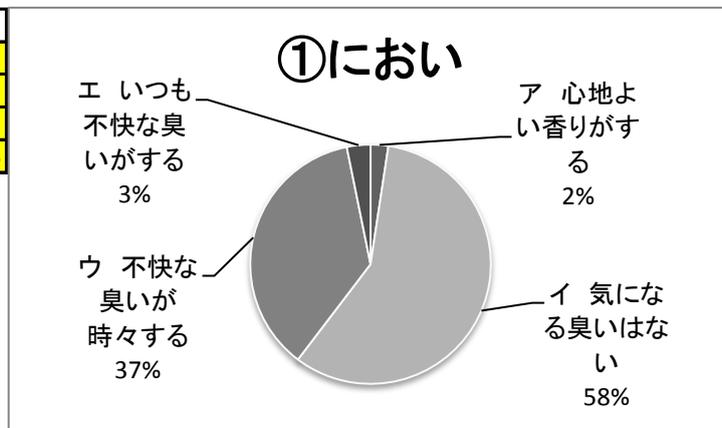
3 嗅ぐ

①におい

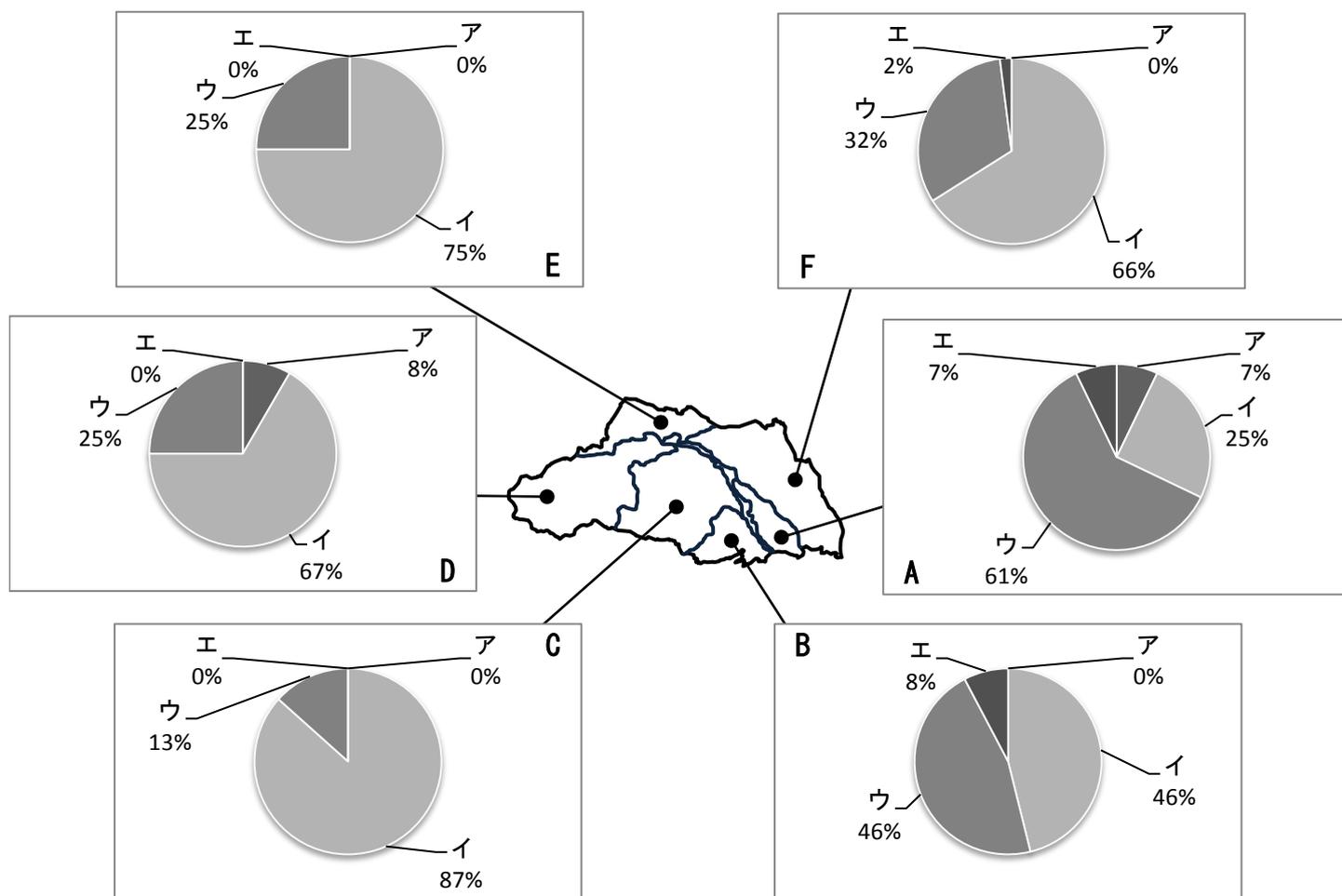
→「気になる臭いはない」が約6割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①におい	ア 心地よい香りがする	3
	イ 気になる臭いはない	73
	ウ 不快な臭いが時々する	46
	エ いつも不快な臭いがする	4



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



C、D、E及びFブロックは「気になる臭いはない」とした割合が高く(約65～90%)、A及びBブロックは「不快な臭いが時々する」とした割合が高かった(約50～65%)。

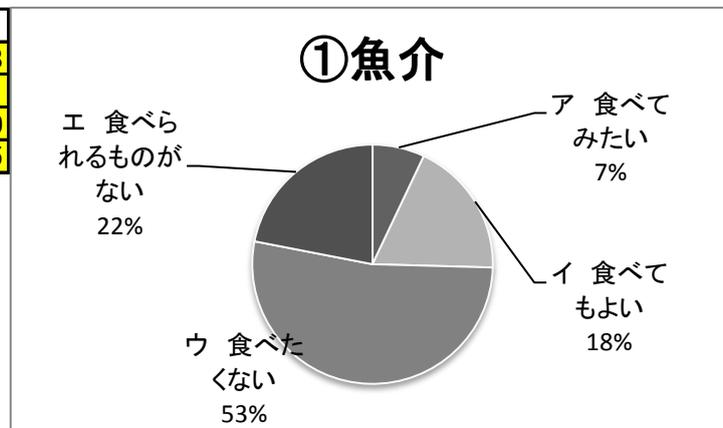
4味わう

①魚介

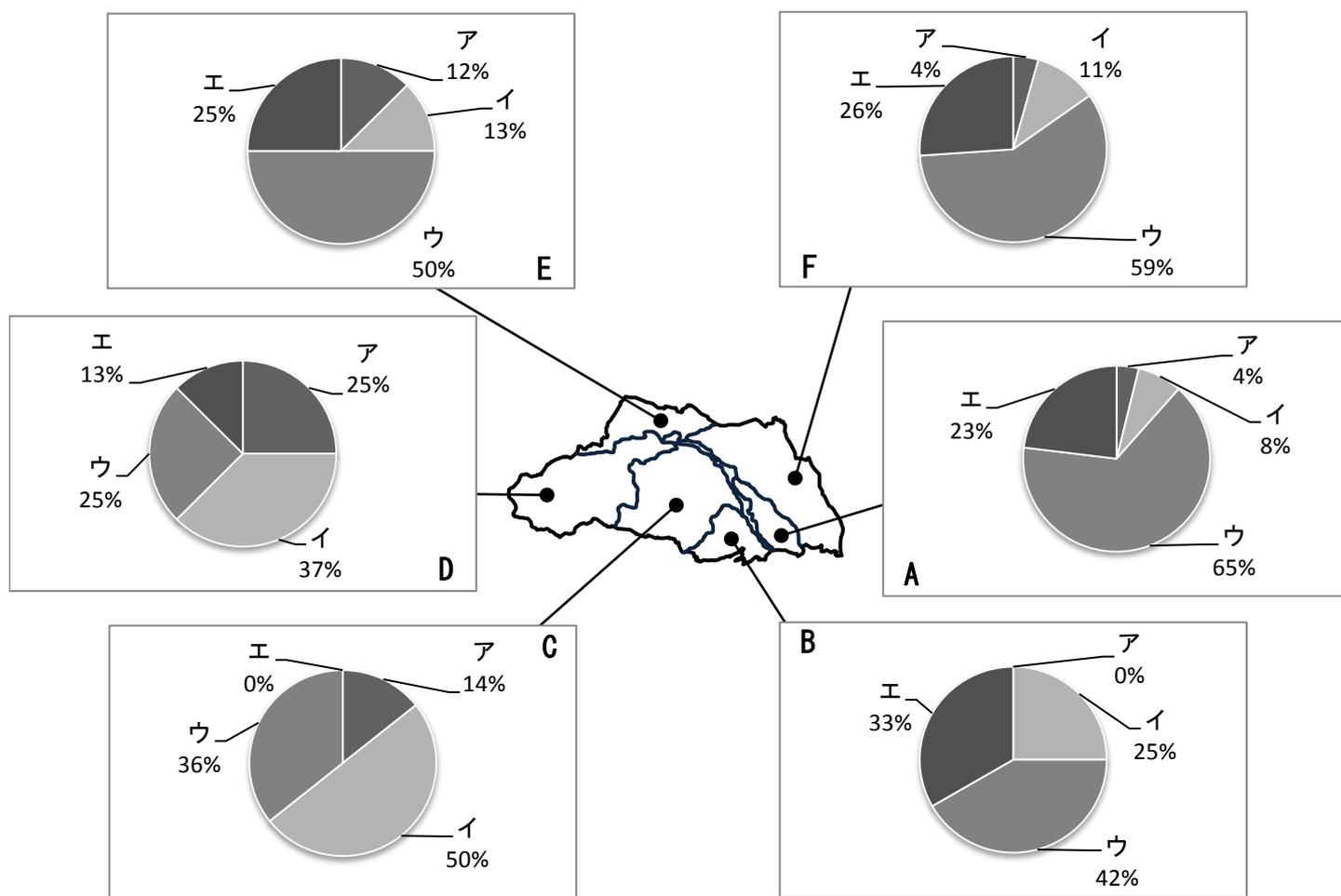
→「食べたくない」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①魚介	ア 食べてみたい	8
	イ 食べてもよい	21
	ウ 食べたくない	60
	エ 食べられるものがない	25



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

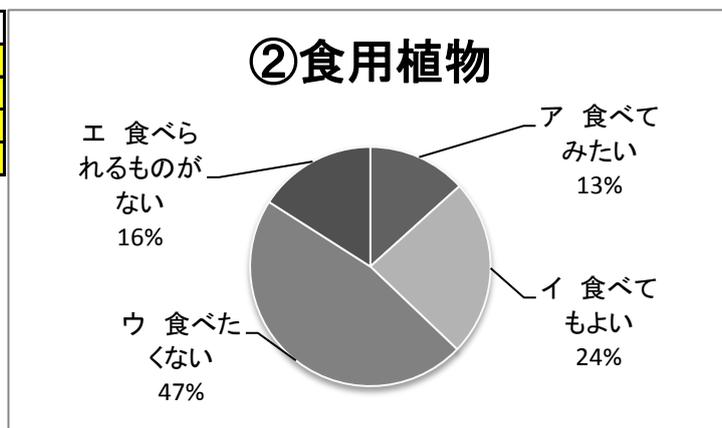


C及びDブロックは「食べてもよい」とした割合が高く(約40~50%)、その他のブロックは「食べたくない」とした割合が高かった(約40~65%)。

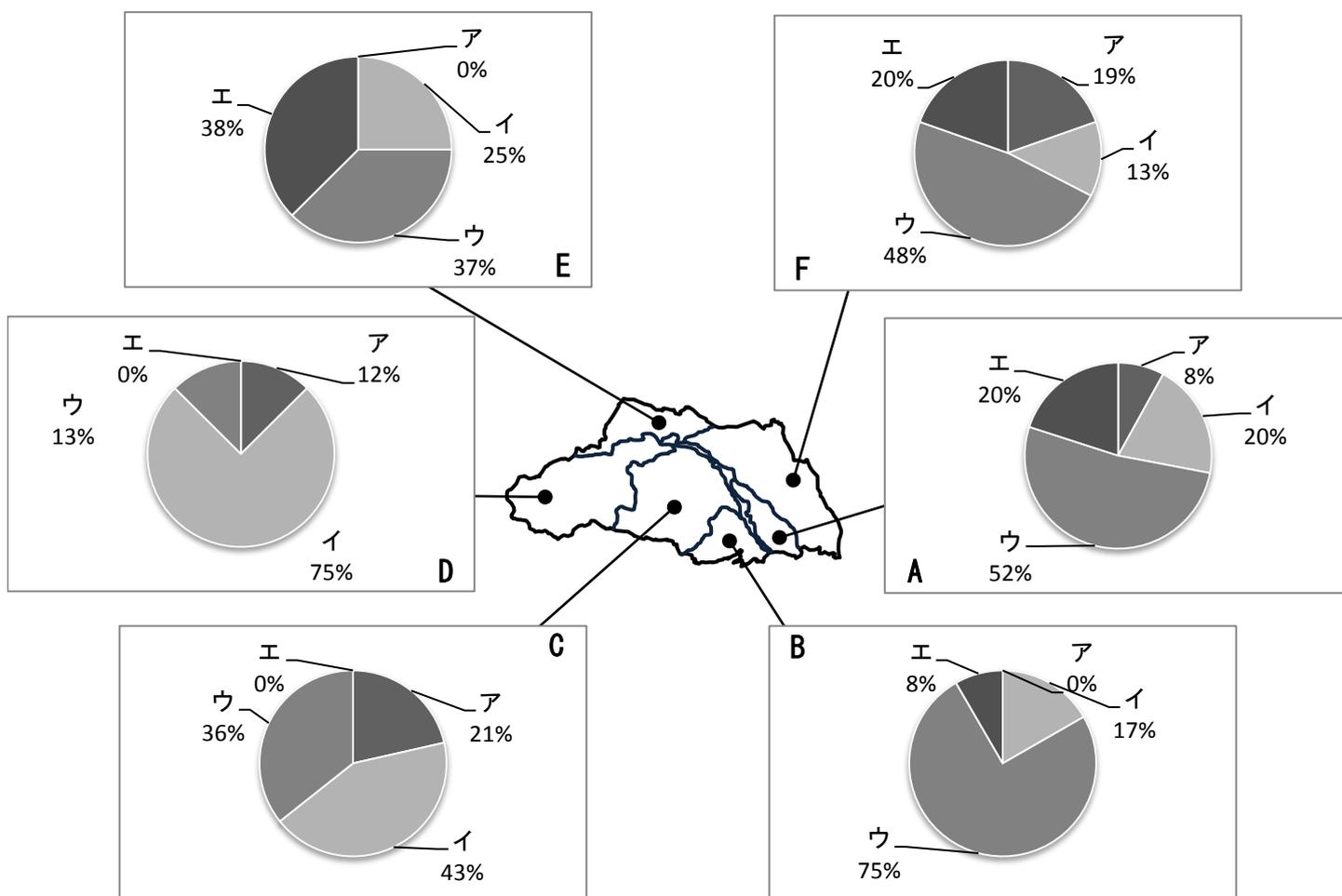
②食用植物
→「食べたくない」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
②食用植物	ア 食べてみたい	15
	イ 食べてもよい	27
	ウ 食べたくない	53
	エ 食べられるものがない	18



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



C及びDブロックは「食べてもよい」とした割合が高く(約45~75%)、A,B及びFブロックは「食べたくない」とした割合が高く(約45~75%)、Eブロックは「食べたくない」「食べられるものがない」の割合が高かった(約40%)。

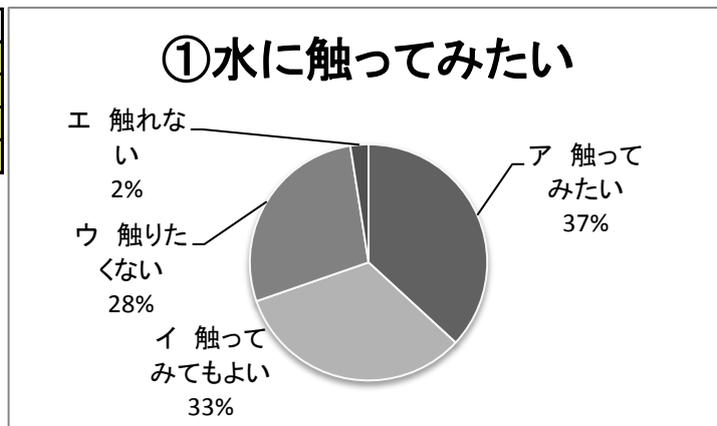
5触れる

①水に触ってみたい

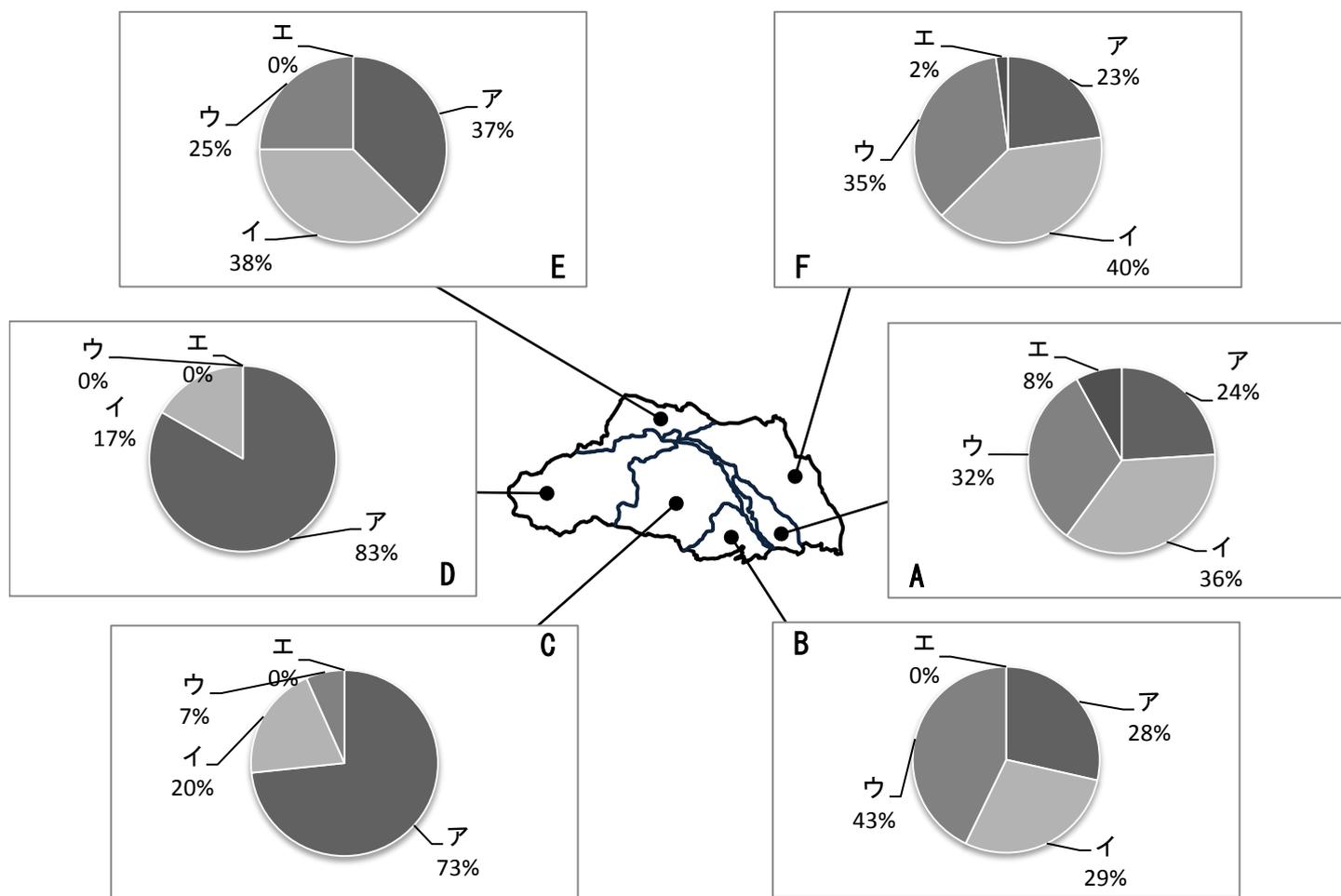
→「触ってみたい」が約4割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
①水に触ってみたい	ア 触ってみたい	45
	イ 触ってみてもよい	40
	ウ 触りたくない	34
	エ 触れない	3



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



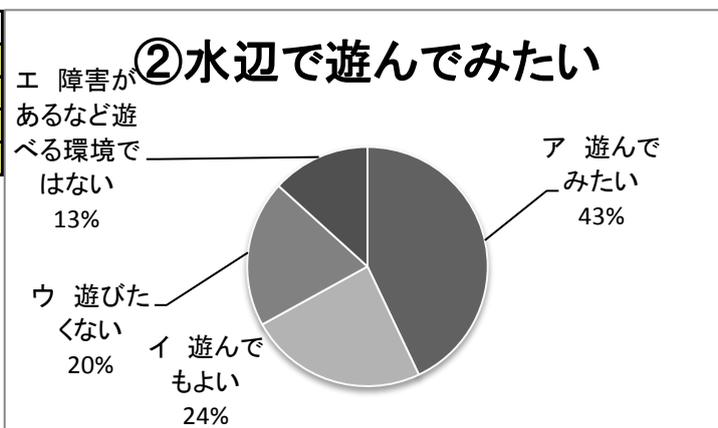
C及びDブロックは「触ってみたい」とした割合が高く(約75~85%)、Aブロックは「触ってみてもよい」の割合が高く(約40%)、Eブロックは「触ってみたい」「触ってみてもよい」の割合が高かった(約40%)。

一方、Bブロックは「触りたくない」とした割合が高く(約45%)、Fブロックは「触ってみてもよい」「触りたくない」の割合が高かった(約35%)。

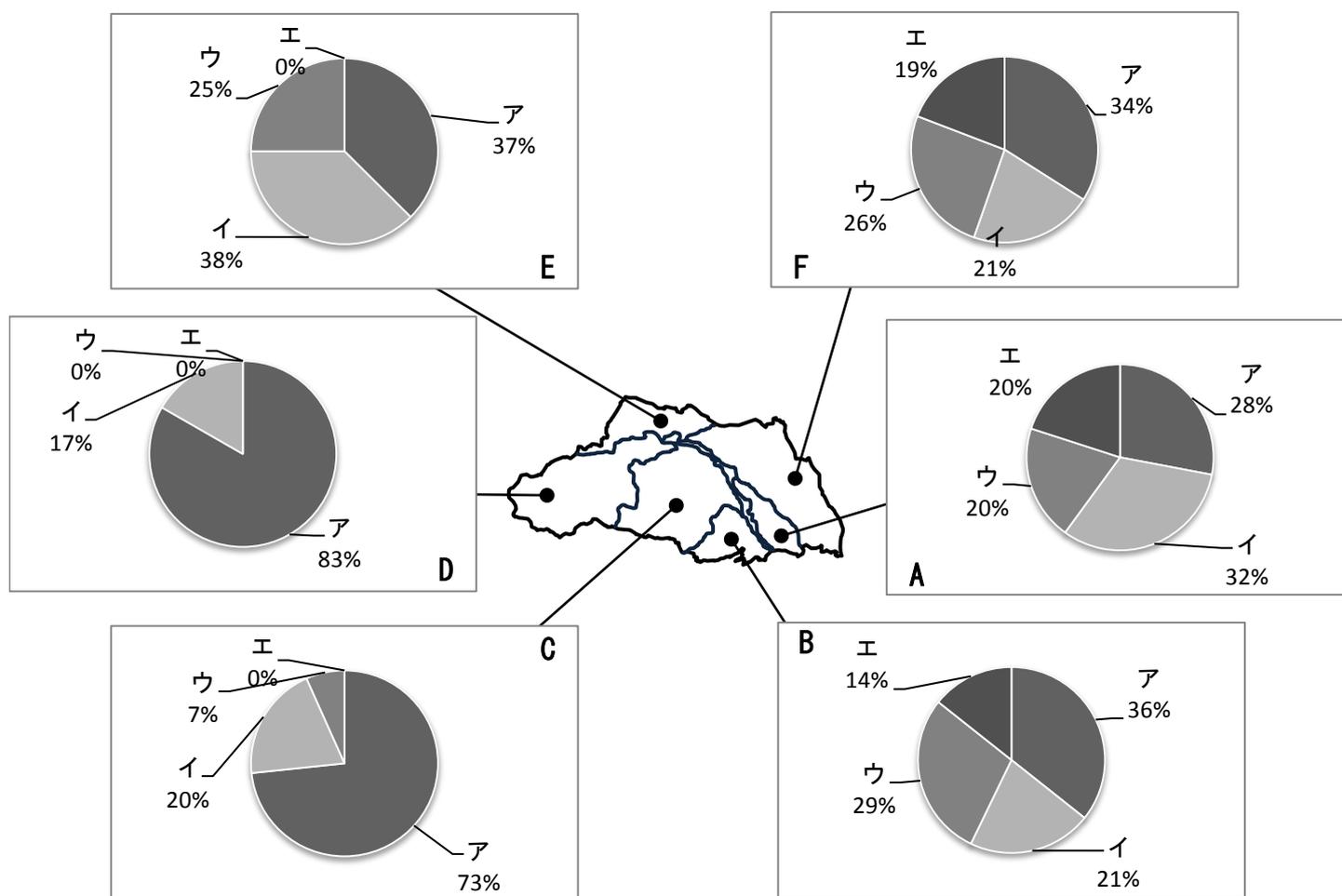
②水辺で遊んでみたい
→「遊んでみたい」が約5割

【県全体の結果】

項目	現状の評価	団体数
②水辺で遊んでみたい	ア 遊んでみたい	52
	イ 遊んでもよい	29
	ウ 遊びたくない	24
	エ 障害があるなど遊べる環境ではない	16



【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】



B、C、D及びFブロックは「遊んでみたい」とした割合が高く(約35～85%)、A及びEブロックは「遊んでみたい」「遊んでもよい」の割合が高かった(約30～40%)。

(2) 指標として取り入れたい項目、取り入れたくない項目

五感を活用した河川環境指標に取り入れたい項目と取り入れたくない項目を調査し、結果を取りまとめました(複数回答可)。

※ 以下の回答比率(%)は回答団体数を基数として算出しましたが、複数回答の質問であるため、回答比率の合計が100%を超えることがあります。

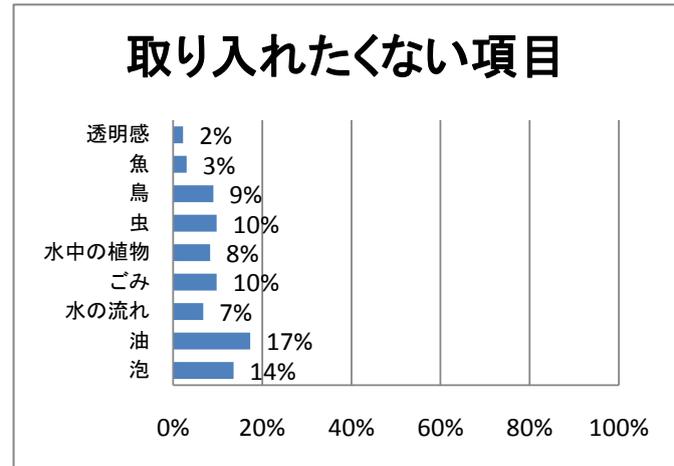
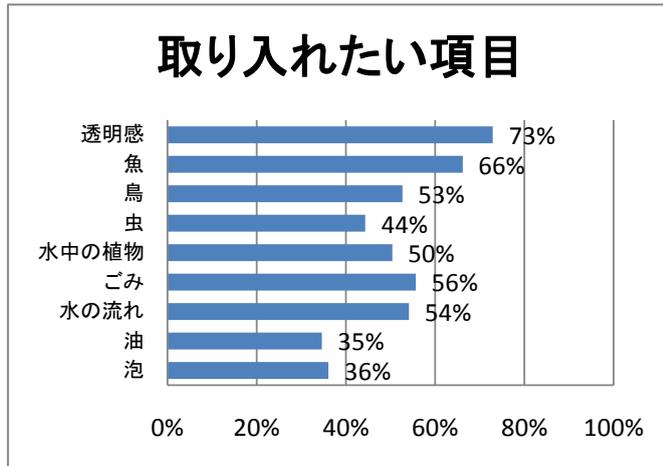
1 見る(1) 川の水

・川の水を見る指標を設定するにあたり、取り入れたい項目と取り入れたくない項目について尋ねた。

→取り入れたい項目では、「透明感」が最も多く7割半ば

→取り入れたくない項目では、「油」が最も多く1割半ば

【県全体の結果】

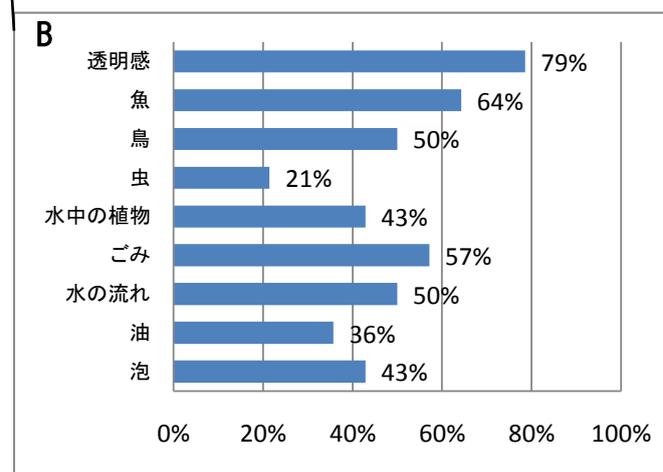
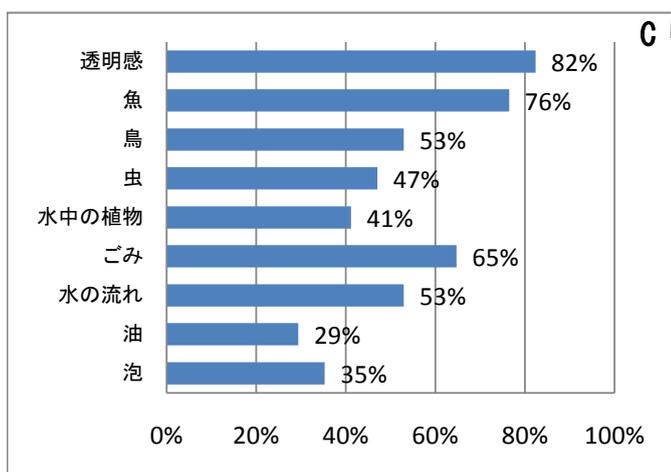
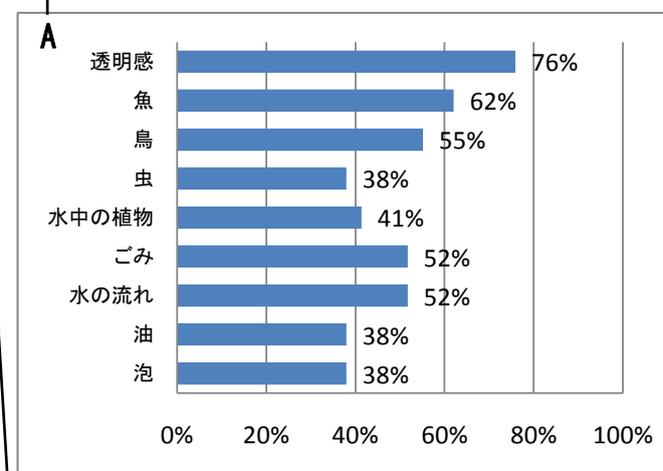
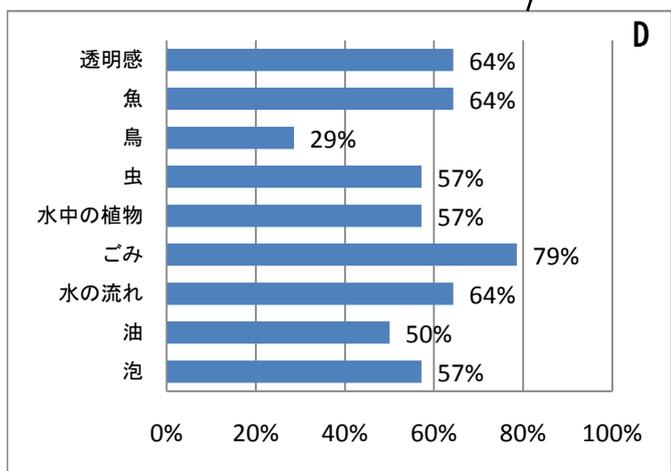
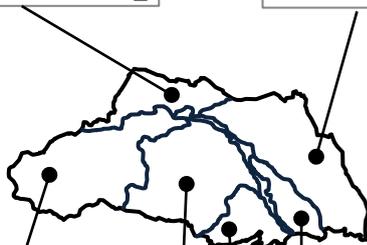
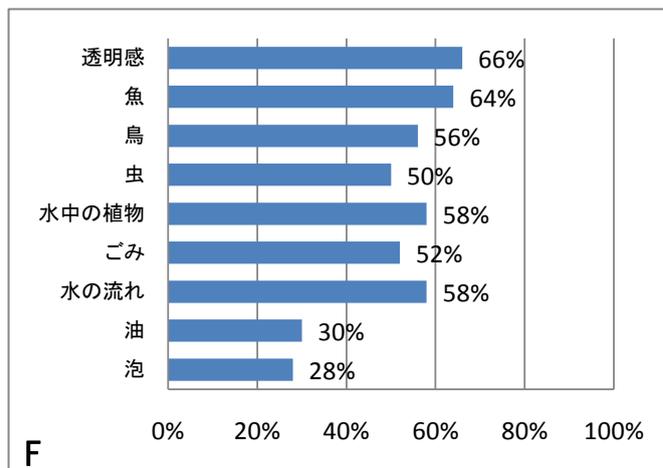
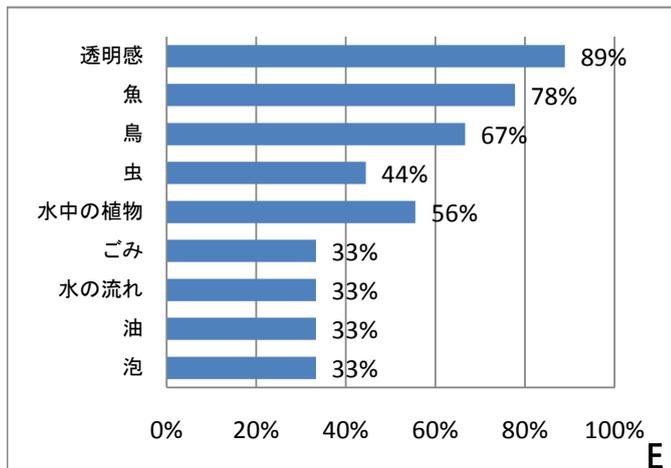


○その他取り入れたい項目

Aブロック	・水温 ・整備状況 ・川の生き物(カメ、アメリカザリガニ、クロベンケイガニなど) ・ヘドロの体積に対する手入れの状況 ・色 ・スカム
Bブロック	・河床の形態:瀬、淵の有無、蛇行河川か直線河川か ・河床材料:コンクリート、砂礫、泥質 ・水際の植生の有無
Cブロック	・川底の状況(石、小石、砂、土) ・川に入りやすいかどうか ・深さ ・流れの速さ ・水の量 ・流速(速い、よどんでいる) ・水の反射(輝いて見える~暗くすんでいる等) ・産業排水(採石場からの汚泥) ・COD ・pH ・臭気 ・透明度 ・魚、鳥、虫以外の生き物(両生類など)
Dブロック	・水中生物 ・バーベキューのごみ問題 ・ダムへのドロ
Eブロック	・不法投棄の有無
Fブロック	・水草の種類 ・護岸の構造、材質 ・浮遊物の有無 ・透視度 ・砂地がある ・砂利がある ・中州がある ・水深(透視度) ・ヘドロ ・川の景観 ・住民の環境意識を高める標語や誌 ・大雨の時の増水 ・土手及び河原の手入れ(管理状況)度 ・大腸菌などを数値化し触っても安全かどうかの目安を知らせる ・自然環境や生物等の住みやすい護岸 ・水中の生き物(生物)、魚以外の小昆虫 ・カエル、カメなどの生き物 ・泥の状態(ヘドロか否か)

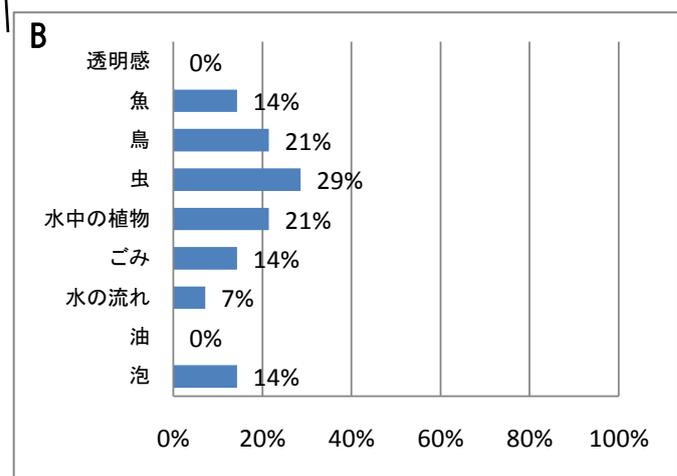
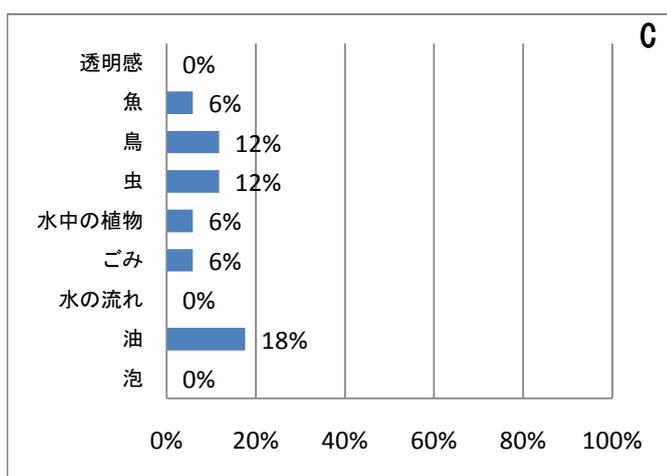
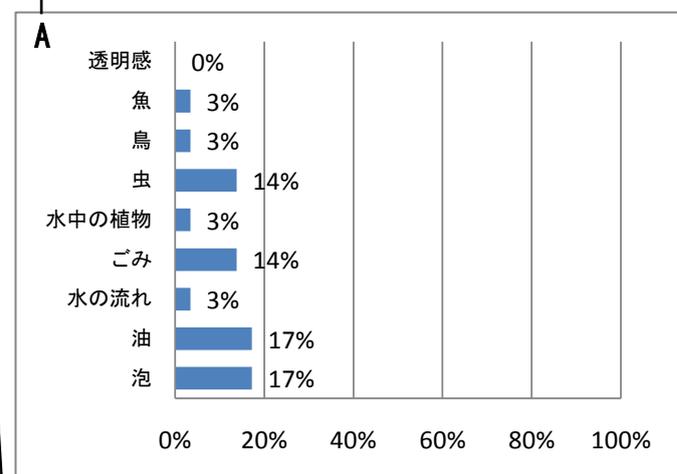
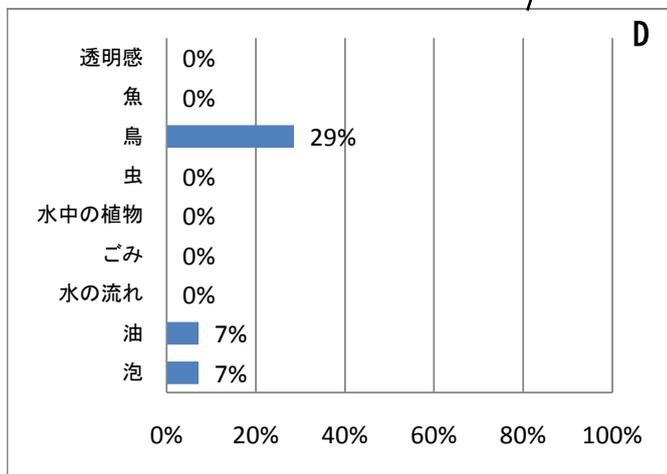
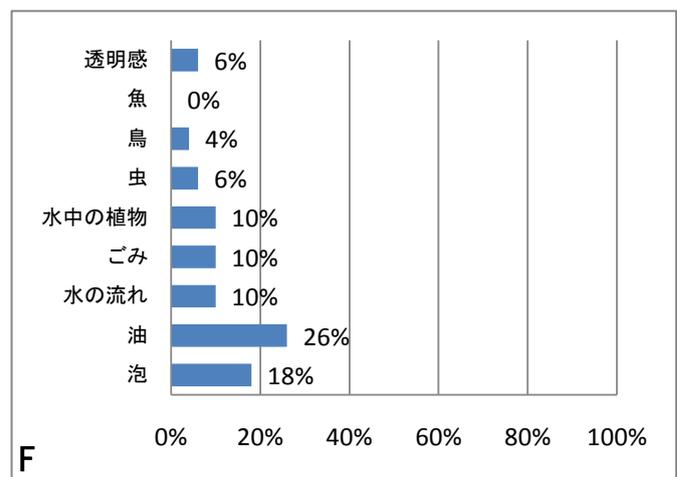
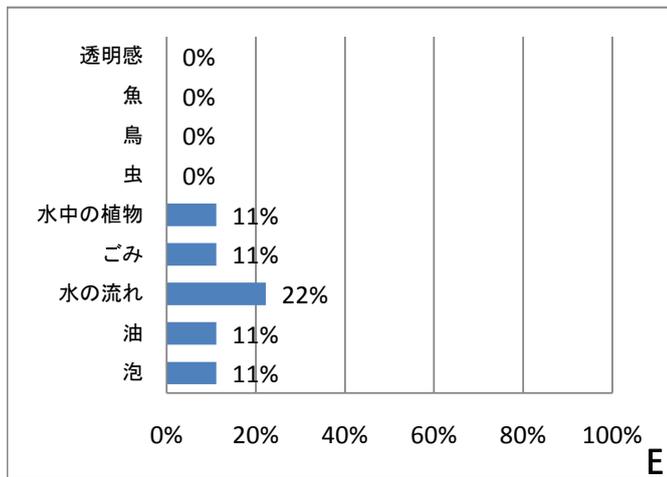
【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

①取り入れたい項目



Dブロックを除く全てのブロックで「透明感」を取り入れたいとした割合が高く(約65~90%)、Dブロックは「ごみ」を取り入れたいとした割合が高かった(約80%)。

②取り入れたくない項目



A、C及びFブロックで「油」は取り入れたくないとした割合が高く(約20~25%)、Bブロックでは「虫」、Dブロックでは「鳥」、Eブロックでは「水の流れ」を取り入れたくないとした割合が高かった。

○取り入れたくない理由

Aブロック

項目	理由
① 透明感	
② 魚	・川の様子
③ 鳥	・川の様子
④ 虫	・虫とは昆虫のことなのか？魚、鳥以外の生き物（へびやカエルやカニなど）を含むべきと思う ・水そのものの中での虫はそぐわない、へび、カメ、カニ等がよくいる ・水の中に入っても虫がいるかわからない ・川の様子
⑤ 水中の植物	・川の様子
⑥ ごみ	・ごみが全くない川は日本にありますか ・川の様子 ・恒常的にあるものではなく、取り入れる必要なし ・沈殿物と臭いが強くなる
⑦ 水の流れ	・川の様子
⑧ 油	・活動場所においては、その原因となるものがない（上流にあり？） ・量、質、状況が不明確だから ・恒常的にあるものではなく、取り入れる必要なし ・沈殿物と臭いが強くなる
⑨ 泡	・活動場所においては、その原因となるものがない（上流にあり？） ・量、質、状況が不明確だから ・恒常的にあるものではなく、取り入れる必要なし ・沈殿物と臭いが強くなる

Bブロック

項目	理由
① 透明感	
② 魚	・九十川の水源は伊佐沼及び入間川からの農業用水路です。生活雑排水等による流入により河川環境が悪環境 ・本来取り入れたい項目であるが、主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい
③ 鳥	・どのようなものを指すのか例を挙げて頂ければ助かる ・本来取り入れたい項目であるが、主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい ・川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます
④ 虫	・どのようなものを指すのか例を挙げて頂ければ助かる ・水生昆虫とかハグロトンボなら判るが、虫一般では判断できない ・本来取り入れたい項目であるが、主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい ・川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます
⑤ 水中の植物	・どのようなものを指すのか例を挙げて頂ければ助かる。 ・本来取り入れたい項目であるが、主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい ・川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます
⑥ ごみ	・川の近くの人家より生活排水が放流されているため ・川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます
⑦ 水の流れ	・九十川の水源は伊佐沼及び入間川からの農業用水路です。生活雑排水等による流入により河川環境が悪環境
⑧ 油	
⑨ 泡	・九十川の水源は伊佐沼及び入間川からの農業用水路です。生活雑排水等による流入により河川環境が悪環境 ・川の近くの人家より生活排水が放流されているため

Cブロック

項目	理由
① 透明感	
② 魚	・川の水の項目を立てるなら、水の様子に絞った方が分かりやすい。生物は別の項目を立てるべき
③ 鳥	・川の水の項目を立てるなら、水の様子に絞った方が分かりやすい。生物は別の項目を立てるべき ・水そのものとの関連性は強くないと思う
④ 虫	・川の水の項目を立てるなら、水の様子に絞った方が分かりやすい。生物は別の項目を立てるべき ・水そのものとの関連性は強くないと思う
⑤ 水中の植物	・評価が難しいのでやめたほうがいいのでは(水草と水辺の草の区別が難しいのでは)
⑥ ごみ	・ごみは川の本質にとってはそんなに重要でない
⑦ 水の流れ	
⑧ 油	・油濁状況は過去数回見かけられた程度であり、連続的な流出状況ではない。これを取り入れれば一日連続観測を続けなければならない、市野川で代表指標とはならない ・事故等によるもので指標になじまない ・事業所の事故による流れ出し以外は考えられない
⑨ 泡	

Dブロック

項目	理由
① 透明感	
② 魚	
③ 鳥	・溪流の場合は生息している種類、数共に少ない ・鳥なので水辺にいることもあり、水の中にもいることもあるので水辺だけに統一したい
④ 虫	
⑤ 水中の植物	
⑥ ごみ	
⑦ 水の流れ	
⑧ 油	・当地域では生活排水の流入はない
⑨ 泡	・当地域では生活排水の流入はない

Eブロック

項目	理由
① 透明感	
② 魚	
③ 鳥	
④ 虫	
⑤ 水中の植物	・唐沢川と桜のイメージが強く水中の植物は一切なく、アジサイの開花時に皆様の心が豊かになるよう努力
⑥ ごみ	・地域の団体で行っているため
⑦ 水の流れ	・水量が少ないため ・季節により水の量が変化する
⑧ 油	・少々なので
⑨ 泡	・状況によって

Fブロック

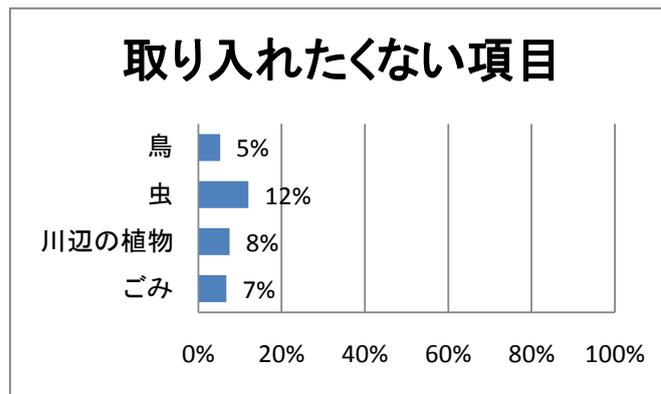
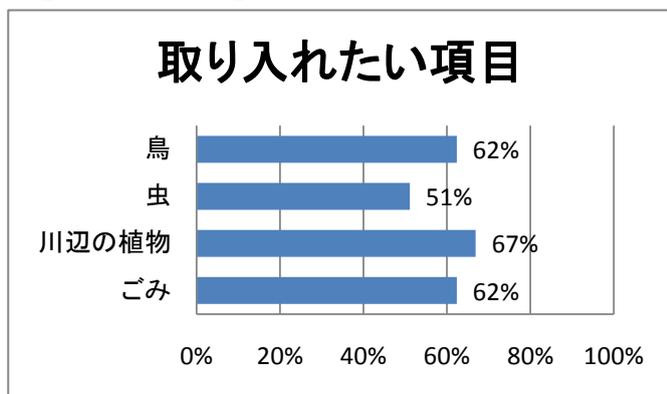
項目	理由
① 透明感	・水の汚れとは直接関係ない、個人差がでてしまう ・人により判断が分かれる ・川の幅員によることに加えて川底と対岸のヘドロー回も清掃してない
② 魚	
③ 鳥	・水の汚れとは直接関係ない ・水そのものではないから
④ 虫	・一目で分からない、調査しないと不明(近づけないところあり) ・採集が難しい ・水そのものではないから
⑤ 水中の植物	・採集が難しい ・確認が難しい ・意味がないと思うので ・水そのものではないから

	<ul style="list-style-type: none"> ・葦類が多いが自然発生のため、水質、量の影響を多分に受けており成り行き次第
⑥ ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・水の汚れとは直接関係ない ・冬期でも水量多く、ゴミのない、油もない、泡もない川を目指したい ・川の汚れの原因 ・倉松川のヘドロ浚渫、産業廃棄物等の大型ごみ(自転車、イス等)を取り除き下水道率の完備、処理施設を強く希望します ・時期的なものもある。また、上流から流れてくることもある
⑦ 水の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期でも水量多く、ゴミのない、油もない、泡もない川を目指したい ・四季を通じて水量(水流)が少なく、流速がなく、川としての役目を果たしていない ・川として機能していないため ・大規模な治水、土木工事で豊かな水の流れ、清流化は図れるものとする ・流れは環境？
⑧ 油	<ul style="list-style-type: none"> ・水の汚れとは直接関係ない ・油が流れているような状況であれば水質浄化以前の問題である ・冬期でも水量多く、ゴミのない、油もない、泡もない川を目指したい ・家庭からのものは見られないので調査するほどではないと思う ・油、泡等は下水道整備の範疇 ・確認が難しい ・川の汚れの原因 ・河川に油が浮いていることが不自然 ・大規模な治水、土木工事で豊かな水の流れ、清流化は図れるものとする ・過去三年間水質検査し一度も見受けられなかったため ・倉松川のヘドロ浚渫、産業廃棄物等の大型ごみ(自転車、イス等)を取り除き下水道率の完備、処理施設を強く希望します
⑨ 泡	<ul style="list-style-type: none"> ・意味がよくわからない ・冬期でも水量多く、ゴミのない、油もない、泡もない川を目指したい ・油、泡等は下水道整備の範疇 ・川の汚れの原因 ・大規模な治水、土木工事で豊かな水の流れ、清流化は図れるものとする ・過去三年間水質検査し一度も見受けられなかったため ・倉松川のヘドロ浚渫、産業廃棄物等の大型ごみ(自転車、イス等)を取り除き下水道率の完備、処理施設を強く希望します

1見る(2)川の水辺

- 川の水辺を見る指標を設定するにあたり、取り入れたい項目と取り入れたくない項目について尋ねた。
 - 取り入れたい項目では、「川辺の植物」が最も多く7割
 - 取り入れたくない項目では、「虫」が最も多く1割半ば

【県全体の結果】

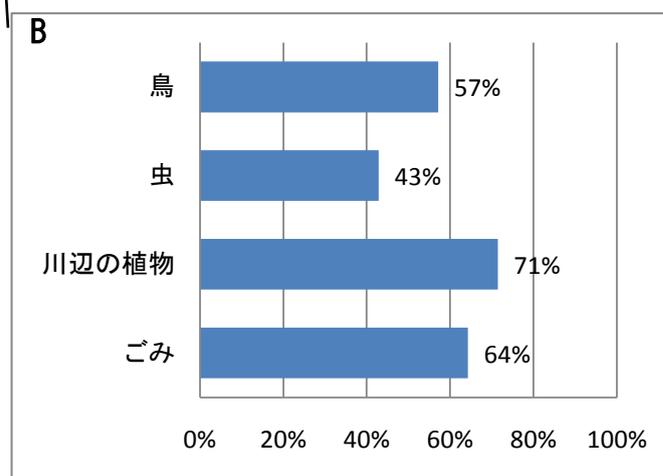
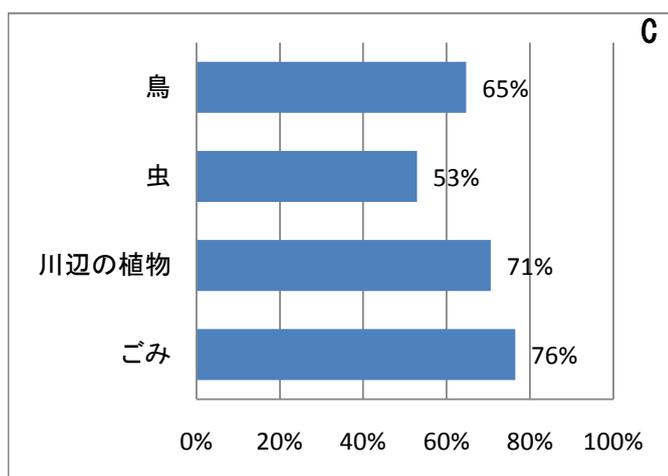
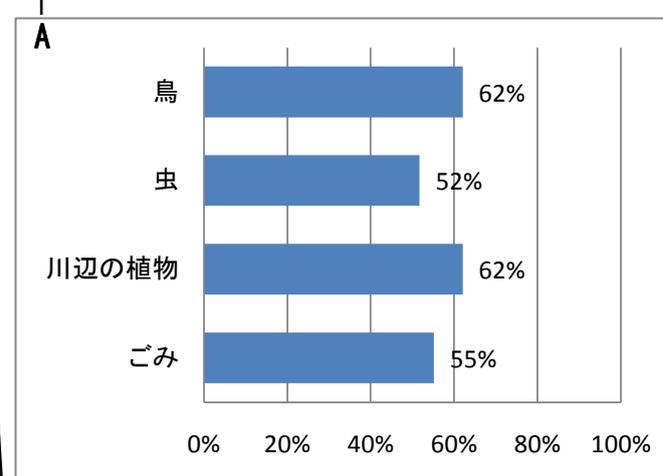
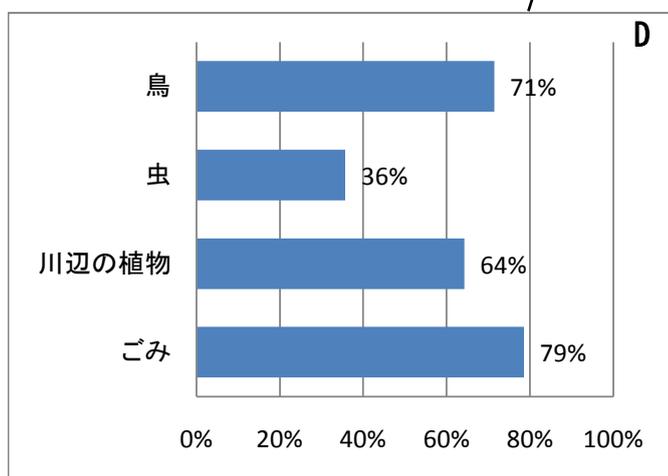
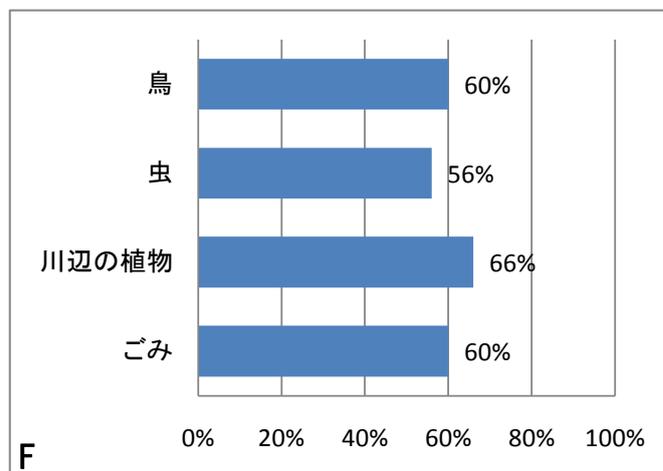
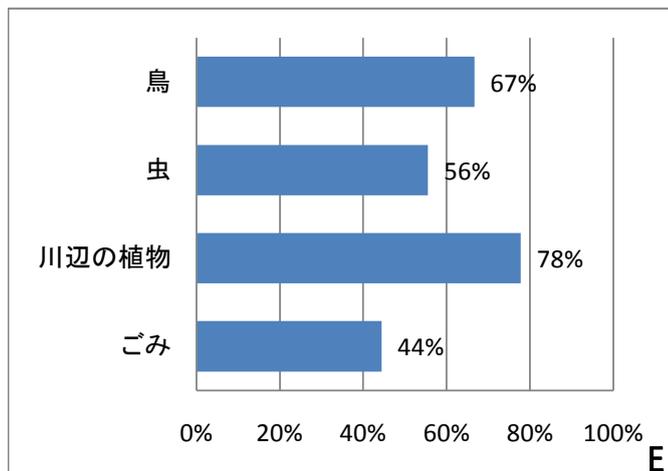


○その他取り入れたい項目

Aブロック	・土手の状況 ・護岸形成 ・整備状況(草刈、標識、案内etc) ・水際のカメ、アメリカザリガニ、クロベンケイガニなど ・虫以外の生き物も入れるべき ・植物では外来種が多いかの項目があってもよい ・親水性・植物の繁茂に対する手入れの状況
Bブロック	・河岸の状況(コンクリートむき出し護岸、コンクリートに覆土した河岸、蛇籠護岸、天然河岸の方が川の良否についてのより本質的な指標である) ・景観(木陰、自生の草花)
Cブロック	・川に入りやすいかどうか(網があって入れない、急斜面で入れない等、入りやすい、草が繁茂して入れない等) ・コンクリート護岸か、自然護岸か、多自然工法護岸か ・河畔林 ・河原の有無 ・アシ、オギ、ススキなどの在来種植物の有無 ・川の浄化活動 ・子供たちの遊び ・哺乳類、は虫類、両生類など ・河畔林・プラスチック製のごみ ・外来種の植物を入れる、例えばブタ草、セイタカアワダチソウetc ・水辺に近寄れる場所の有無等
Dブロック	・植物の種類について(針葉樹(植林されている)、落葉樹、雑木等) ・鳴(しぎ)の巣の保護 ・河原への車、バイクの乗り入れ対策
Eブロック	
Fブロック	・周辺の地形、地質 ・護岸の構造や材質 ・周辺の住居の有無 ・景観、自然が保たれているか ・釣り人の有無 ・遊歩道の有無(手入れが行きとどいているか) ・岩がある ・護岸の状況(自然、三面) ・フェンスで覆われている ・川岸の形態(水辺におりられる、フェンスで覆われている等) ・構造物(石垣、護岸、フェンス、遊歩道、親水施設、橋、浮島、生物生息のための仕掛) ・川の周辺の草刈り ・植物を多くして頂きたい ・草 ・犬(鳥)のフン ・住民の環境意識を高める標語や誌 ・人の往来 ・川の土手に樹木(木陰にベンチ)があるか ・ウォーキング、サイクリングコースがあるか ・土手の状況(三面コンクリートか二面工かとか) ・川の周辺の緑化(草も含む)率(緑で覆われている割合)はどのくらいか ・雑草

【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

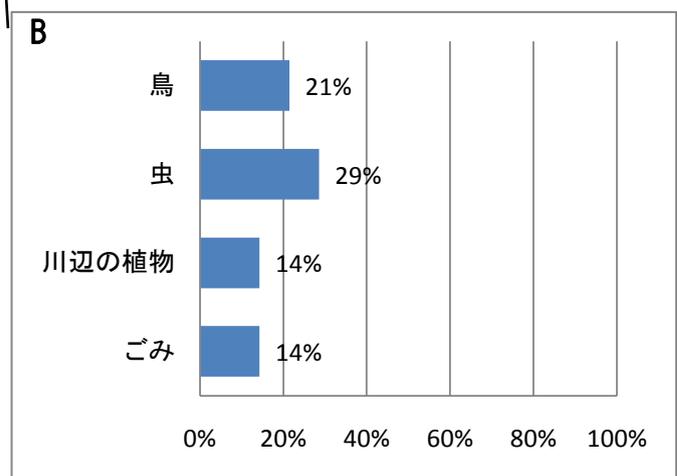
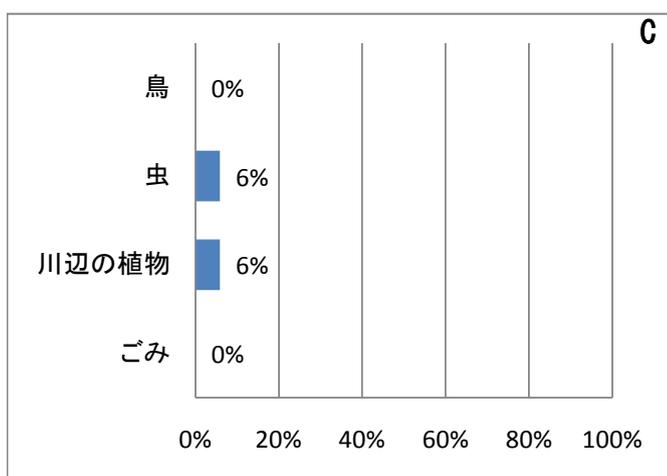
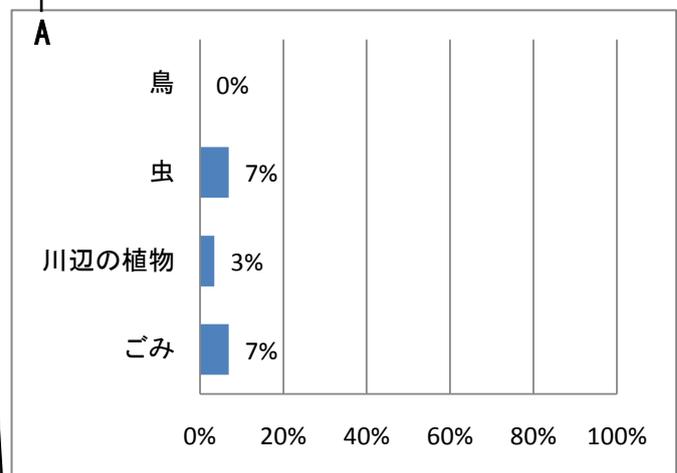
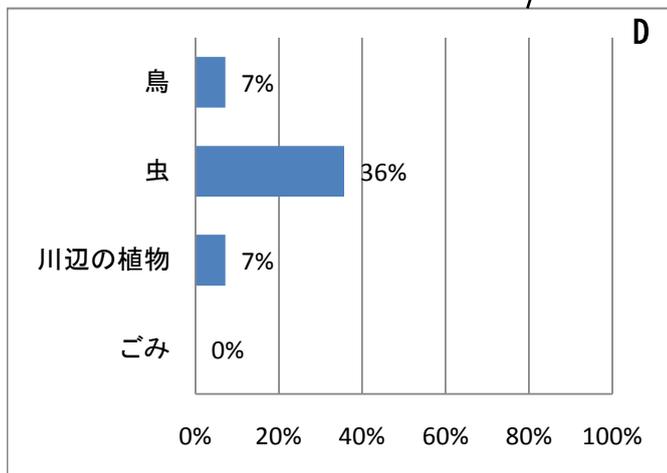
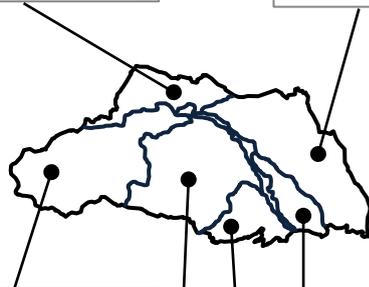
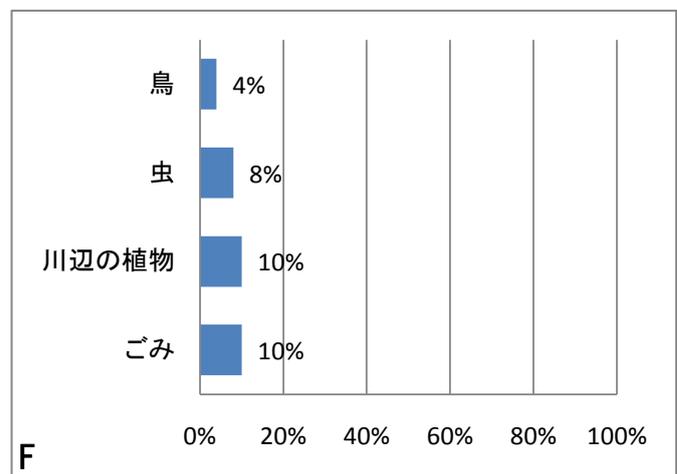
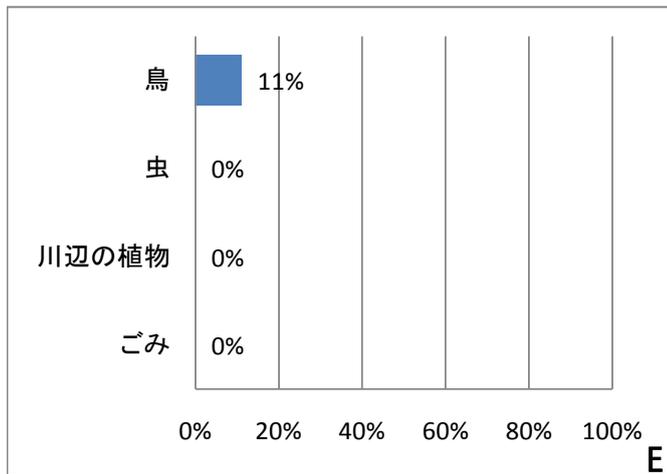
①取り入れたい項目



C及びDブロックで「ごみ」を取り入れたいとした割合が高く(約75~80%)、その他のブロックは「川辺の植物」を取り入れたいとした割合が高かった(約65~80%)。

また、全てのブロックで約6割以上が「鳥」と「川辺の植物」を取り入れたいとしていた。

②取り入れたくない項目



B及びDブロックで「虫」は取り入れたくないとした割合が高く(約30~35%)、全体的に取り入れたくない項目にばらつきがあった。

○取り入れたくない理由

Aブロック

項目	理由
① 鳥	
② 虫	<ul style="list-style-type: none"> ・入れても良いのだが時期とか時間で見つける努力が・・・。 ・虫とは昆虫のことなのか？②は魚、鳥以外の生き物(へび、カエル、カニや哺乳類など)を含むべきと思う。
③ 川辺の植物	・たくさんあることが良いことなのか誤解を招く。
④ ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみが全くない川は日本にありますか。 ・人為的な投棄によるものが多く、改めて指標に入れる必要はない。

Bブロック

項目	理由
① 鳥	<ul style="list-style-type: none"> ・カワセミやカモ類がいるかどうかは取り入れたいが、これらが見あたらなかったからといってダメだとも言えない。また、鳥一般(カラス、スズメ含む)の有無では指標にならない。虫も同様。 ・主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい。 ・当4項目は川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます。
② 虫	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の種類が多くて何を指しているのかわかりにくい。益虫、害虫、様々ありますので。 ・カワセミやカモ類がいるかどうかは取り入れたいが、これらが見あたらなかったからといってダメだとも言えない。また、鳥一般(カラス、スズメ含む)の有無では指標にならない。虫も同様。 ・主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい。 ・当4項目は川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます。
③ 川辺の植物	<ul style="list-style-type: none"> ・主観的な要素が特に多く、基準が全くないので判断しづらく、集計結果も信頼性がうすい。 ・当4項目は川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます。
④ ごみ	・当4項目は川の中とその水辺を行き来する子供たちに似ており、1見る(3)川の水と水辺で一体として取り上げるべきと考えます。

Cブロック

項目	理由
① 鳥	
② 虫	・幼虫の時期に河床石裏や土手に生息し羽化する昆虫類については、調査時期・方法が限定されるため。
③ 川辺の植物	・具体性に欠ける。
④ ごみ	

Dブロック

項目	理由
① 鳥	・何もしなくてもOK、不要。
② 虫	<ul style="list-style-type: none"> ・何もしなくてもOK、不要。 ・虫は水生昆虫について調べているので。
③ 川辺の植物	・何もしなくてもOK、不要。
④ ごみ	

Eブロック

項目	理由
① 鳥	・カラスや水鳥などにより、せっかく咲いた花々が鳥などにより食べられることを防ぎたい。
② 虫	
③ 川辺の植物	
④ ごみ	

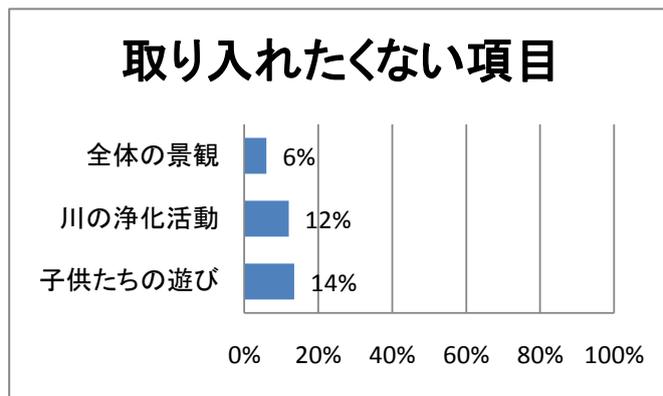
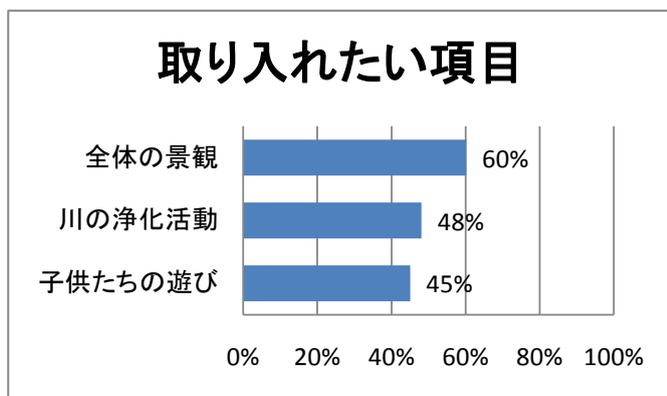
Fブロック

項目	理由
① 鳥	・季節により変動があり目標にならない。 ・この項目は水質を表していない。
② 虫	・季節により変動があり目標にならない。 ・この項目は水質を表していない。 ・採集が難しい。 ・自然発生、水質や量の影響大(いなご、バッタ等、農薬の影響もある)
③ 川辺の植物	・季節により変動があり目標にならない。 ・この項目は水質を表していない。 ・採集が難しい。 ・ヨシが大部分を占める。種類が多い。 ・意味がないと思うので
④ ごみ	・この項目は水質を表していない。 ・ゴミのない川 ・川の中のごみは取ることができません。 ・ごみは川ではなく、そのまわりの環境が大きく左右するので、川がきれいでもごみがあるところもある。

1 見る(3)川の水と水辺

- ・川の水と水辺を見る指標を設定するにあたり、取り入れたい項目と取り入れたくない項目について尋ねた。
 - 取り入れたい項目では、「全体の景観」が最も多く6割
 - 取り入れたくない項目では、「川の浄化活動」が最も多く1割半ば

【県全体の結果】

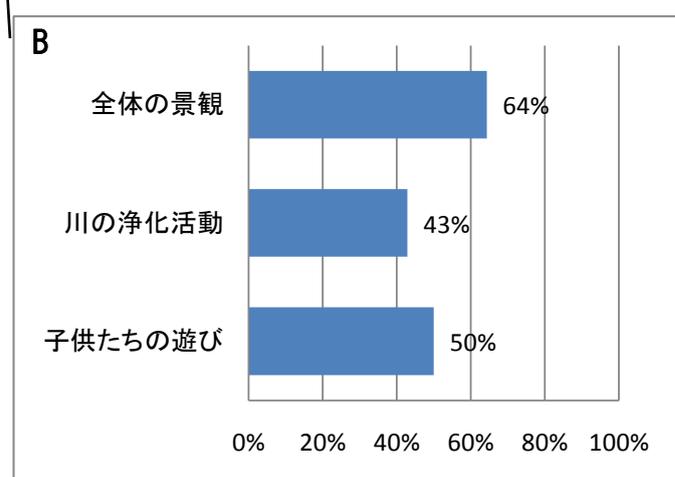
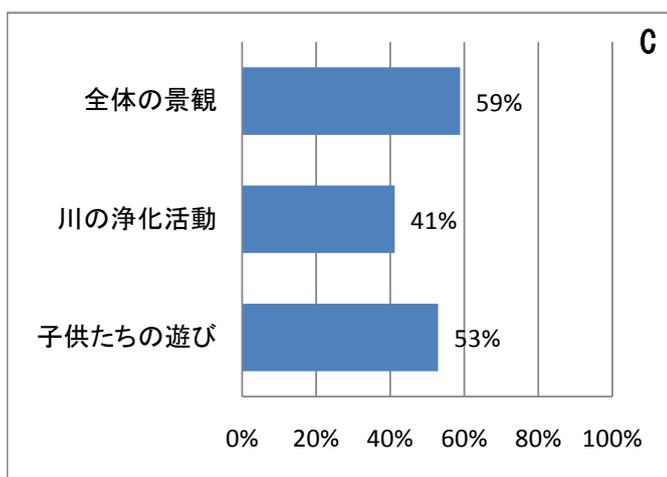
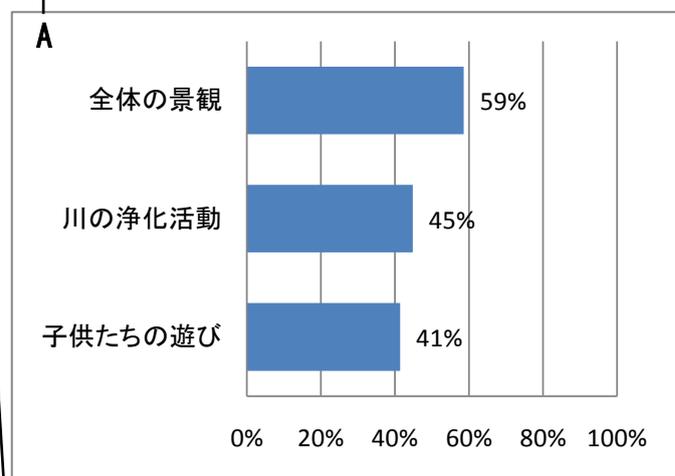
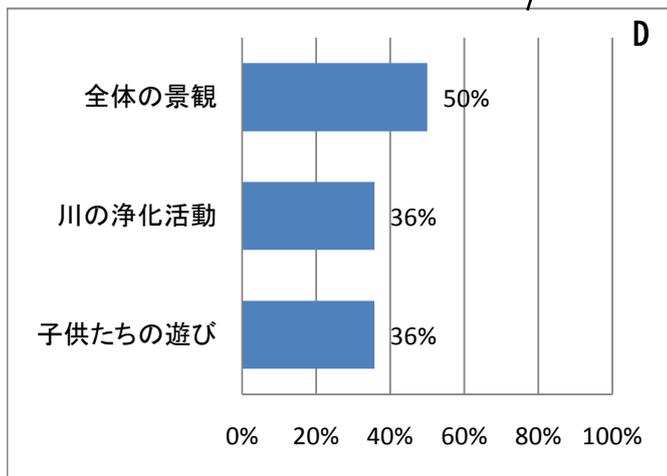
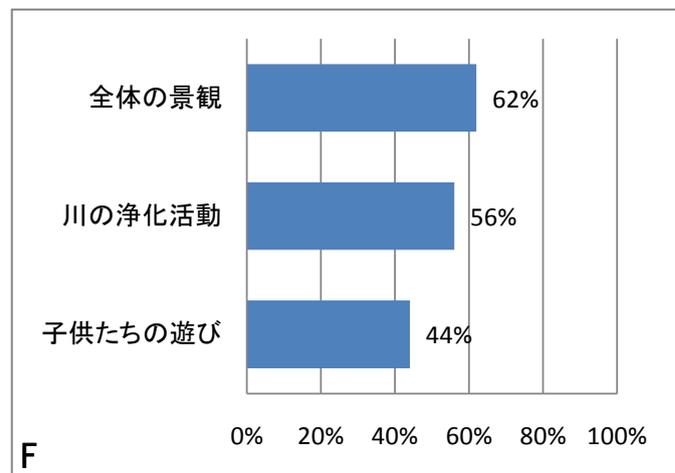
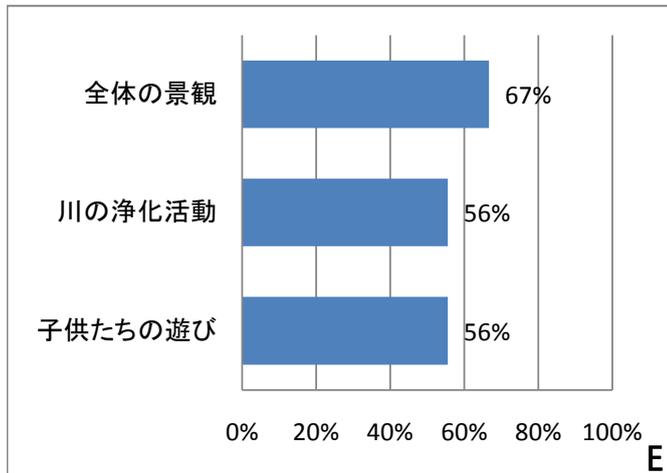


○その他取り入れたい項目

Aブロック	・水温、水質、水流等の定点観測 ・整備状況 ・護岸 ・散歩している人 ・散歩している人の年代 ・水辺の利用もわかると良いのではないかと(ジョギング、散歩、サイクリング、観察会等) ・親水性 ・歩道 ・木や花 ・水辺を安心して歩けるか、近づけるか
Bブロック	・鳥 ・虫 ・植物 ・ごみ
Cブロック	・子供たちの年齢(中学生、小学生高学年、低学年、未就学児) ・川の護岸の様子・川の蛇行の様子 ・瀬と淵の有無 ・川原の有無 ・川床の様子(砂礫～ヘドロ) ・堰(農業用など)の上げ下げ ・川辺のにぎわい ・川と都市との関わり ・親子の散歩 ・水辺に近づける空間や歩道があるか否か、安全性はどうか(②は清掃活動の方が適当と思われます) ・民家と水流のある場所との最短距離
Dブロック	・護岸の様子(川が何でできているか、コンクリート護岸、自然が残されている) ・河川周辺の学校などへの川遊び、清掃活動の呼びかけ
Eブロック	・護岸構造
Fブロック	・住民との協調性 ・住民との生活空間、環境学習 ・自然の保全 ・水辺で何をしているか(釣り、遊び、何もしていない) ・魚の休む場所がある ・鳥の休む場所がある ・人の姿がある(散歩している、魚釣りしている) ・川床川下り ・祭 ・観察会 ・ウォーキングコース ・観光 ・大人の利用 ・散歩やジョギング・なごみ(リラックス) ・人とのふれあい・土手を散歩する市民の数・川の土手に樹木(サルスベリ、ねむの木、ドングリ)があるか ・保全組織又は浄化活動組織があるかないか(行政も加えて) ・川の清掃活動 ・川岸への接道ルート(階段状など) ・交通(車で近くまで行けるか、歩いて水辺まで行けるか)

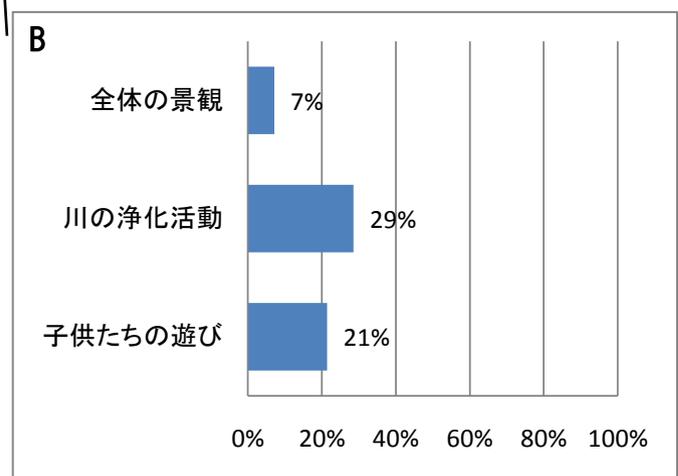
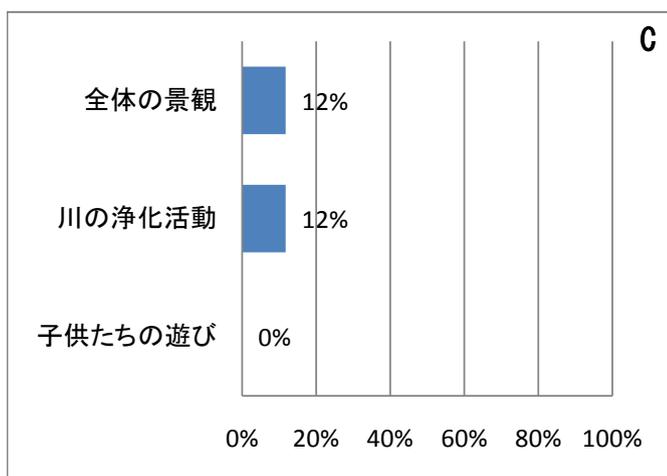
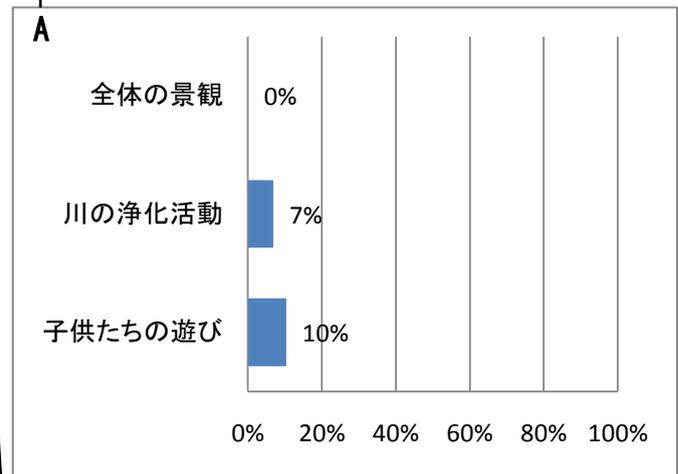
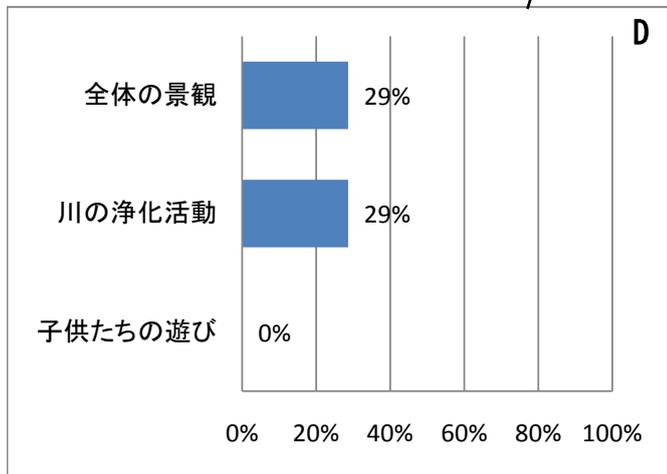
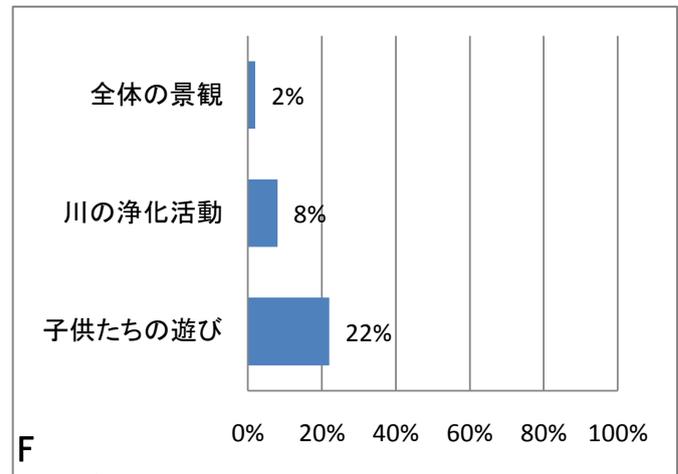
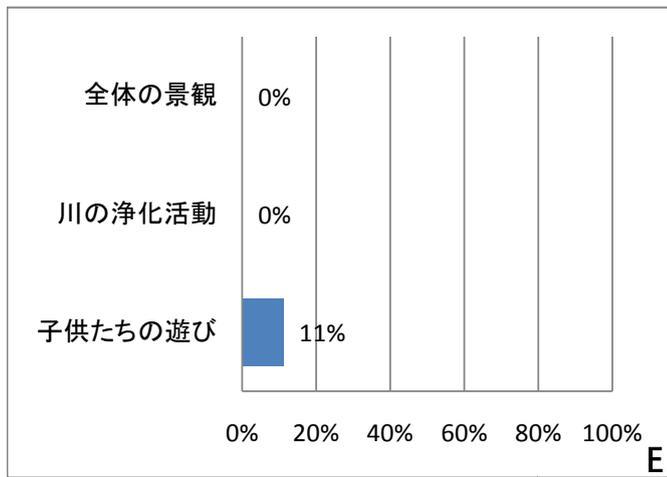
【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

①取り入れたい項目



全ブロックで「全体の景観」を取り入れたいとした割合が高かった(約50～70%)。

②取り入れたくない項目



A及びFブロックで「子供たちの遊び」は取り入れたくないとした割合が高く(約10~20%)、C及びDブロックで「全体の景観」及び「川の浄化活動」は取り入れたくないとした割合が高かった(約10~30%)。

○取り入れたくない理由

Aブロック

項目	理由
① 全体の景観	
② 川の浄化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所の法面が急峻でフェンスが巡らされ川におりることができない。また、観察等のできる川洲の利用も整備されていないのでできない。 ・市民による浄化活動の有無で判断できないのではないか。
③ 子供たちの遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場所の法面が急峻でフェンスが巡らされ川におりることができない。また、観察等のできる川洲の利用も整備されていないのでできない。 ・遊んではいけない場所？、遊び場として整備されているか？ ・安全確保と水難事故

Bブロック

項目	理由
① 全体の景観	<ul style="list-style-type: none"> ・見た目ということだと思いがピンとこない。
② 川の浄化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・川の浄化活動を良くしても利用者の大半のマナーが悪く綺麗でないこともままある。 ・農業用水としての役割があるので、管理者との調整が必要となる。 ・川の良否は僅か2～300m程度のエリアの中では決められない。上流から下流までの川全体で判断することが重要。5分勾配のコンクリート護岸の川では川に降りることは困難。川の中で子供らが遊ぶことの可否は水質の化学的検査や大腸菌検査による判断が不可欠。(水に触れる程度なら前述したように水道水での手足の洗浄が必要) ・下水道が完備しておらず、周辺の住民の意識がまとまっていない。
③ 子供たちの遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・農業用水としての役割があるので、管理者との調整が必要となる。 ・事故が心配、安全確保が大きな課題 ・川の良否は僅か2～300m程度のエリアの中では決められない。上流から下流までの川全体で判断することが重要。5分勾配のコンクリート護岸の川では川に降りることは困難。川の中で子供らが遊ぶことの可否は水質の化学的検査や大腸菌検査による判断が不可欠。(水に触れる程度なら前述したように水道水での手足の洗浄が必要)

Cブロック

項目	理由
① 全体の景観	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が難しい。 ・川の水と水辺→川全体の様子に変更
② 川の浄化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化活動は河川利用を代表していない。 ・浄化活動が活発かどうかは環境評価につながらない
③ 子供たちの遊び	

Dブロック

項目	理由
① 全体の景観	<ul style="list-style-type: none"> ・何をもって美しいかは人によって違う。それよりは、林がある、なし、草地あるなし、土あるなしなど具体的なものの方がいいかと思えます。
② 川の浄化活動	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる所と離れているのでわからない。
③ 子供たちの遊び	

Eブロック

項目	理由
① 全体の景観	
② 川の浄化活動	
③ 子供たちの遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの遊べる場所でないため。

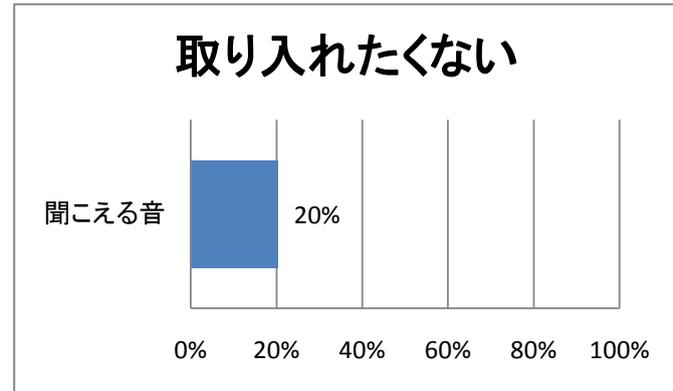
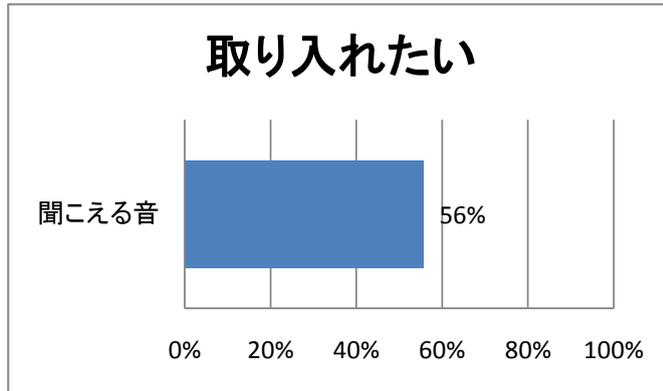
Fブロック

項目	理由
① 全体の景観	・自然環境そのもの、取り上げても意味はない。
② 川の浄化活動	・実施の有無が分からない。 ・浄化活動は指標には合わない。 ・川の現在の水質調査には関係がない。 ・浄化活動と環境指標は関係あるのか？よく活動しても、上流から流されては汚れる。
③ 子供たちの遊び	・深作川の水辺は堤防から急勾配のため、子供が遊ぶには危険である。 ・水辺周辺での子供たちの遊びを、あえて誘導する必要はない。 ・子供は今、外で遊ばない。大人だっている。 ・安全上、問題が多い。 ・危険を有するということで禁止事項になっているため。 ・川の現在の水質調査には関係がない。 ・岸に近寄るのが難しい。 ・ウォーキングロードはあるが遊び場(スペース)がない。 ・子供たちが遊べる(昔は泳げた)河川になればと思います。

2聞く

- ・聞こえる音の指標を設定するにあたり、取り入れたいか入れたくないかについて尋ねた。
→「聞く」を取り入れたいの回答が6割

【県全体の結果】

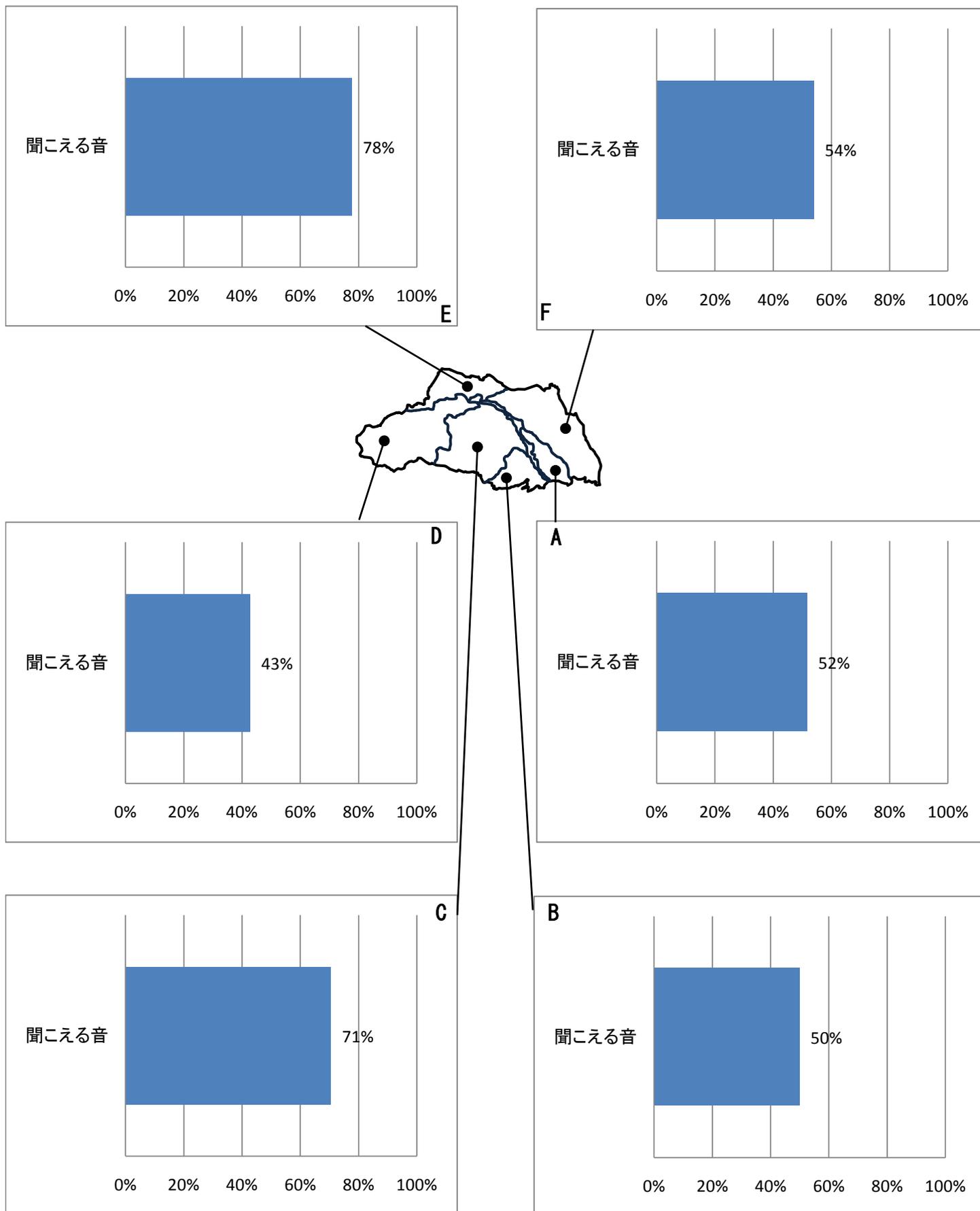


○その他取り入れたい項目

Aブロック	・鳥の声 ・子供の声 ・鳥の声 ・水の水音 ・虫の声 ・水辺で楽器を練習する音 ・水の流れる音 ・風の音 ・木が揺れる音 ・川面を通る風による草や小枝の音
Bブロック	
Cブロック	・見かける小鳥の名前(カワセミ、セキレイ、カモ、サギ他) ・せせらぎの音(具体的な表現を)
Dブロック	
Eブロック	・自然感のある音
Fブロック	・流れがあるか、ないか ・鳥の声 ・鳥のさえずり ・鳥の鳴き声 ・自然の音(これ以外は取り入れたくない) ・虫のなき声 ・水の水音 ・水辺の水音 ・鳥の鳴き声等(美空にひばり、青田にかえるの声)

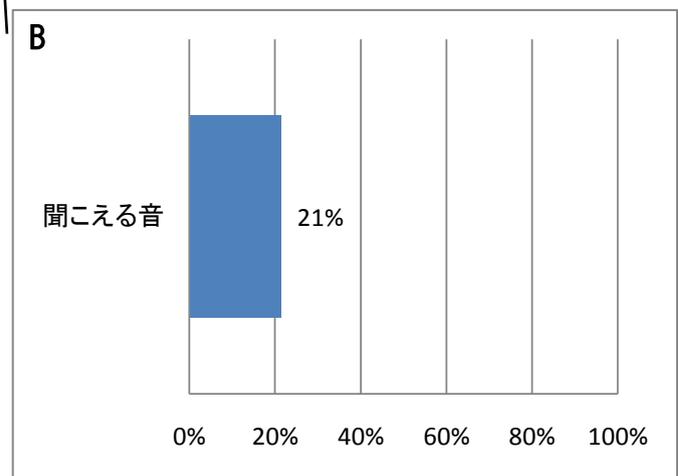
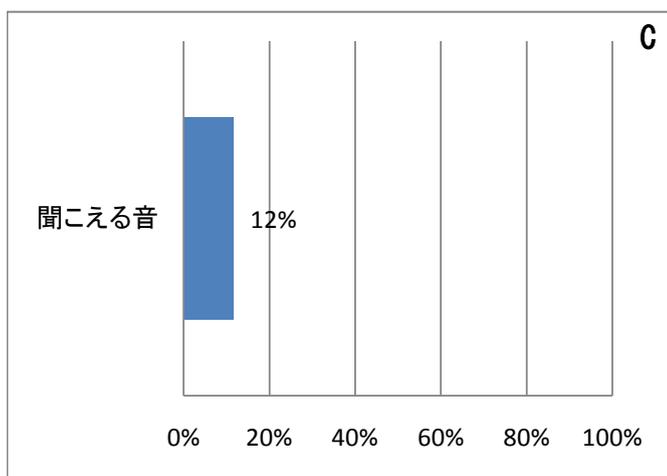
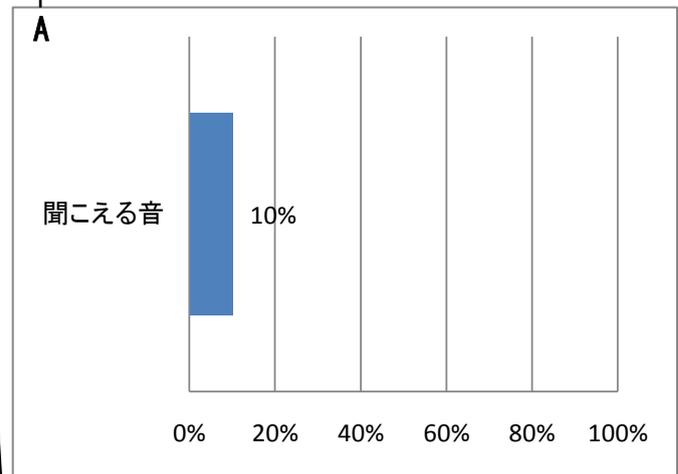
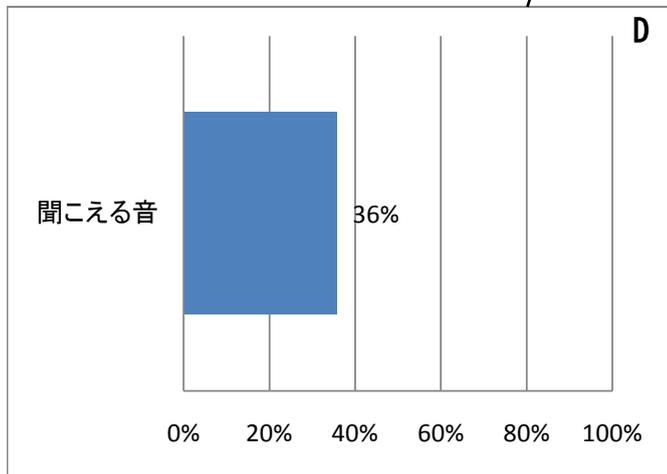
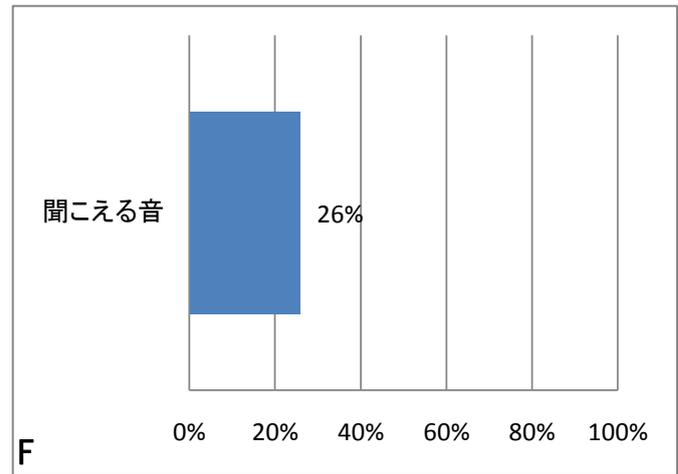
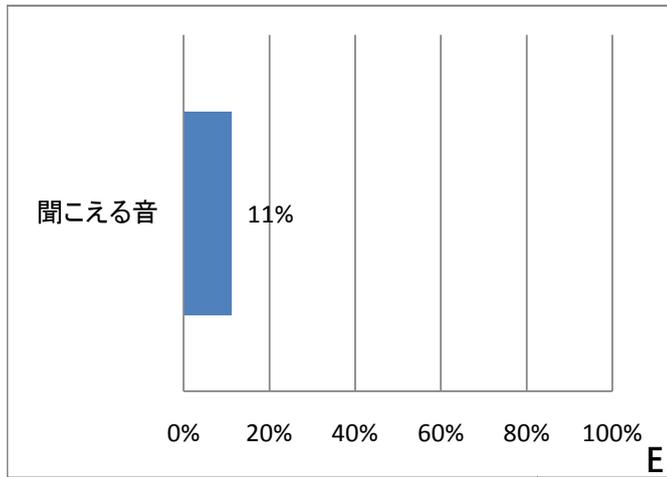
【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

①取り入れたい



Dブロック以外の全ブロックにおいて約5割以上が「聞こえる音」を取り入れたいとしていた。

②取り入れたくない



Dブロックでは、取り入れたい(約40%)と取り入れたくない(約35%)が、ほぼ同じ割合であった。

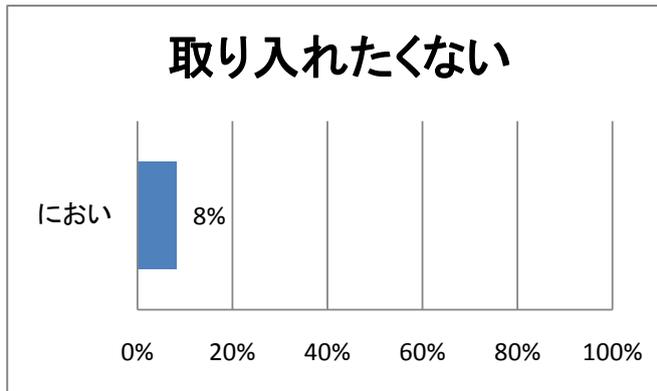
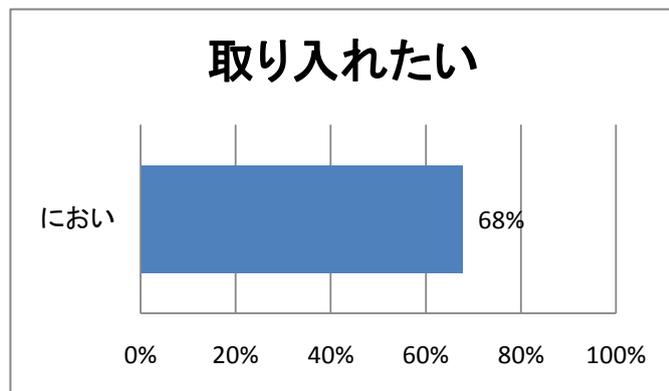
○取り入れたくない理由

Aブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・水量が少なく、川の中に小川があるという状況で、それは自然な蛇行をしていて誠によいが、流れそのものはゆっくりしていて音を楽しむには程遠い。 ・歩道と水面の落差が5m以上もあるため ・音がしない川の方が多いのでは。
Bブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・水量が少なく、川というより水路のよう。 ・個人の好みによるので指標化するのは難しいのではないのでしょうか。 ・音の感じ方は個人ごとにばらつきがあり、また、同一人でも異なる可能性あり。
Cブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が難しい。①動物(カエルや虫)の音がする②人の声③車や機械の音で評価したらどうか。①は良③は悪。
Dブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・川の流れる音にいい音と不快な音の差はどこで区別するのでしょうか。周辺の工場の音ですか。川は勢いがよければ音がしますし、流れがなければ音はしません。
Eブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・水量がない、自然が対象のため。
Fブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地を流れる綾瀬川では流れの音の指標は不要。 ・この川での項目では合っていない気がする。 ・綾瀬川では無理。 ・海拔からして川はそんなに流れない下流なので音は無理。 ・水量がなく、水音がほとんど聞こえない。 ・特に必要としない。 ・場所により差が大きく、指標にするのは問題。 ・同じ音でも評価は個人差が大きく、このままでは×。 ・音が発生するような流れではない。 ・大きな川なので音がしない、条件が異なる。

3 嗅ぐ

- ・においの指標を設定するにあたり、取り入れたいか入れたくないかについて尋ねた。
→「におい」を取り入れたいの回答が7割

【県全体の結果】

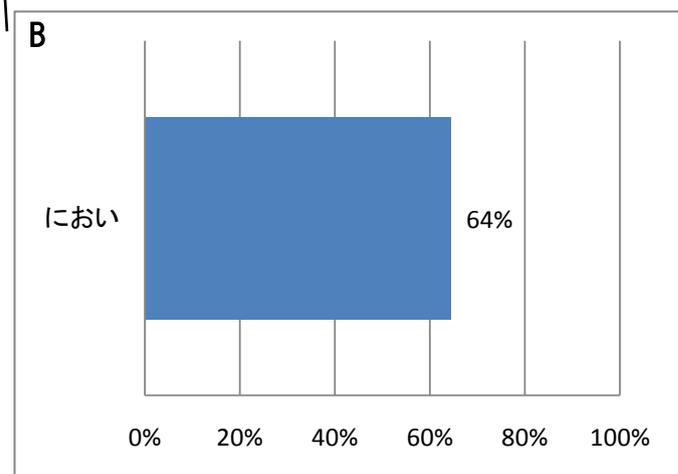
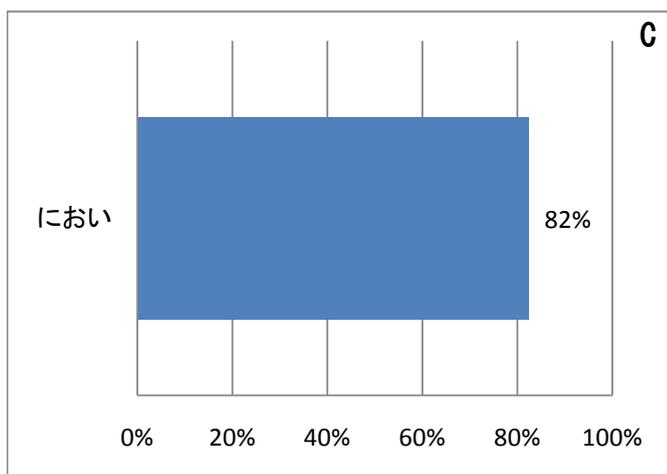
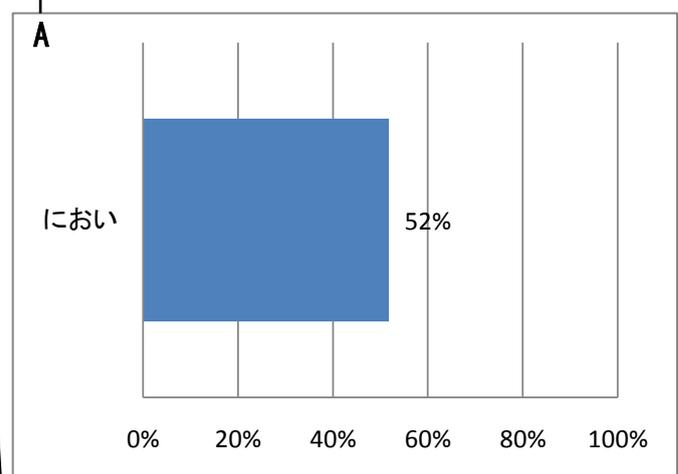
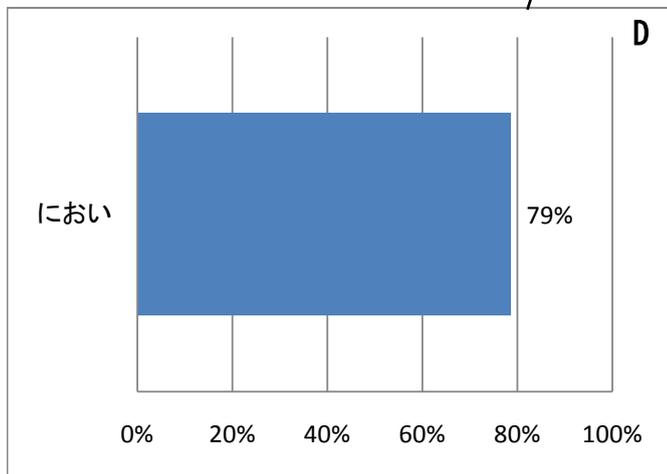
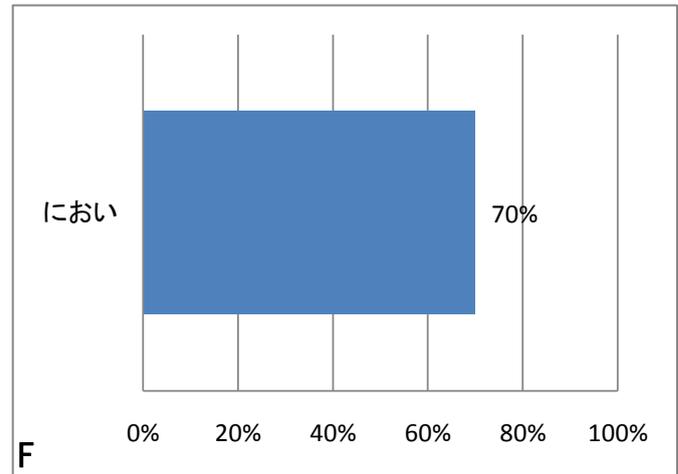
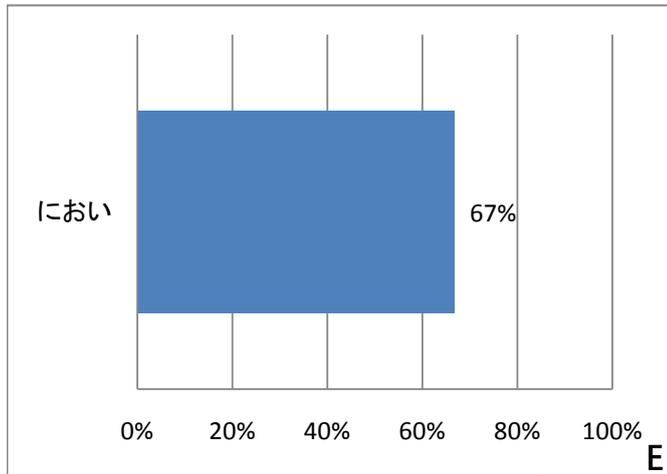


○その他取り入れたい項目

Aブロック	・草花の臭い ・草のにおい ・虫のにおい ・ごみのにおい ・水のにおい ・投棄物のにおい ・油のにおい ・悪臭があるかないか
Bブロック	
Cブロック	・川の(水)色(アオコ発生による緑色、赤土流入による赤褐色濁水など、代表的な河川環境の変化を色別に表現できるかもしれません。) ・色(採取してみないとわからない)
Dブロック	
Eブロック	
Fブロック	・植物の香り ・水辺のにおい ・水そのもののにおい ・草や木の自然な香り

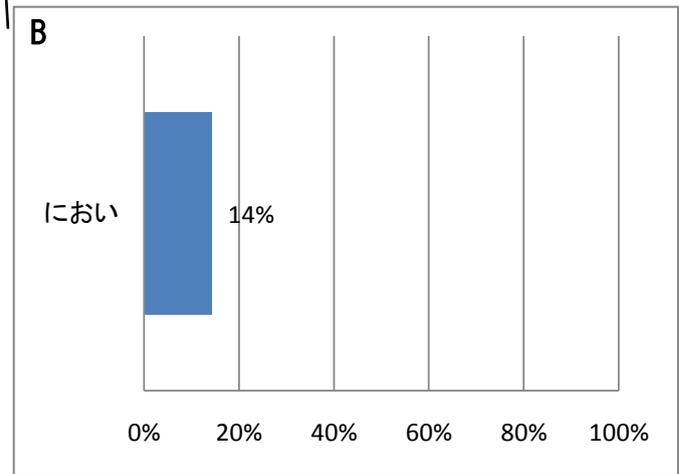
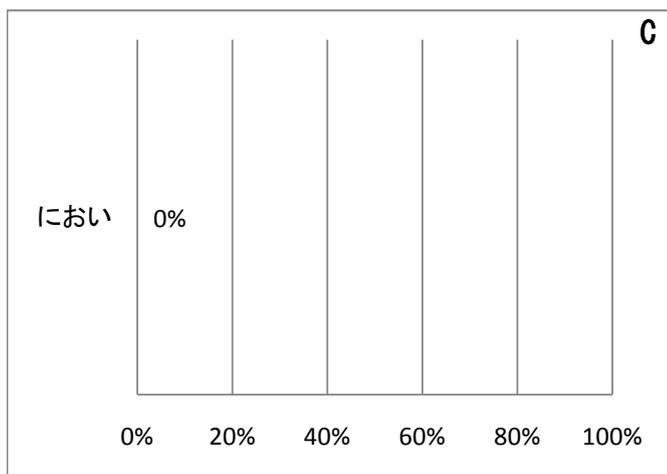
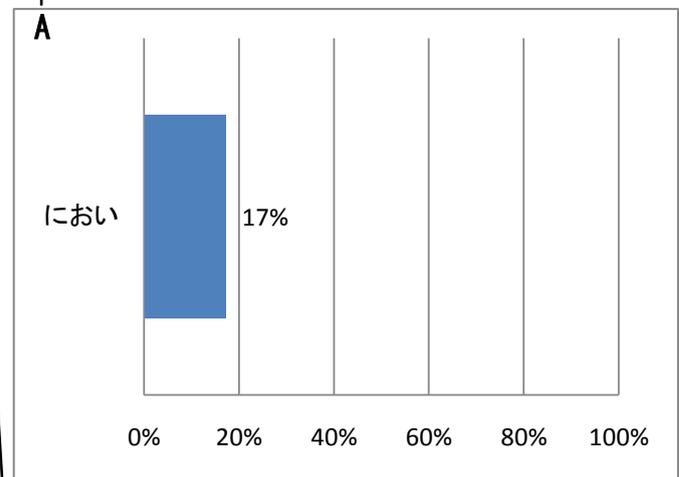
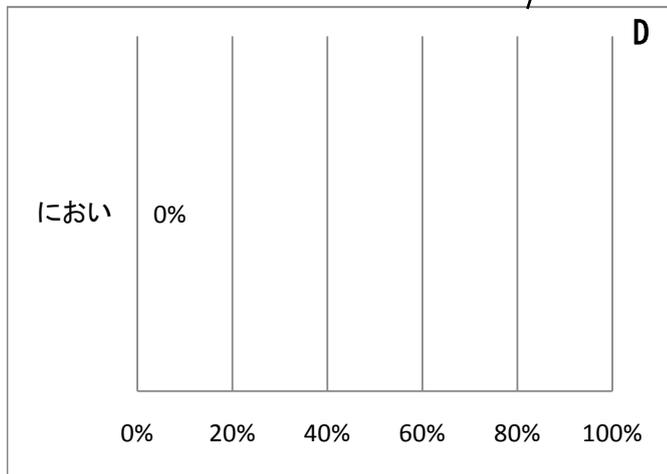
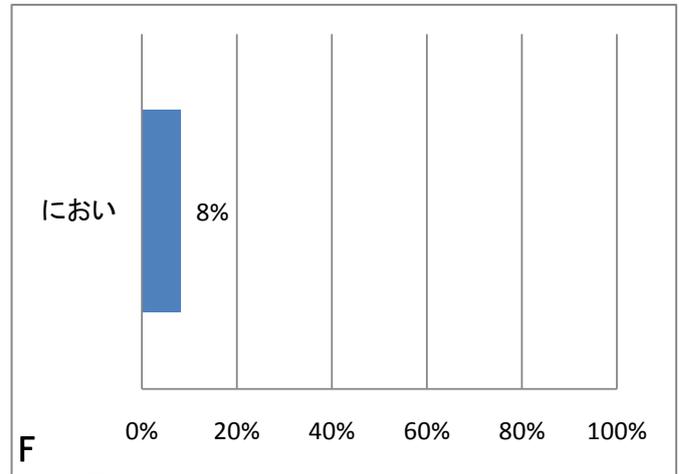
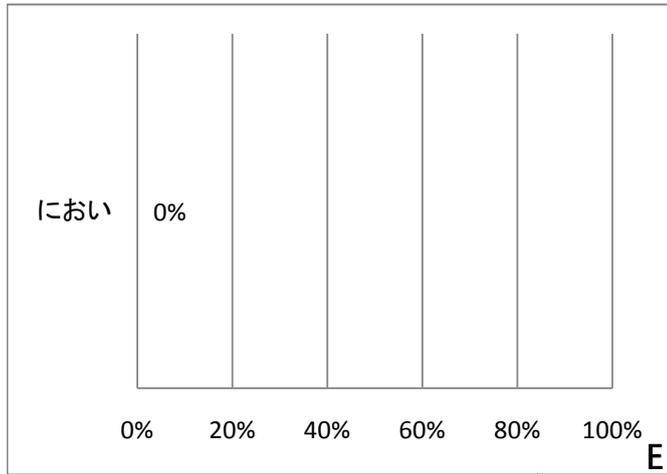
【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

①取り入れたい



全ブロックにおいて約5割以上が「におい」を取り入れたいとしていた。

②取り入れたくない



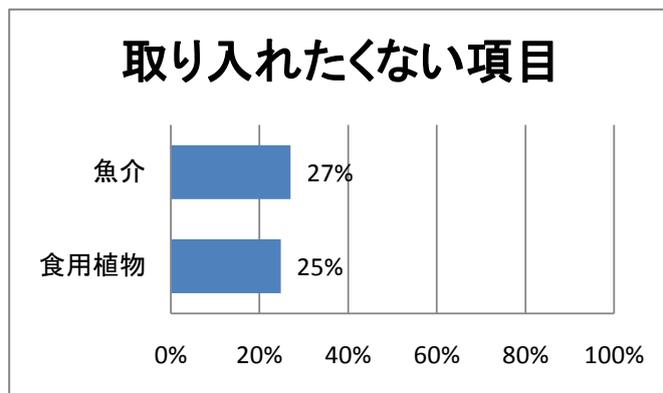
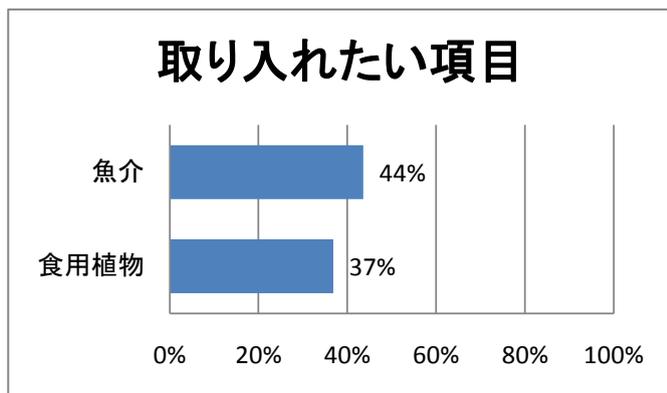
C、D及びEブロックで「におい」を取り入れたくないとした割合は0であった。

○取り入れたくない理由

Aブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが嗅げる状態ではない。 ・近くで嗅いだら臭うかも。 ・川に「心地よい香り」はあるのだろうか。広く森林に囲まれたところでは森林の香りがするが。 ・潮の干満により臭いがする。 ・自然のありのままがいい
Bブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・心地よい香りというのがわかりにくい。例を挙げてもらうと助かる。 ・下水道が完備するまで取り入れることはできない。
Cブロック	
Dブロック	
Eブロック	
Fブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・工場や家庭から捨ててに来る人もいる。ボランティアでは対応は無理。 ・評価の方法を変えれば○。 ・不快な臭いが無くなることを希望します。

4味わう

- ・味わう指標を設定するにあたり、取り入れたい項目と取り入れたくない項目について尋ねた。
 - 取り入れたい項目では、「魚介」が4割半ば、「食用植物」が4割
 - 取り入れたくない項目では、「魚介」が3割、「食用植物」が2割半ば
- 【県全体の結果】

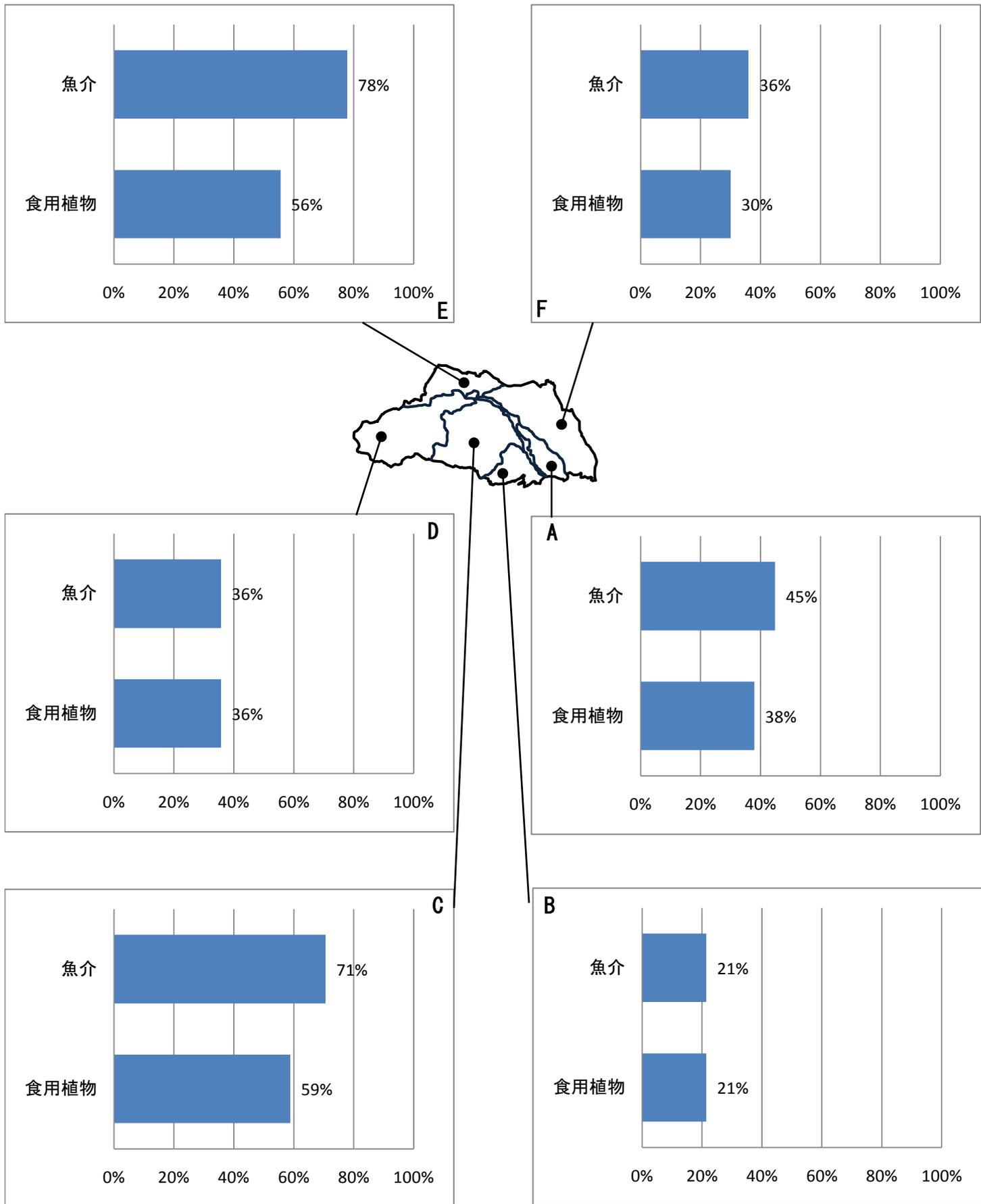


○その他取り入れたい項目

Aブロック	
Bブロック	・水質の化学検査、大腸菌検査
Cブロック	・魚介の種類(しじみ、たにし、かわにな他) ・食用植物の種類 ・河畔林の樹木の実(鬼ぐるみ等)
Dブロック	
Eブロック	
Fブロック	・野草(食用) ・魚の種類 ・食用にできる魚、植物 ・一年を通して食用植物の時期と分布を調査し知らせる。 ・川エビ等魚以外の生き物 ・空気(大気)(田舎だけにいい感じ)

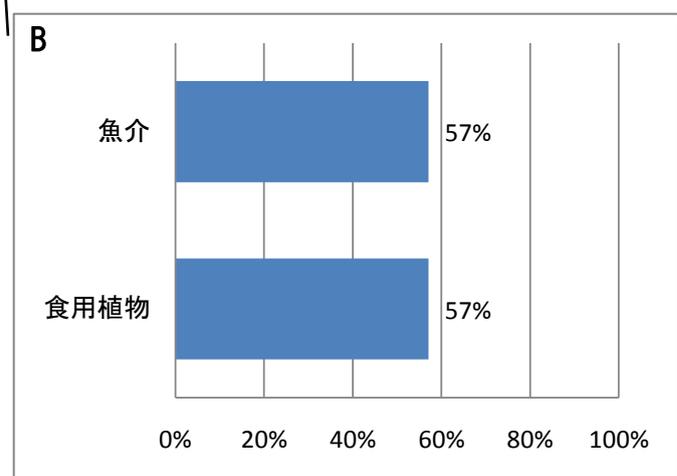
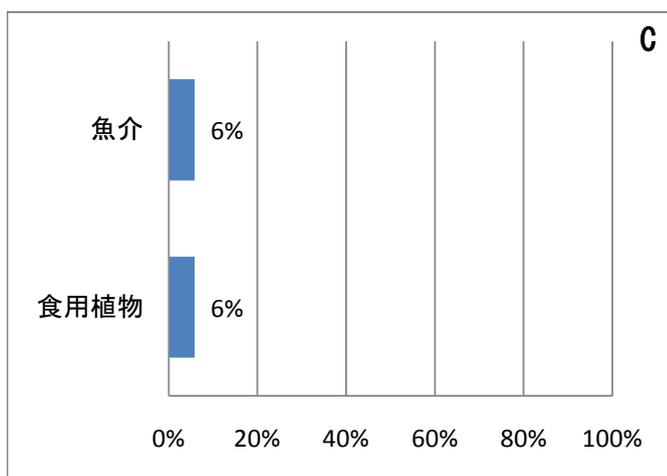
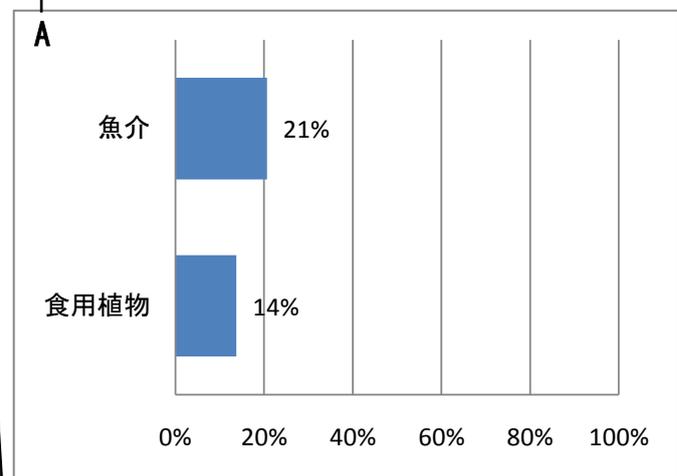
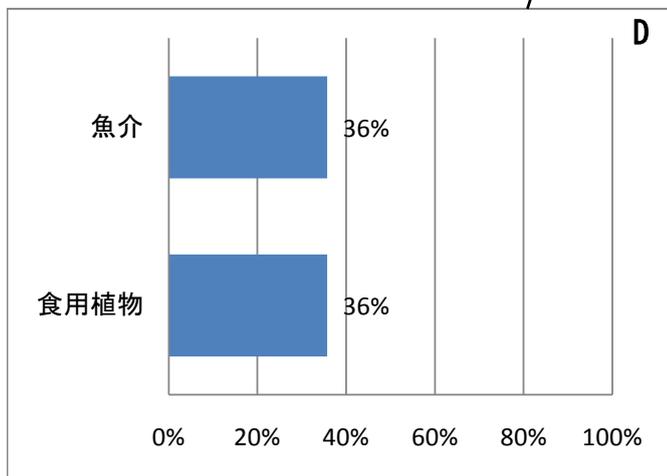
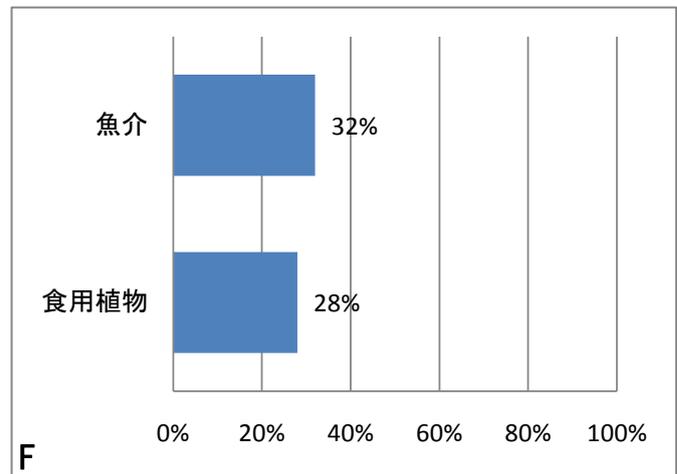
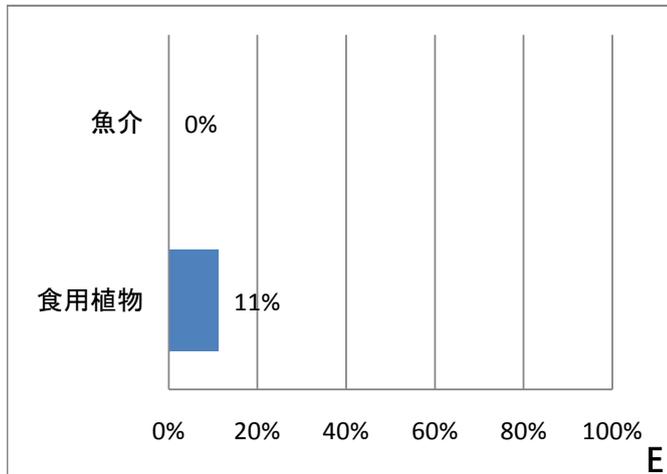
【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

①取り入れたい項目



C及びEブロックは「魚介」及び「食用植物」を取り入れたいとした割合が50%を超えていたが、その他のブロックでは50%に達していない。

②取り入れたくない項目



Bブロックは「魚介」及び「食用植物」を取り入れたくないとした割合が50%を超えており、さらに、この割合は取り入れたいとした割合(約2割)の約3倍。
 D及びFブロックは取り入れたいと取り入れたくないが、ほぼ同様の割合。
 その他のブロックは取り入れたいの割合が取り入れたくないの割合の2~10倍。

○取り入れたくない理由

Aブロック

項目	理由
① 魚介	・食用(味わう)にできる程の環境(清浄度)にはない。
	・魚、コイが油臭く、大きい食べられない。
	・食べてみたいと思えない川(特に下流域)の方が多いのでは。
	・食べられなくても魚が住める川であってほしいのみです。
	・川の臭いで食欲でない。
② 食用植物	・食した時の影響等の責任問題。
	・食用(味わう)にできる程の環境(清浄度)にはない。
	・食べてみたいと思えない川(特に下流域)の方が多いのでは。
	・川の臭いで食欲でない。
	・食した時の影響等の責任問題

Bブロック

項目	理由	
① 魚介	・今は昔のように魚を釣ったり捕ったりして食べたり、自生植物を食べたりしなくなっている。	
	・河川の景観継続が重要です。鑑賞できればよい。	
	・味わうに関しては現況では無理かも。	
	・「食べる」については、慎重に検討したらよいと思います。	
	・水質の化学検査、大腸菌検査結果がなくて、食べることを奨励するような指標を設けるのは賛成できない。	
	・食用に用いることは考えられない。	
	・食品に関する問題が起きている今、指標化して事故が起きたときに責任が持てない。	
	・良好な環境の保全、生物多様性の保持の観点から違和感。	
	② 食用植物	・今は昔のように魚を釣ったり捕ったりして食べたり、自生植物を食べたりしなくなっている。
		・河川の景観継続が重要です。鑑賞できればよい。
・味わうに関しては現況では無理かも。		
・「食べる」については、慎重に検討したらよいと思います。		
・水質の化学検査、大腸菌検査結果がなくて、食べることを奨励するような指標を設けるのは賛成できない。		
・食用に用いることは考えられない。		
・食品に関する問題が起きている今、指標化して事故が起きたときに責任が持てない。		
・良好な環境の保全、生物多様性の保持の観点から違和感。		

Cブロック

項目	理由
① 魚介	
② 食用植物	

Dブロック

項目	理由
① 魚介	・衛生面や安全面に関すること。
	・関東圏は多かれ少なかれすでに放射能の影響があるので食べるのはむしろ危険。そうでなくても、生活排水等で食べたいと思っても魚は食べない方がいいと思います。
② 食用植物	・衛生面や安全面に関すること。
	・関東圏は多かれ少なかれすでに放射能の影響があるので食べるのはむしろ危険。そうでなくても、生活排水等で食べたいと思っても魚は食べない方がいいと思います。

Eブロック

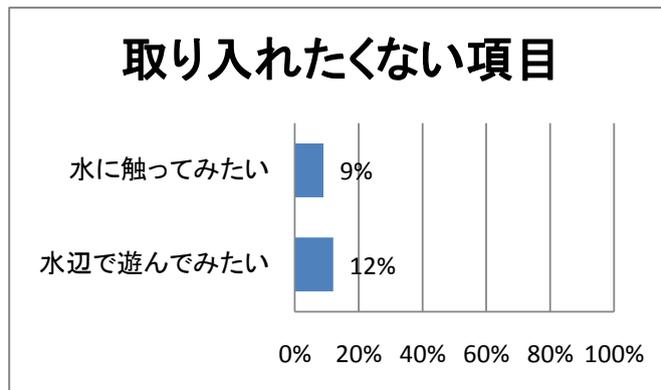
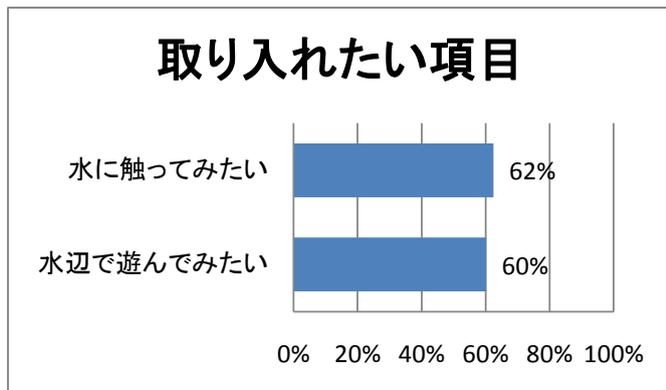
項目	理由
① 魚介	
② 食用植物	

Fブロック

項目	理由
① 魚介	<ul style="list-style-type: none"> ・採ったものをすぐ食べられるわけでもないし、誰が調理するのか。 ・指標にはなじまない。 ・綾瀬川を対象にした場合、この川で食べたいような魚と植物は、ほとんどないため。 ・特別な川だけの問題である。 ・汚染している。食用植物はない。 ・綾瀬川には該当しません。 ・健康面であり得ない。 ・水が濁っているのに食するには抵抗がある。 ・川に関するものは食べたくない、現在の状況では味わうのは危険である。 ・評価が大雑把すぎる。 ・魚介類は水が汚れていて食べる気にならない。食用植物はあるが水、川辺の汚れでその気になれない。 ・川が澄んでいないので口にすることはできません。 ・しっかりした機関で化学的に調査した魚を食すべき。 ・汚れた感じの水に住む(生きる)魚、これを捕獲して食べられる水質へ、きれいな水へ転換させたい。
② 食用植物	<ul style="list-style-type: none"> ・採ったものをすぐ食べられるわけでもないし、誰が調理するのか。 ・指標にはなじまない。 ・綾瀬川を対象にした場合、この川で食べたいような魚と植物は、ほとんどないため。 ・特別な川だけの問題である。 ・汚染している。食用植物はない。 ・綾瀬川には該当しません。 ・健康面であり得ない。 ・水が濁っているのに食するには抵抗がある。 ・川に関するものは食べたくない、現在の状況では味わうのは危険である。 ・評価が大雑把すぎる。 ・魚介類は水が汚れていて食べる気にならない。食用植物はあるが水、川辺の汚れでその気になれない。 ・川が澄んでいないので口にすることはできません。

5触れる

- ・触れる指標を設定するにあたり、取り入れたい項目と取り入れたくない項目について尋ねた。
 - 取り入れたい項目では、「水に触ってみたい」及び「水辺で遊んでみたい」が6割半ば
 - 取り入れたくない項目では、「水に触ってみたい」及び「水辺で遊んでみたい」が1割
- 【県全体の結果】

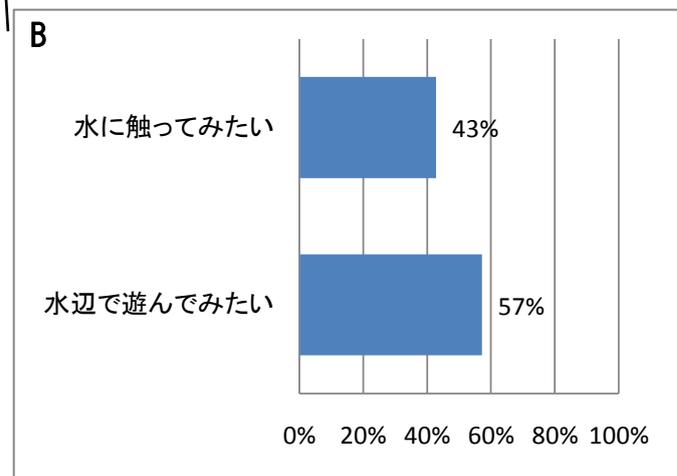
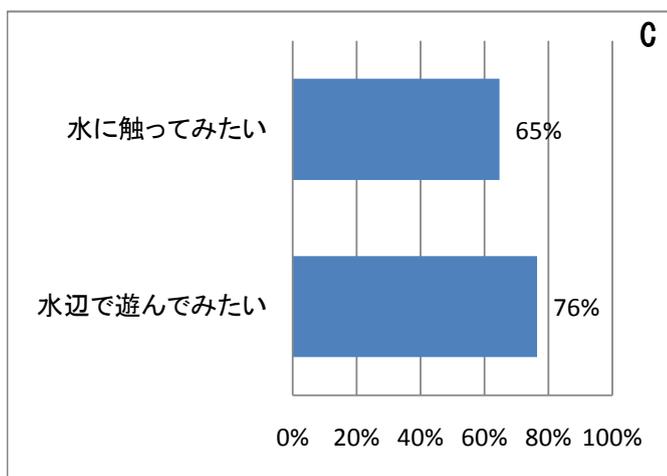
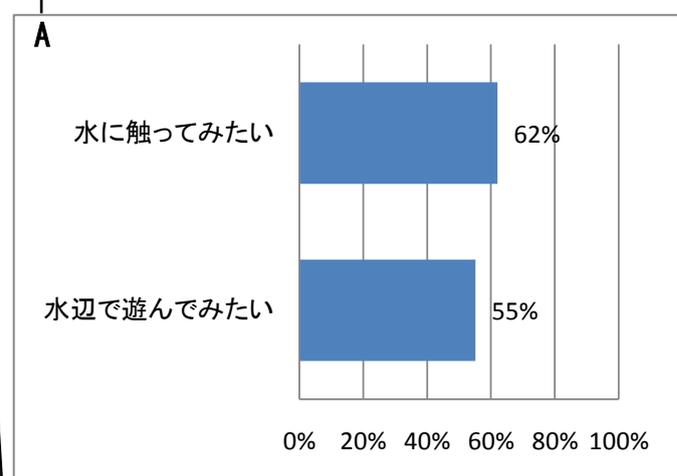
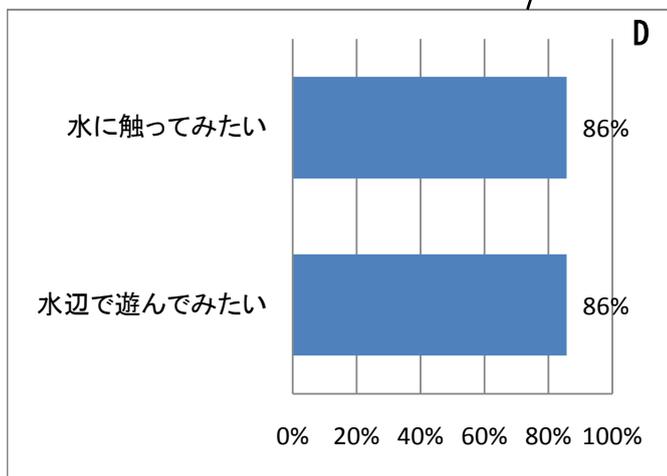
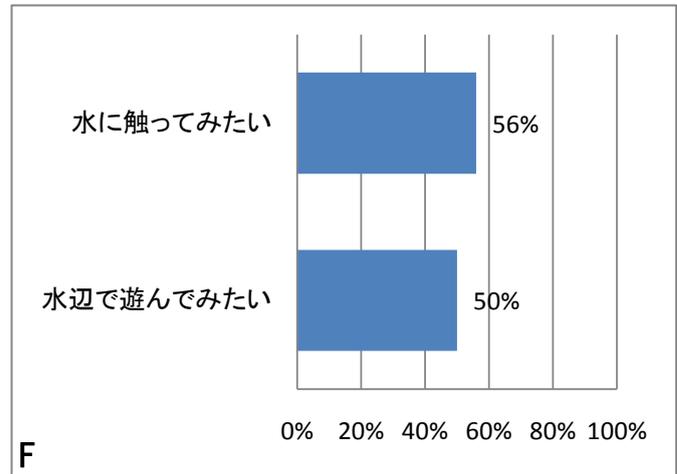
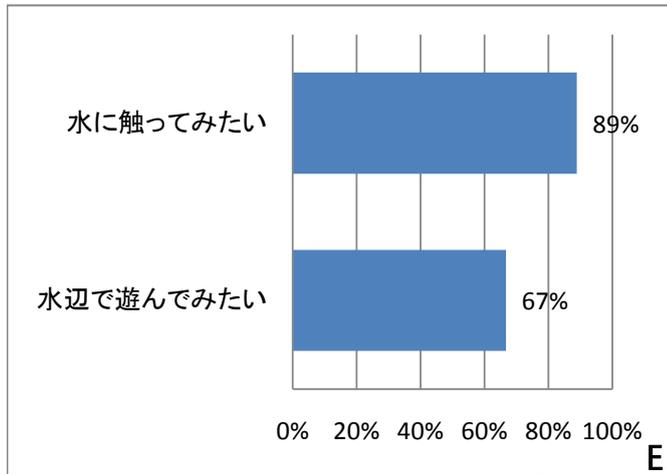


○その他取り入れたい項目

Aブロック	・〈遊ぶ〉以外に、学校の自然体験学習 ・〈遊ぶ〉以外に、学校や公民館の自然体験学習 ・水と水辺でどんな遊びがしたいのか。 ・水に触れられる河川構造かどうか。
Bブロック	
Cブロック	・水に入ってみたい ・泳いでみたい ・水に入ってみたい ・設間の中に河原(石ころ、砂利のある場所)の有無も重要なポイントと思われます。
Dブロック	
Eブロック	・安全性と親しみ(これを点数化できないか)
Fブロック	・川でボート遊びなど ・魚を釣る人の多少 ・水に触れられるような場所がもうけられているか、安全面を考えて設置されているか。 ・安全か否か(遊ぶにもこれが重要に思う)

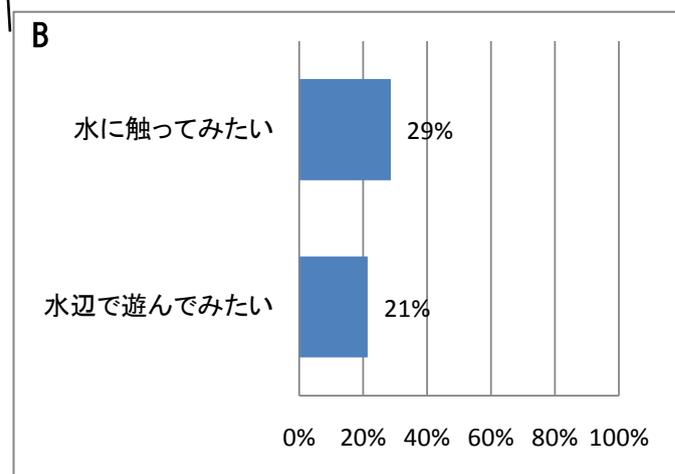
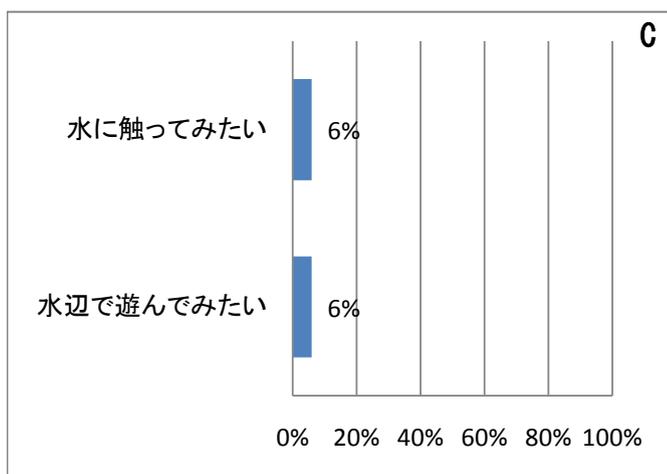
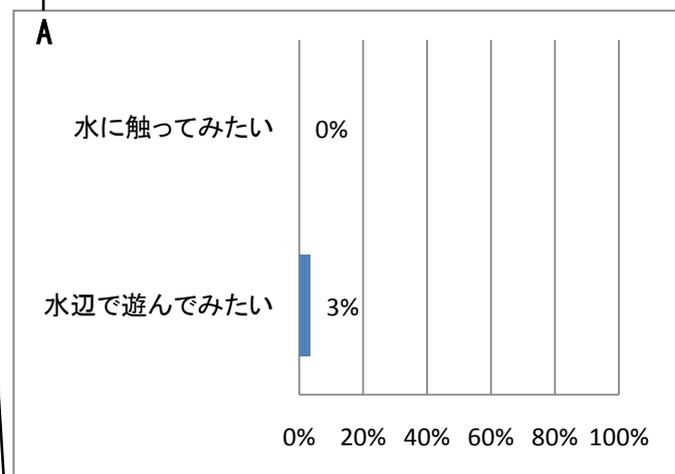
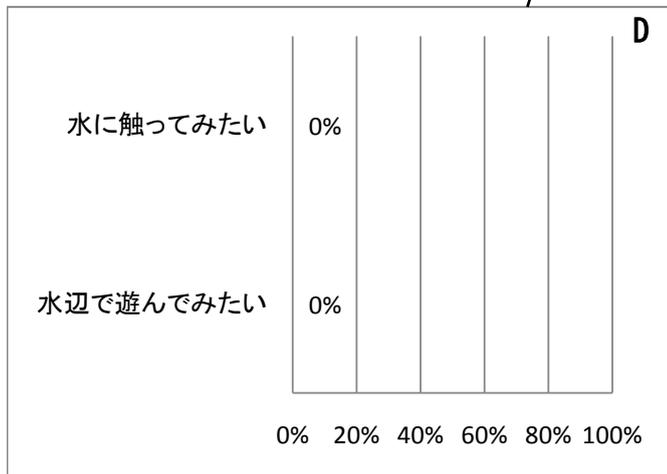
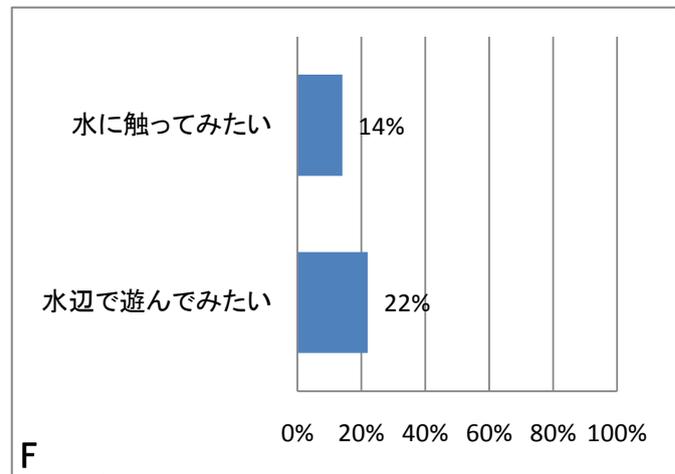
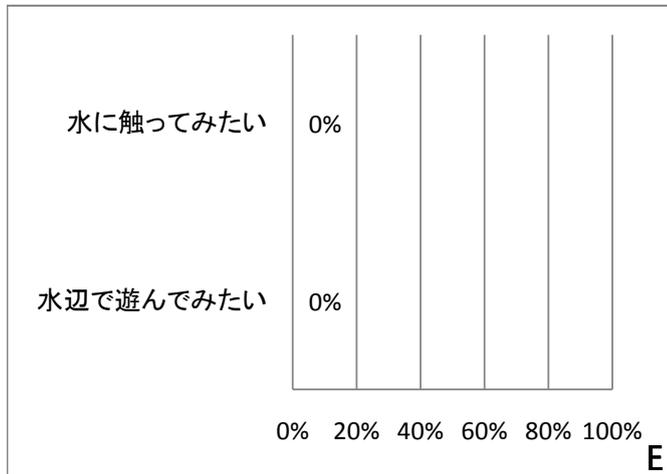
【河川整備計画のブロック区割ごとの結果】

①取り入れたい項目



全ブロックにおいて約5割以上が「水に触ってみたい」及び「水辺で遊んでみたい」を取り入れたいとしていた。

②取り入れたくない項目



D及びEブロックで「水に触ってみたい」及び「水辺で遊んでみたい」を取り入れたくないとした割合は0であった。

○取り入れたくない理由

Aブロック

項目	理由
① 水に触ってみたい	
② 水辺で遊んでみたい	・安全対策としてのネットフェンス、コンクリート護岸での整備→安全保護

Bブロック

項目	理由
① 水に触ってみたい	<ul style="list-style-type: none"> ・触れる環境にない。 ・川の良否は僅か2～300m程度のエリアの中では決められない。上流から下流までの川全体で判断することが重要。5分勾配のコンクリート護岸の川では川に降りることは困難。川の中で子供らが遊ぶことの可否は水質の化学的検査や大腸菌検査による判断が不可欠。(水に触れる程度なら前述したように水道水での手足の洗浄が必要) ・汚れがなくなるまで無理である。 ・子供の頃から地元の川や川辺に親しむことは大切であるが、これを指標化すると事故が起きた際に責任が持てないのではないのでしょうか。
② 水辺で遊んでみたい	<ul style="list-style-type: none"> ・触れる環境にない。 ・川の良否は僅か2～300m程度のエリアの中では決められない。上流から下流までの川全体で判断することが重要。5分勾配のコンクリート護岸の川では川に降りることは困難。川の中で子供らが遊ぶことの可否は水質の化学的検査や大腸菌検査による判断が不可欠。(水に触れる程度なら前述したように水道水での手足の洗浄が必要) ・子供の頃から地元の川や川辺に親しむことは大切であるが、これを指標化すると事故が起きた際に責任が持てないのではないのでしょうか。

Cブロック

項目	理由
① 水に触ってみたい	
② 水辺で遊んでみたい	

Dブロック

項目	理由
① 水に触ってみたい	
② 水辺で遊んでみたい	

Eブロック

項目	理由
① 水に触ってみたい	
② 水辺で遊んでみたい	

Fブロック

項目	理由
① 水に触ってみたい	<ul style="list-style-type: none"> ・水に触って楽しむような川ではない。 ・1見る(1)川の水～(3)川の水と水辺の調査から判断できる内容ではないのでしょうか。 ・危険なので、川状況によると思う。 ・水辺に近づけないため触ることすら難しい。 ・大雑把すぎる。 ・今の状況は取り入れるような環境になっていません。 ・「①水に触ってみたい」は「②水辺で遊んでみたい」に含まれるのでは。
② 水辺で遊んでみたい	<ul style="list-style-type: none"> ・河川としては大きいので、水辺に近づける場所はない。 ・「みたい」ではなく、散歩や釣り人がいるという表現の方がよい。 ・川辺で遊べるような環境が全くない。 ・1見る(1)川の水～(3)川の水と水辺の調査から判断できる内容ではないのでしょうか。 ・危険なので、川状況によると思う。 ・遊べる環境ではない。 ・大雑把すぎる。 ・ウォーキング、サイクリングはできるが遊べる広さがない。 ・水質と護岸との密接な関係がある。水がきれいでも階段などあれば。しかし今は無理だろう。

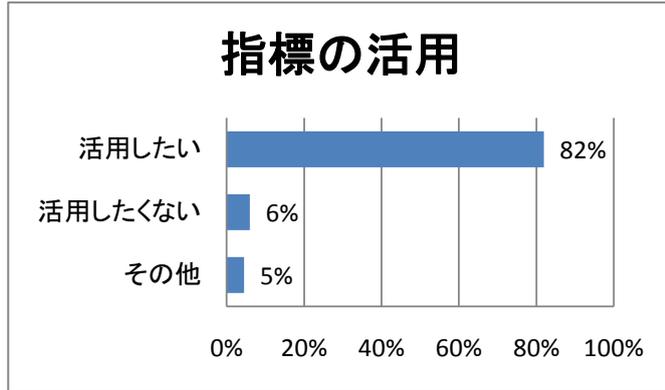
(3) 指標の活用

・指標を設定した場合、活用したいか、活用したくないかについて尋ねた。

→「指標を活用したい」が最も多く8割

【県全体の結果】

※全てのブロックで県全体の傾向と同様であるため、「河川整備計画のブロック区割ごとの結果」は省略した。



○活用したい

	理由
Aブロック	・具体的のどのようなものか分からないがトライしてみたい。
	・いつも川を観察しているので、指標を活用して河川環境の推移を把握したい。
	・指標を設定することで河川の未来図を描くことができます。河川環境改善のためにも必要なことだと思います。河川の整備だけでなく湿地や田んぼを増やすことで、より良い自然環境になり、埼玉県が生態系豊かな場所になると思います。
	・五感を使った指標は多くの方にわかりやすいものとなるから。また、活用することで、より良い指標となることを期待しているため。
	・多くの市民に現状を身近に感じてもらうため。
	・これからの川の存在は、地域の生活環境にとって大切な要素であり、現状はどうであれ、指標に向かって一歩でも近づけるような努力を、行政と市民が協働して実現すべく最大の努力を傾注していかなければならないと考えます。
	・河童が住みたくなるような川になってほしい！ そのためには少しずつでもきれいになってほしいので、見守っていく指標としたい。
	・川の水については水質検査、水辺については動植物調査などがあるが、におい、音、活動、遊びなどの面で指標はなかったのが、多様な興味深い側面より川を調査できるからです。
	・旧芝川で活動している団体ですが、上流(オートレース場)に比べると水質が悪くなっています。流域では各団体が活動していると思います。今後、水質が改善されていくようになるのを見ていくため。水質改善の取り組みは日常の生活排水など、対策が非常に難しい面がありますが。
	・定期的に観察しているので。
	・活動の幅が広がる、子供たちへの意識付けになる。
	・全体の方向性もわかれば、どうしたいかが見えてくるはずです。
	・初心者への説明には役に立つと思うから。今回のアンケートの内容では少し不安を感じる。どのような河川環境を目標としているのかがよくわからない。目標がはっきりしないと指標は示せないのではないかな。
	・イベントの時などに。
	・BODは否定しないし、数値として分かりやすいが、見た目で判断できるのも良い。私はこれまで見目で説明してきた。
・新しい取組で、活用したくなる指標が出来ることを期待します。	
・BOD(生物科学的酸素要求量)などの数値よりも五感での測定が一般一市民には理解しやすい。目、耳、鼻、手、ほっぺたで感じる事を科学的な言葉、問いに整理したり、アンケートを整理する段階で問いを見直す必要あり。	
・身近な河川と指標とを比べてみたいから。	
・誰でも気軽に浄化活動に参加できるように。	
・ただし、完成した指標が水土里ネット見沼代用水(農水)に活用できるかの判断が必要。	
Bブロック	・これらの指標も活用したいと思いますが、BODという指標がわかりづらい、実感がわかないというものでもないと思いますので、BODという指標をやめてしまわない方がよいと思います。わかりやすい指標をと考えているのにスケールが均等でないものもあり、わかりにくくなってしまったようだ。
	・ステップ目標を定めて計画的な活動を考えております。
	・水に触ってみたいとか遊んでみたいとかという感覚がBODより一番分かりやすいと思います。
	・活用したいが、活用のしかたについては、各河川ごとに状況が違うので、結果を全体でひとまとめにするのは検討が必要だと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・河川工事の際に、この指標を活用してほしい。河川の拡幅工事の際に土手にある樹木を伐ってしまったたりすることが多いので。 ・今後の活動の目安になる可能性があると思います。 ・ある程度信頼性があり、外洋がイメージできるものであれば部分的に活用したい。測定場所や方法を統一したCOD測定等はあるのもよいと思うが。 ・多様な指標で評価することで、より実態に近づけるので。 ・興味深い指標作りと考えます。ただし、五感には個人差があり、横断的、時系列的な比較に耐える工夫が必要と感じます。
Cブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な川が県内でどの辺に属しているのか知りたい。 ・当会の趣旨は、小畔川の自然探検を通して子供の生きる力を育むと共に、川の美化活動に努めることから、県で指標を設定された場合、活用したいと思っております。彩の国水すましくラブの活動に協力、参加ができず心苦しいところですが、今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。 ・代表的指標であるBODによる評価の補足としての活用は、里川づくりの成果を実感する目的としては有効であると考えため。 ・①大人だけではなく、小学校低学年の子供達も日常的に身近な河川についての潜在意識を探る、知ることができる。 ・②河川に関心のない方々へのアンケートなど設問のしかたがシンプルで分かりやすい。 ・③全県水系マップ上にCODなどの数値評価を区分するより、県民が直感的に何を感じ取っているかの地域格差や分布などを知ることができる。 ・高麗川が清流であることが広く周知できる。 ・人との話が具体的になる。 ・五感を使って川を調べると共に身近な自然観察をしながら川と親しむことができる。 ・河川を共通の基準で調査し記録する。 ・NPOとしての環境学習や地域住民とのふれあいの場所としての情報提供など。指標によって住民の興味(感心)が高まる。 ・誰もが使える簡単な指標であれば川の評価に活用したい。 ・活用できる物であれば率先して使いたい。
Dブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を表す指標となると思われるので活用したい。 ・日野沢川環境について現状を知ることができるため。 ・水質の問題ないと思われるが念のために。 ・川辺で私たちは育ちました。水泳、魚取りなど…。川で遊んで自然とのふれあいは必ず良い結果がでます。水の怖さは避けるのではなく中に入って危険は体験して覚えるもの。 ・活用したいという気持ちはあるが、新学習指導要領の実施により「総合的な学習の時間」の減少で、昨年度までのような活動が今年度はできなくなっている。 ・適切なものであれば是非活用したいですが、今回のアンケート内容はわかりづらいものが多いです。 ・実際の数値として確認することができるので、誰にでもわかりやすく説明しやすくなるから。
Eブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、味わうなど、これまでに無かった指標は興味を引くと思われるため。 ・川への関心が高まる。 ・私たちの母なる小山川ですので参考にしたい。 ・緑豊かに魚が住み、鳥がいる環境にしたい。 ・年6回の清掃活動の指標としたい。 ・川は生活に身近なものだから活用したい。 ・河川の状況はそれぞれ異なると思いますが、一つの目標的になるので使用活用したい。
Fブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の安全性、水辺の教育、環境教育、社会教育、動植物保全、人間教育等に役に立たせたい。 ・五感で水を感じ、きれいだと理解できる子供を育て、川で遊べるとわかってもらいたい。地域住民に川をもっと近く感じ、癒し空間として利用してもらいたい。 ・指標を設定した場合に指標に従って行うとやりやすい。今後の活動に役立てたい。 ・河川環境を評価する上で、指標設定はありがたい。河川が動植物との共生にどう貢献できる状況か等についてチェックしていきたい。 ・多くの人に、この指標なら分かりやすいというものが出来たら活用したい。 ・河川の健康状態が絶対的に評価可能となり、今後の改善/健全化計画が立てやすくなるため。 ・確かに、BODやCODだけで水の評価をするのはいかがなものかと思う。ただ、これによって指標を決めたからといって河川の大きさによってできることとできないことがあるので、その辺のところを調整してほしい。 ・指標がきちんと水の評価に耐えうるなら活用してみたい。 ・一部の地域でもよいから、川に触れ、自然の豊かさを感じるような川に近づけたい。 ・当会は発足した当初から河川の浄化活動に取り組んでいます。毎月第3土曜日には定例のごみ拾い、毎月第2水曜日は水質調査を実施しています。 ・元荒川のきれいになった様子を段階的に確認するための指標としたい。 ・心の里川にしたいから。 ・収集したごみ量を概略記録している。

<p>・関わっている川が埼玉県以外の川とどの程度の位置づけか相対比較するには指標(基準・定義)が不可欠。指標づくりは難しいが、ないとあまり意味がない。</p>
<p>・活用したいけれど、本クラブではpHやCOD等も加えて実施することになると思う。指標には入っていないけれど、調査時の天候も必要と思う。</p>
<p>・川の指標について、川の中の水草、魚、虫、鳥等がいる状態の良い悪いによってこの川の指標がわかるようにしていったら良いと思います。</p>
<p>・具体的に結果が分かるのでよいと思います。川の整備によって子供は無理な所もあるので安全を考えたい。</p>
<p>・指標を作らないと目標が出来ぬ事。都市河川と他の自然の多い河川との指標は全く異なると思いますので、河川の種別によってのガイドラインがあっても良い。</p>
<p>・まだよく分からないが。</p>
<p>・川辺が整備され楽しめることを地域住民に一人でも多く知ってもらい、元荒川をきっかけに、きれいなまちづくりやコミュニケーションができるようにアピールできる、わかりやすい指標ができると思います。</p>
<p>・”海ナシ県埼玉”の”山もナシ市越谷”。川だけが自然の大切さを提示してくれている。すさまじいコンクリート化が進む中、人々は小さな箱の中で呻吟している。川とその河川敷の中だけでしか自然の息吹を感じる事ができないほど追い詰められている。大きく息を吸い込む場所であってほしい。</p>
<p>・感覚的指標は多くの人に理解しやすいと思うので。</p>
<p>・五感で感じた事を数値化して指標としたい。野外での判断が用具がなくてもできるようにする。</p>
<p>・水質分析を行わなくてある程度の評価できることは良い方法と思われるから。</p>
<p>・川を浄化し自然環境をよくし将来のきれいなまちづくりを考える。評価できるので。ただし、個人差の問題は残る。活動している川は環境としては極めて悪い。住民の意識が低いのが大きな原因の一つである。</p>
<p>・分かり易い、子供でも理解できる指標があればよいと思う。河川の浄化に大いに役立つ。</p>
<p>・清らかな水辺は何とも心地よく、人の心をなごませるものです。豊かな自然があつてこそ、人々の生活も潤うものと考えます。</p>
<p>・水辺で遊びたいし、遊ばせたい。</p>
<p>・水辺の生き物調査の指標に一部導入したい。</p>
<p>・一般にわかりやすい指標があると便利だから。</p>
<p>・活用したいようなものであれば活用したい。</p>
<p>・わかりやすい指標があると便利。</p>
<p>・現在の表現方法では一般の人は理解できず水質に関心がなくなる。より関心を持ってもらうには、もっと分かり易い表現にする必要があり、今回の調査は非常によいと思います。早めの実施を希望します。</p>
<p>・この指標を幸手市にもお知らせ頂きたいです。美しい倉松川を取り戻す為、県の御協力をよろしく願いいたします。</p>
<p>・同じ指標で見ることで取り組むべき活動がはっきりとし、どうすることが大切か、方向性が見える。</p>
<p>・どこの川がどんな状態の川なのか客観的にわかるので。</p>
<p>・①は望ましいと考えますが、多分客観的指標が多い要素になるので、「BOD」等も併用し、証明可能な客観データも必要と思います。</p>
<p>・数値でないと人によって判断が異なる。その辺のバラツキをどうそろえるかが重要。</p>

○活用したくない

	理由
Aブロック	・毎週日曜日(雨天中止)公園清掃と同時に河川に行き、パトロールを行いながら拾い掃きを行っています。単なる清掃に協力しているだけで、大人はあまり水に対して遊んで楽しむ事に気が向かない様です。
Bブロック	・今回のアンケートで示された項目だけで作られた指標を県下の全河川に適用することはできない。むしろ、現段階でこのような指標を示されると誤解を与えることと思われる。 ・小さい河川と大きな河川とでは指標の違いがあるのではないか。
Cブロック	・この指標では活用は難しいと思います。項目立てから再検討をお願いします。
Dブロック	
Eブロック	
Fブロック	・学校の教員の頭がかたい、安全性を考えていると同じに親子さんに気をつけている、危険の場所はさけている、協力する力がなくなる。 ・ボランティアとして過剰な負担になり、会が存続できない。 ・我々の関わる川は公園内につくられた約60mの川です。だから水すましクラブの活動とは少し離れた川です。人工の川なので(地下水を流している)趣旨に添わないので申し訳ありません。

○その他

	理由
Aブロック	・わからない。
Bブロック	・何とも言えない。
Cブロック	・評価者は県民か、専門家か、行政かにより全く異なるので、そこを聞いてから判断したい。 ・結果を見ないと何とも言えない。
Dブロック	・水は常にきれいで、指標を設定する必要性がない。
Eブロック	
Fブロック	・護岸堤部の美化活動はこまめに行われており粗満足であるので、今後は河川部に力を入れたい。

(4) 指標に関する御意見

No	御意見
1	・川洲の木まで切れカワセミなどの小鳥の止木が無くなり一時姿を見かけなくなりました。営巣の場所の確保も必要だと思います。
2	・野鳥が飛んで虫を食べるので、もう少し桜の木又は川の雑虫を食べにカモが来ればと思います。 ・子供たちに遊んで川になじんでもらいたい。 ・小魚がもう少し多く来れば楽しいと思います。現在、ボラが来ています。
3	・1見る(1)川の水の②魚③鳥④虫は種類ですか、ただの数ですか。 ・2聞くについて、水質が改善されれば心地よいと思いますが。
4	・「縦川」は都会の川で下水の排水河川と考えている。汚れ、水質、全て改善の対象となるようで、アンケート内容は混乱するのみで対象が違うようである。また、岸辺に降りることができない。
5	・2聞くの周辺の音はどんな音がするのかは「水と水辺」の音と別にしたほうがよいのではないかと。不快な音とは工場、高速道路など別の音と思う。 ・3嗅ぐについて、水と水辺のにおいは別にしたほうがよい。周辺のにおいもあると良い。
6	・「川の浄化活動」とは水質浄化のことなのか、どんな活動をいうのかよくわからない。 ・「聞こえる音」と「におい」は、もう少し具体性があったほうがよい。
7	・1見る(1)川の水の②魚③鳥④虫⑤水中の植物は数か種類か。量ではなく種類の数で表すのがよい。
8	・1(3)川の水と水辺の②:浄化と清掃、清掃はしているが浄化はしていない。 ・4味わうの①、②:願望としては食べてみたい。 ・5触れるの①、②:願望としては触ってみたい、遊んでみたい。 ・魚、鳥、虫、植物はたくさんある程良いのだろうか。量より質、内容で評価すべきと考えます。
9	・臭いは大切なので評価は具体的に。うんちくさい、ドブ臭い、目にしみるような臭い。 ・4味わうについて、食べなくとも問いは必要です。 ・5触れる②水辺で遊んでみたい については、足を川に入れる、体ごと入ってみるとする。 ・10年程前にアメリカの環境教育に参加して、目、耳、鼻、手、ほっぺたのペーパーが渡されて、1時間くらい歩き回って、ペーパーに記入して、全員で発表して評価するものです。「感じたこと」は基本になります。 ・BODは基本的に必要ですが全てを代表するものではない。DO(溶存酸素)が水質改善には決定的役割。
10	・以前、河川浄化に対しガマ、クンシン菜、炭素繊維等投入し水質を良い方向に皆さんで協力し、良い水質にしました。埼玉県知事に感謝したのです。小魚が多く見受けられるようになり、カワセミ、釣り人、写真を撮る人等、河川も賑わいを見せました。昨年、近所にある製紙会社と思われる排水により炭素繊維にろ過しきれない物質が付着し微生物がいなくなったと思われまます。大金を投入し環境を良くしたのに残念でなりません。汚れを落とすのに予算を組まないとならないようなことを前任者に聞いたことがあった。行政で排水された会社に対応させることが出来ないか、今後町会で協力できることは河川の清掃ぐらいです。現在、毎週日曜日、河川(受持区域)の拾い掃きを行っている。
11	・2聞くについて、例を挙げてもらわないと分からないくらい川の音以外の周囲の雑音が多くなってしまっている。
12	・川越市市有地の伊佐沼公園他でのイベント開催後のごみの放置について川越市要望するが対応しない。 ・川に親しむ場所が確保されていない。危険場所が多い理由なのか地域住民との意見交換したい。 ・生息(生態)を安全な環境に戻したい。 ・河川に入るには安全の場所を確保することが条件です。
13	・BODは国際的水質環境基準であり、一番わかりやすい指標だと思う。 ・ごみをなくし生活排水処理施設整備が進めば自然は戻ってきます。県の役目は兵庫県のように県が主導で各市町村と協議し何処にでもムサシトミヨが棲める水環境を創出する事だと思います。そうすれば人工のビオトープを造らなくても全体がビオトープになります。
14	・4味わう②食用植物について、食用植物はクレソン、ミズ(ウワバミソウ)などありますが、普通の人には難しいのでは。
15	・3嗅ぐ、4味わう は1見る(1)川の水(「水の様子」)に移動。
16	・今回のアンケートは、私共の活動している事と内容的に合いませんでしたが、とりあえずお答えしてみました。 ・この鶴沢には昔からゲンジボタルが出ておりましたが、最近では数が少なく、もっとホタルの舞う地にしたいたいと思い、この鶴沢にそって別ルートの流れを人工的に造り、ここでホタルのエサになるカワニナを育てているわけです。この場所は昔、ごみの不法投棄が問題となっていたところですが、これをきれいに整備し、別紙写真のよう、セセラギをつくっています。

17	<p>・BODの測定の場合もそうですが、年間を通してなのか、例えば、春の時期に限定するとか、評価する時間帯を何処に定めるのか等、評価の基本的な基準がないと困ります。昨年と比べることなく、多いとか少ないとか論ずるのでは、成果の判定には結びつけられないかもしれません。</p> <p>・どの川の水が一番汚いとかきれいとかランク付けがなされていますが、こうした論調から脱皮して、自分たちのそれぞれの活動場所が、確実に改善されていく喜びに素直に浸れるという状況をつくるのが大切です。</p> <p>・今回の評価項目や川のイラストから、作成者は、川幅がある程度大きな川を思い描き、実態を色々な観点からみようとしているようですが、そもそも、五感に分類して考えることに無理はないでしょうか。</p> <p>・悪臭がある川は、散乱しているごみが原因なのか、水そのものが臭うのか、目で見ながら判断するものですし、触りたいかどうか目を見て判断します。一方、鳥のさえずりだけで姿が見えなくとも小鳥が多いか少ないか判断できます。また、味わいたいかどうかは、視覚や臭いから判断するもので、岩清水を飲みたいかどうかならともかく、魚などを味わいたいかどうかという聞き方にも無理があります。</p> <p>・つまり、五つの感覚の集大成から、水環境の良し悪しを判断するような問いかけの方がより適切だと考えます。</p> <p>「川面に水鳥が浮かんでいたり鳴き声がしていますか。」 「水辺に立つとあたりに野鳥のさえずりが聞こえますか。」 「水の中にゴミがあったり、水面にゴミが浮いて流れていませんか。」 「水のきれいさはどうですか。水底が見えますか。」 「水に入って遊びたいという気持ちになれますか。」 「水辺に立つと様々な音が心地よく聞こえてきますか。」 「水辺の景観をバックに写真を撮りたくありませんか。」 「魚が泳いだり飛び跳ねたりして、魚が多いと感じられますか。」 「落ち込みに泡が浮かんでいて生活排水が流れ込んでいると思われませんか。」 「川面に油が浮かんでいて、工場排水などが流入していると思われませんか。」 この場合は、次のような選択肢となるでしょう(大いに考えられる、考えられる、少し考えられる、全く考えられない)。「水辺の草むらや灌木には沢山の虫たちがいますか。」 「水辺にゴミが散乱して見苦しい状況ではありませんか。」 「あたりにいやな臭いが立ちこめていませんか。」 「水辺にいつまでも居たいという気分になれますか。」等々</p> <p>・たくさんあるという選択肢ではあまりにも粗すぎて答えるにも苦慮しますし水質の状況は把握できません</p>
18	<p>・1見る(2)川の水辺②虫について、川辺周辺となると大変なので、逃げてしまう場合あり、正確ではないかもしれない。</p> <p>・1見る(2)川の水辺①鳥及び④ごみについて、水の中にある(いる)場合、川辺にある(いる)場合の両方あるので、どちらか一方に。</p> <p>・3嗅ぐについて、においを入れるのはいいですが、水にはもともとにおいはなく、香水のようなにおいがあるれば、それはせんざいのにおいなので、むしろ悪いです。評価の言葉が適切と思えません。</p> <p>・5触れるについて、触れることでその川の様子が変わるので、大いに触れるべきだと思うので団体の立場では多少汚くても触ってみてもよいとなるが、個人的には触りたくないという川もある。</p> <p>・評価の言葉があまり適切でないようで、どこにもあてはまらない場合あり、選ぶのに苦労しました(「心がなごむ」「何も感じない」主観的すぎて、あまりにもとっぴです)。単純に5段階とか、横軸にA～Eをプロットする形の方が答えやすかったのでは。</p>
19	<p>・企業などへの排水に関心を持たせる。寄居町から上流部のインフラが整っていないので、大雨などが降ると汚い汚水を流す工場、会社、酒屋が多いので一部の小河川から非常に臭く汚い水が流れる。</p> <p>・私自身の場合、ほぼ毎日川を見ているのでアンケートの内容に対してグチのようなことを回答してしまい、他人から実際はそんなにひどくない！と思われる意見が多いと思う。全ての項目を活用してみたいと回答しましたが実際できるかどうかは…。アンケート内容に関しては、なんてお答えしていいのかわからなかったので、漁協関係者として偏った目でお答えしてしまい、多数派の意見ではないでしょうが、これで、県でお役に立てるのであれば幸いです。きれいで、たくさん魚、水中の植物、生き物が捕れて、安心して食べられる環境を頑張ってつくっていきましょう！私にできることは今後もお手伝いいたします。</p>
20	<p>・庭石程の大きめの石を所々において、魚の住みやすいようにすると良いと思います。</p> <p>・堤防の土手に土地にあう花類を植えて四季を通して楽しめるようにするとよいと思います。</p> <p>・十二天橋、見馴川橋、上宿橋にアーチを作って景観を考えていただければと思います。</p> <p>・小山川にはクレソンがあります。水がきれいであれば食べてみたいね。</p> <p>・水が流れないところがあるので上流から下流まで流れるようにしたい。</p>
21	<p>・川の水を含んで安全か？(基準)</p> <p>・野鳥等が安心して集まることができる遊水池があるか？(動物等への安全度)</p>
22	<p>・5触れるについて、①水に触ってみたい、②水辺で遊んでみたいは指標に取り入れたいが条件がある。水に近づけない場所もある、遊べない場所もある、この場合はどう判断するのか明確にしておく必要がある。</p>
23	<p>・多目的調整池の取水口を設置して池の水の動きを取り入れてほしい。深作川については現在、ヘドロ等除去作業実施中なので現況と変わると考える。</p> <p>・水の流れ、通年流れがあるようにしてほしい。</p>
24	<p>・植物を豊かに、心がなごむ川にしたい。</p>
25	<p>・水中に手を入れ埋もれたごみを掻き出している。</p>

26	<ul style="list-style-type: none"> ・指標として取り入れて河川間で相互比較するのなら、もう少し指標、基準、定義を決めないと思えないと思う。例えば透明感は澄んでいる～濁っているといっても、濁りの評価は人の感じ方は様々、透視度で50以上→澄んでいる等の指標が要。 ・同じ川でも透明度、動植物など季節によって大分異なる、ゼロの場合はいいとして、多いとはどの程度？
27	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは川を仲立ちとしてコミュニティづくりをしているという側面も持っています。そんなところから五感による指標では少し物足りないような気がしました。うまく言えませんが、人がどう関わっているかというようなことかと思えます。 ・言い換えれば、五感だけでなく、六感目というかトータルにどう感じているか、五感～六感で受け止めた人がどのように川と関わっているか。「感覚」として受け止めたことからどんな感情や行動が表現されているか、という感じです。
28	<ul style="list-style-type: none"> ・2間くに関して、現状評価の表現を少し工夫したほうがよい。
29	<ul style="list-style-type: none"> ・1見る(2)川の水辺③川辺の植物について、外来種が多くあっても自然とは言えぬので在来種としたらよいのでは。 ・1見る(3)川の水と水辺③子供たちの遊びについて、水辺といっても人が近づける水辺がないため、子供たちが遊ぶのは不可能です。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の環境学習をしていますメンバーは気持ちよく参加、活動している。
31	<ul style="list-style-type: none"> ・川が子供が遊べる構造になっていない。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を調査、確認、市民と行政と情報を共有化し問題点を明確化、改善点・改善方法をPDSCサイクルでチームで目標達成に活用、生活排水一汚さない工夫をする。洗剤を使わない。住民のきれいにする意識(川の汚さを情報公開)、上流からきれいな水を流す、ポイ捨てできない柵をする、子供たちのごみ拾い(大人になってポイ捨てをしない)。
33	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、護岸堤部のごみ拾い清掃、草花植栽等の美化活動を行っているが、今後、河川部の清掃を行ったらと考えている。 ・堰を設け、せせらぎを設けたい。 ・昼は子供たちが楽しく遊び、夜はホテルの飛び交う水辺であってほしい。
34	<ul style="list-style-type: none"> ・1見る(1)川の水と(2)川の水辺の双方に鳥、虫、植物があるが一般の人には分かり難いと思う。
35	<ul style="list-style-type: none"> ・1見る(1)川の水①透明感は透視度〇〇cmなどと数値で表現する。 ・1見る(2)川の水辺④ごみは、ペットボトル、カン、びんの他わざわざ持ってきて捨てるものもあり、ごみの種類を調べて対策をねる。
36	<ul style="list-style-type: none"> ・2間くで自然の音以外は取り入れたくありません。 ・大人も子供も自然環境に関心を持ち、遊んで楽しめる川の水辺を望みます。